



CS研創立40周年記念誌

2025

私立大学キャンパスシステム研究会
Campus System Research Group of Private Universities

10年間のアルバム

※2020～2022年度はオンラインでの活動が主体となりましたため、
写真がありません。

分科会合同研修会



2016年度 長浜ロイヤルホテル



2017年度 信州松代ロイヤルホテル



2018年度 Royal Hotel 長野



2019年度 Royal Hotel 長野

※合宿開催は2019年度まで



総会 富士通 6月



合同研修会 長浜ロイヤルホテル 8月



第一分科会 山梨大学 6月



第二分科会 愛知学院大学 10月



第三分科会 玉川大学 6月



第四分科会 新有楽町ビル 5月



第五分科会 富士通 7月



第六分科会 甲南大学 6月



総会 富士通 6月



合同研修会 信州松代ロイヤルホテル 8月



第一分科会 信州松代ロイヤルホテル 9月



第二分科会 芝浦工業大学 12月



第三分科会 九州大学 6月



第四分科会 信州松代ロイヤルホテル 9月



第五分科会 富士通 7月



第六分科会 大阪工業大学 5月
The 40th Anniversary



総会 富士通 6月



合同研修会 Royal Hotel 長野 8月



教育システム分科会 大阪大学 10月



事務システム分科会 流通科学大学 6月



システム運用管理分科会 INIAD(東洋大学) 11月



図書館分科会 愛知大学 11月



大学経営・情報化戦略分科会 富士通 11月



次世代情報システム検討分科会 関西大学 7月
The 40th Anniversary

2019年度の活動



総会 富士通 6月



合同研修会 Royal Hotel 長野 8月



教育システム分科会 埼玉大学 7月



事務システム分科会 東京電機大学 7月



システム運用管理分科会 昭和女子大学 12月



図書館分科会 日本女子大学 12月



大学経営・情報化戦略分科会 富士通 8月



次世代情報システム検討分科会 龍谷大学 6月
The 40th Anniversary

2023年度の活動



教育システム分科会 共立女子大学 6月



教育システム分科会 芝浦工業大学 12月



事務システム分科会 富士通 6月



事務システム分科会 立教大学 12月



図書館分科会 東京学芸大学 12月



次世代情報システム検討分科会 富士通 9月

※システム運用管理分科会はオンライン開催のみ

2024年度の活動



Campus-Xs勉強会 富士通 6月



教育システム分科会 富士通 5月



事務システム分科会 立正大学 11月



システム運用管理分科会 東洋大学 12月



図書館分科会 富士通 12月



次世代情報システム検討分科会 立命館大学 1月



最新技術セミナー 理化学研究所 2月

目 次

巻頭言

私立大学キャンパスシステム研究会会長	大西 淳.....2
--------------------	------------

40周年記念式典風景

私立大学キャンパスシステム研究会40周年記念式典風景4
----------------------------	--------

寄稿

オープンネスの効用	阪井 和男.....6
振り返り ～ICTの限界と課題～	山崎 和海.....7
私立大学キャンパスシステム研究会40周年によせて	中村 正和.....8
私立大学キャンパスシステム研究会創立40周年に寄せて	中林 雅士.....9
CS研40周年にあたり	會澤 信.....10
得難い「場」としてのCS研	篠田 有史.....11
私の教育改革の原点：CS研で得た知見	惠藤 浩朗.....12
【共・協・強】からの今日 ～CS研への想い～	平石 泰介.....13
冷や汗から始まったCS研での学びの旅	中田 亮太郎.....14
CS研で得た学びー運営委員の活動を振り返ってー	乾 博智.....15
大学人の実践知の集合	湯浅 且敏.....16
いま振り返って思う	可児 光眞.....17
CS研40周年を迎え10年先のキャンパスは	鈴木 浩充.....18
これからも、ずっと大事なCS研	吉野 知義.....19
「CS研50周年に向けて」	井上 明.....20
CS研創立40周年に寄せて	三ヶ田 学.....21
CS研との出会いと感謝	山崎 恭輔.....22
CS研祝40周年	錦織 政晴.....23
いきなりのオファー	西 久美子.....24
CS研で深まった交流と自らの成長	玉瀬 篤志.....24
CS研での学び	佐伯 敦.....25

資料

2025年度会員校一覧	27
CS研40年間のあゆみ	28
活動実績一覧	39
海外セミナー一覧	96
情報戦略フォーラム実施一覧	97

あとがき

私立大学キャンパスシステム研究会副会長	田中 俊介	100
---------------------	-------------	-----

卷 頭 言

40 周年に寄せて

私立大学キャンパスシステム研究会

会長 大西 淳

(立命館大学)

私立大学キャンパスシステム研究会（略称 CS 研）は、1985 年 11 月、私立大学における富士通ユーザー会として発足し、本年度で創立 40 周年という大きな節目を迎えることとなりました。

CS 研は、私立大学を正会員、関連企業を賛助会員とし、大学で運用される各種システムの有効活用に関する研究と、会員相互の情報交換を目的に活動してまいりました。大学という枠を越え、「知の共鳴場」としての役割を果たしながら、未来を拓くための力を育む場として、着実に歩みを重ねてきました。

2025 年 4 月現在、正会員は 74 大学、賛助会員は 24 社にのぼり、活動の中核となる分科会も「教育システム」「事務システム」「システム運用管理」「図書館」「次世代情報システム検討」の 5 つに分かれて、年間約 18 回の研究活動を展開しております。

私が初めて CS 研に参加したのは、2015 年 6 月の総会でした。以来、副会長として 6 年間活動に携わり、2021 年 6 月の総会において、阪井和男前会長より会長職を引き継がせていただきました。

会長就任の年は、ちょうど新型コロナウイルスの影響が社会に大きな変化をもたらした時期でもありました。分科会合同の合宿形式による研修会や、対面での分科会活動といった従来の形式は困難となり、新たな運営形態の模索が急務となりました。そこで、研究会の今後のあり方を見つめ直すためのタスクフォース「Next CS 研」を立ち上げ、会員の皆様の声を反映するべく、複数回にわたるアンケート調査を実施いたしました。

調査結果からは、CS 研を通じた人脈形成や情報交換、現地見学への強いニーズが再認識されました。これを受け、ハイブリッド形式での分科会開催や、分科会報告等をオンライン配信する「Showcase」など、新たな活動スタイルを確立し、コロナ禍においても継続的な交流と学びの機会を創出してまいりました。

直近の 4 年間では、デジタルトランスフォーメーション（DX）や生成 AI など、時代の潮流を捉えたテーマを年間活動方針として掲げ、各分科会においてもテーマに関連したソリューションの紹介、事例研究、ソフトウェアの調査・開発、大学システムの見学など、意欲的な取り組みを進めてまいりました。その成果は、各種報告書として着実に蓄積されております。

こうして CS 研が 40 年という長きにわたり発展を続けてこられたのは、ひとえに会員の皆様、OB・OG の皆様、そして事務局の皆様の支援とご協力の賜物です。あらためて心より感謝申し上げます。

これからの CS 研が、変化の激しい時代においても、学びと連携の場としてさらに価値を高め、次代へと継承されていくことを願ってやみません。今後とも、皆様の変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

40周年記念式典風景

CS研創立 40周年記念式典

2025年6月6日に品川プリンスホテルにて「CS研創立40周年記念式典」が行われました。

本日の司会を務めさせていただきます。
もう役職定年でして、CS研の方も隠居仕事のようにお手伝いさせていただきます。

鈴木 浩充幹事
東洋大学鈴木システム運用
管理分科会幹事
による司会進行

コロナ禍で分科会も対面で出来ない時期がありましたが、このように直接お会いできるようになってよかったです。

大西 淳先生
立命館大学大西9代会長による
乾杯の御発声

田中新CS研会長よりご挨拶

CS研10代会長を拝命したばかりですが、以前は人生50年と言われてましたが、最近は80年なんです。私、情報屋なもので、すぐに16進で数えてしまっ、そうすると私の年齢は42なんです。まだまだ不惑なので脂がのってます。これから皆さんと一緒に頑張ります！

田中 輝雄会長
工学院大学CS研
創立

徐IS研会長よりご祝辞

CS研40周年おめでとうございます。この40年の歩みは情報教育、情報化を模索する時期で、大学は次世代の高等教育による世界的な変革を迷わずに進めることが期待されています。CS研、SS研、IS研の枠組みを超えて、更なる成果を生み出していきましょう。

徐 浩源先生
横浜国立大学

富士通Japan 松本様よりご祝辞

私は異動してきてまだ2ヶ月なんですが、皆さんが自身で企画・運営しているのに驚いております。また各大学の枠を超えてヒューマンネットワークを構築しているのも凄いなと思ってます。この研究会の更なる発展を支援していきます。

松本 晃典様
富士通Japan

OB 山崎様よりご挨拶

最近では専門家の限界を感じてきています。技術問題が技術だけでは解決出来ない時代になっていて、価値観が見えなくなっています。CS研の活動を通して人間力に着目してもらいたいと思っています。

山崎 和海元副会長
立正大学

OB 阪井様よりご挨拶

この数年で色々な出来事がありましたが、それを乗り越える創造性、イメージーションがあってこそ、今後のCS研の発展に繋がると思います。40周年おめでとうございます。

阪井 和男先生
明治大学

OB 齊藤様よりご挨拶

本日披露いたしますのは、10周年と20周年の記念の升です。CS研はメーカー、大学職員、大学教員が力を合わせてきたから、ここまでこれたと思います。ぜひ次の10年にも期待しています。

齊藤 剛先生
東京電機大学

事務システム分科会

可児 光真幹事
清泉女子大学システム運用
管理分科会白川 晃大幹事
立正大学次世代情報システム
分科会島崎 一彦幹事
専修大学井上 明幹事
大阪工業大学

OB 山崎様よりご挨拶

30周年記念誌に「CS研で培った共同の精神が皆さんの心のインフラになることを信じて止まない」と書いたんですが、CS研の活動が、まさに今、皆さんの精神の支えになっていることを確信しています。

山崎 達朗元副会長
元芝浦工業大学

図書館分科会

吉野 知義幹事
神田外語大学

会計監査

川上 優会計監査
立正大学會澤 信会計監査
東海大学

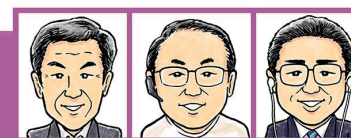
小林CS研副会長による中締め

40年前にAI技術が生まれ、それが時を経て今完成に近づいてきています。それらも先人の知識を元に新しい発見とか、研究を進めてきたからです。今は、どの分野の発展も速いですが、いかに本質を見失わずに成果を積み上げられるかが今後重要ではないかと思います。これからもCS研へのご協力をお願いします。

小林 幹副会長
立正大学小林先生！
一丁締めも
お願いしますよ！えええ！
聞いてませんが！では、人生初の
一丁締めですが、
ご唱和ください！お手を拝借
50周年まで、CS研
頑張っていきましょう！

●30周年から引き続き「すべしやるオンラインインタビュー」

田中さん、會澤さんには30周年の時にもインタビューをお願いしましたが、今回は可児さんに加わっていただき、この10年の出来事を振り返っていただきました。



——30周年からの10年はいかがでしたか？

【田中】10年前は「学生とデジタルの付き合い方」を心配していましたが、現在は情報・デジタルの進化は我々の生活から切り離せないものとなって、大学としてもITやDXへの期待は大きいです。

【可児】私も情報やコンピュータの関係で憂慮していた部分もありましたが、予測もできなかったコロナ禍があったりして、違う方向から考えさせられた部分が大きかったです。ただ、大学の「学び」って昔も今もそんなに変わらないのかなとも思います。

【會澤】いくつかの震災・復興があり、大学が自前でどのようなシステムが必要と考えている最中、突発的に発生したコロナへの対応が始まりました。大学が行った新しい情報環境での学生への対応は、大学にCS研発足当時の活発さが戻ったような気もしていました。

——コロナが大学、学生に劇的な影響をもたらした訳ですが、その対応で印象的だったことは何でしょうか？

【田中】当時、図書館の業務でしたが、学生が図書館を使えないのは大変な事態で、「図書館の概念」から考え直さないダメだなと思いました。ただ、大学はなるべく早く対面に戻そうという方針でしたので、それを目指したサービスを準備するようにしました。

【可児】うちの大学では2020年に向けて学生支援の部署の立ち上げを準備していたタイミングでコロナが始まり、偶然ですが適切に対応することが出来ました。教室の設備も数年かけて刷新中だったので一気に完成させ、オンラインの授業にも対応できました。

【會澤】私の大学では、どうにか2ヶ月強で学生、教員の全ての授

業の環境をLMS上に作り上げて、授業はオンデマンドやオンラインでできるようになりました。先生方は工夫をし、学修が停滞しないように取り組まれていました。学生、保護者、教職員も含むポータルサイトの利用もこの時期に浸透していったと思います。

【田中】理系は色々実験をしなければならいのですが、さすがにそれは無理かなと思われたことでも、先生方が動画や資料の工夫や、実験に代わる教材などで授業を進め、また学生自身も事前準備、オンデマンド授業の受講とその復習とかなり充実した学習を進められていたようです。

——10年後は創立50周年となりますが、次の10年はCS研にとってどんな10年になるでしょう？

【田中】私も會澤さんも昔を懐かしむ世代になっちゃっていて、今も楽しいんですが、それが昔とは違うものになってきているのかなと思います。CS研のモットーであるみんなで集まってヒューマンネットワークを構築するは変わって欲しくないですね。

【可児】今、分科会も若い方が中心になってくれていて、意気込みのある教職員さんいっぱいいらっしゃいます。その方々がCS研に集まってきて楽しさを感じてくれれば嬉しいですね。

【會澤】今回のようにオンラインで会話することで増えてきましたが、このような新しいコミュニケーションツールでも十分共感が積み上げられるようになりました。会が始まった時から言っていた「ヒューマンネットワークが重要だよ」を変えずに続けていってCS研なりの成果を期待しています。

寄稿

オープンネスの効用

振り返り ～ICTの限界と課題～

私立大学キャンパスシステム研究会40周年によせて

私立大学キャンパスシステム研究会創立40周年に寄せて

CS研40周年にあたり

得難い「場」としてのCS研

私の教育改革の原点：CS研で得た知見

【共・協・強】からの今日 ～CS研への想い～

冷や汗から始まったCS研での学びの旅

CS研で得た学び—運営委員の活動を振り返って—

大学人の実践知の集合

いま振り返って思う

CS研40周年を迎え10年先のキャンパスは

これからも、ずっと大事なCS研

「CS研50周年に向けて」

CS研創立40周年に寄せて

CS研との出会いと感謝

CS研 祝40周年

いきなりのオファー

CS研で深まった交流と自らの成長

CS研での学び

阪井 和男

山崎 和海

中村 正和

中林 雅士

會澤 信

篠田 有史

惠藤 浩朗

平石 泰介

中田 亮太郎

乾 博智

湯浅 且敏

可児 光眞

鈴木 浩充

吉野 知義

井上 明

三ヶ田 学

山崎 恭輔

錦織 政晴

西 久美子

玉瀬 篤志

佐伯 敦

オープンネスの効用

明治大学名誉教授 阪井 和男

私立大学キャンパスシステム研究会（CS研）は、私にとって教員と職員が対等な立場でイノベティブな活動をともにしとげるための原型となる体験を与えてくれました。私が明治大学に奉職したのは1990年のことですが、その年からCS研の第一分科会に参加しました。当時の明治大学情報科学センター所長である向殿政男先生に誘われたのがきっかけです。そのときにご一緒した第一分科会のメンバーとは、さまざまな縁でつながり、その後の明治大学での情報化戦略の実践で大いに助けとなりました。なかには、退職後の現在まで続く活動もあります。

第一分科会では、他の私立大学の教職員といっしょに活動した思い出がたくさんあります。なかでも、海外セミナーで訪問したアメリカでお聞きした学内の情報インフラの考え方は、その後の明治大学駿河台キャンパスのリバティタワーにおける情報インフラのビジョンを定めるうえで大きな影響を受けています。さらに中国の大学訪問では、中国の教員たちの積極性と最新技術にたいするこだわりの強さに圧倒的な進取の気性をみてとることができました。いずれもその後の明治大学での情報戦略を進めるうえで基盤となるバックボーンを得られたのがCS研だったといえます。

さて、大学の情報関連部署には特有の問題があります。長い大学の歴史からすると比較的新しい部署であり、他部署と比べると組織として確立した歴史が浅いため組織的な基盤が弱いこと、情報技術の激しい進展にさらされていること、などが学内の他部署との大きな違いです。

これらの問題をクリアするためには、内部と外部へのオープンネスが鍵となります。たとえば、情報関連部署における教員と職員との共同態勢であり、外部の機関や組織との協調態勢です。これらのオープンネスが機能することで、当事者としてのわれわれ教職員の孤独と孤立を救うことにつながります。私の経験からもCS研での活動によって、学内の閉塞した状況から救われる貴重な時間が得られていたことを痛感しています。今後ともCS研の参画大学の教職員がイノベティブな活動を継続できる孵卵器のような場となり続けることを願っています。



■近況について

2023年度末に明治大学を定年退職したのち、終の棲家に引っ越ししました。毎日がサバティカル（研究休暇）のような日々を過ごしています。のんびりした隠居生活をするはずが、各種学協会の活動が続き多忙な毎日です。おかしいな・・・？

振り返り ～ICTの限界と課題～

立正大学 山崎 和海

CS研が40周年を迎える令和7年は、戦後80年を数える「昭和100年」でもあり、昭和人間の私としても、やはりエポックメイキングな年のような気がします。

昨今、マスメディアの代表格「テレビ」では、昭和歌謡など昭和を振り返る番組が多く見られます。視聴者の対象は我々高齢者だと思われそうですが、一方でテレビ離れが進み、「YouTube」や「X」を始めとしたSNSユーザー層の広がりが見られます。このような時代性は、広告市場を通して数値的にも理解することができます。日本の広告市場では、2021年にインターネット広告がマスコミ4媒体広告を初めて上回り、年々その差が広がっています。同時に、「SNSに関する諸々の社会問題」なども顕在化してきております。

寄稿文を依頼され、改めて「CS研創立10周年記念誌」（1995年）や「CS研創立15周年記念誌」（2000年）を紐解きながら、特に私が副会長を担っていた1990～1994年の5年間前後の約10年を懐かしく振り返ってみますと、改めて社会の動きや時の経過の速さを痛感させられました。と同時に、ダーウィンの進化論の「生き残る種とは、最も強いものでも最も賢いものでもなく、最も変化に適応したものだ」という言葉を思い起こします。

私が専門としていました「経営情報学」の視点から、独善的ではありますが、短絡的かつ要約的にCS研の活動領域に関連する「ICTがらみのテーマ（ICTの限界と課題）」について、以下、触れてみたいと思います。

私自身が、CS研で活動させていただいた主な期間の「1980年代から2000年頃」は、『データ・情報・知識の意味合いやシステム概念』や『機能的な情報システムの変遷』などと『ICTのアーキテクチャー』や『情報教育や情報環境』について、さらにICTの進展と『情報社会の諸相』などに視線が向いていたように思います。

その後の「2000年代から2010年頃」は、「ネット社会の一段の進展（組織や組織間に留まらず、個人や個人間）の下、『コミュニケーション論』や『電子商取引やネットビジネスとビジネスモデル』、さらに『ソーシャルメディア／SNS』や『ネットワーク時代の新たな経済性や法則（例：集合知やWeb3.0など）』」などが話題の中心であったと思います。

しかしながら、2010年代以降、現代に至るまで、経営情報学という学問にあっては混迷の時代を迎えました。『学』は本当に『現実の場面』に役に立っているのか」という疑問です。『新たなスローガン（バズワード）の喪失』もあり、『ICTに対する過度な期待・有効性への不信』や『AI／生成AIへの過信と不信』などが見られます。

つまるところ、『専門知識や専門スキルの限界（専門家の限界）』を踏まえ、『理論と実践との融合』を模索していくことが肝要との思いに至ります。「大局観をもって、相互依存性に着目し、ICTを有効な道具／武器として、物事の文脈（シンセシス）の下で、全体像とその動きを一つのシステムとして捉えていくこと」が重要なのではないのでしょうか。

「技術問題を技術のみでは解決できない事実／現実」を踏まえた「マネジメント力／人間力」に帰着するのではないのでしょうか。例えば、東日本大震災時における東京電力のマネジメント力の欠如などが指摘できます。また「知性」は、「方法や道具」に対しては鋭い鑑識眼を持っていますが、「目的や価値」については盲目であるということでもあります。

今後のCS研には、社会貢献できる「人材の育成」（成長の「伸びしろ」づくり）や「視野の広さ、社会性・社会連携などに通じる活動」を期待したいと思います。

私立大学キャンパスシステム研究会 40 周年によせて

亜細亜大学 中村 正和

私立大学キャンパスシステム研究会が、輝かしい 40 周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

振り返れば、私が初めて本研究会に参加させていただいたのは、今から約 20 年前、IT やシステムと無縁だった私が情報システム課に異動した頃、ホストコンピュータからの脱却をはかるために、富士通 Campusmate-J (V1) への移行と開発を進めておりました。

そんな中、本研究会に出会ったわけですが、様々な大学の先進的な取り組みや、熱意のある他大学職員との交流を通じて、多くの刺激と学びを得ることができたことは、私の人生においてかけがえのない財産になりました。

私は CS 研の分科会運営委員としても約 10 年以上にわたって貴重な経験をさせていただきましたが、今となっては数えきれない思い出しかありません。中でも特に印象に残っていることは、夏の合同合宿研究会のワークショップで、とあるスポーツの団体戦によるチームビルディング研修を企画したことです。企画側であり参加者の立場でもあった私にとって、この成功体験は忘れることのない思い出の一つです。人はとかく研修会という場では自分の内面をみせたくないものですが、スポーツという競技によって、それまで知らなかった人の内面を発見することができました。それは、人と人との深い交流につながっていきます。単なる娯楽ではなく、チーム編成を行い、限られた時間の中で、主体性をもって誰がどのように行動するのか。その結果は団体スポーツの勝敗と団結力という成果になりました。

話は変わりますが、この 40 年間で、大学を取り巻く環境、そして、CS 研に求められる役割も大きく変化してきたかと思います。少子高齢化、グローバル化、そして近年ではコロナ禍といった予期せぬ事態への対応など、大学は常に変化への適応を迫られています。それに伴い、大学の事務システムも、単なる事務処理の効率化ツールから、学生の学びを支援し、教職員の働き方を改革し、大学の戦略的な意思決定を支える基盤へと進化してきました。

近年、AI やクラウド技術の進化は、キャンパスシステムの可能性をさらに広げていくものと思われます。学生一人ひとりに最適化された学習環境の提供、データに基づいた教育改善、そしてより柔軟で強靱な大学運営体制の構築など、未来のキャンパスは、今日の私たちの想像を超えるものになるのではないのでしょうか。

私立大学キャンパスシステム研究会には、これからもその知恵とネットワークを活かし、未来の大学、未来の教育を創造する原動力として、益々発展していくことを期待しています。

結びにあたり、本研究会の 40 周年を改めてお祝い申し上げますとともに、今後の更なるご発展と、会員各位のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



■近況について

2015 合同合宿研究会ワークショップ
第二分科会が 3 連覇した時の写真です。

私立大学キャンパスシステム研究会創立 40 周年に寄せて

明治大学 中林 雅士

私立大学キャンパスシステム研究会が 40 周年という素晴らしい節目を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。情報技術を中心としながら、多くの方々と共に大学教育の発展へ貢献してきたこれまでの努力と献身に、深い感謝の意を表します。

さて、私と私立大学キャンパスシステム研究会（以下、CS研）との繋がりとは、20 年以上前に遡ります。情報技術とは縁遠かった若手大学職員が、いきなり図書館システムの開発・運用を担う部署へと異動したことから始まり、そこで先輩に連れられるままに参加したのがCS研でした。

具体的な思い出を振り返れば、キリがありません。京都への研修旅行では、酒宴の席とはいえ、若気の至りで許されるかどうか怪しいレベルの振る舞いをした苦い記憶があります。新機能リリースの際には立て続けに質問し、司会の方を困らせたりもしました。夏合宿では、風邪をこじらせ、無念の途中退場をするなど、どの記憶も思い出バイアスが入りますので、今では美しいものに脳内編集されていますが、当時ご迷惑をおかけした諸先輩方および事務局の皆様には、この場を借りてお詫びしたい思いでいっぱいです。

見るもの聞くものすべてが新鮮な若手時代にCS研へと参加できたのは、私のその後の技術者人生においての幸運の一つでした。なぜなら、CS研にはどのような参加者も受け入れ、何かを一緒に作り上げていく楽しさを共有できるような懐の深さがあったからです。大学側・企業側の分け隔てなく、よりよいサービスを作り上げていきたいという熱意を唯一の原動力として、一緒に悩み、考えた時間は、技術者としての私の基本としていまだに深く根を張っています。それゆえに、これから新たにCS研へと参加する方々が、私と同じように仲間と共に大学教育の発展へと貢献していくことに思いを馳せる時、これからもきっと素晴らしいことがCS研から生まれてくると信じることができるのです。

今後もCS研が革新と成長を続け、情報技術により大学教育に貢献していく未来を楽しみにしております。

心からの祝福を込めて。

■近況について

10 年前に図書館システムの現場を離れましたが、情報システム部門に 5 年間在席したのち、現在は再び図書館で勤務しております。

本業以外では、現役時代にCS研で学んだことを活かし、図書館サービスに使える小さな Web サービスを自主開発・運営しております。システムおよびサービス設計の端々に iLisWave の影響が見て取れて、自身でもかなり驚きました。三つ子の魂百までです。

CS研 40 周年にあたり

東海大学 會澤 信

1985 年 11 月 8 日に創立した私立大学 FACOM ユーザ研究会は 30 周年を迎えることになりますが、ほぼ同じ時期に大学職員となり図書館に配属され、本会、皆様にお会いすることになりました。図書館学の授業で教わった、求める情報を利用者に届けるという役割は、大学の役割、ICT 部門の役割と同義であると思いながら、学生・教育・研究支援にかかわり続けた歳月となります。会の活動から様々なご示唆をいただき、諸先輩のご指導を賜りましたことを心より感謝申し上げます、という 30 周年の時に申し上げた気持ちはこの 40 周年でもかわりません。

当初は「図書館の機械化」と称し、名古屋大学様、京都大学様、明治大様等先陣の大学様の ILIS 導入事例を羨望の眼差しで学びはじめ、その後 JAPAN MARC 仕様から NACSIS-CAT、ILIS/X70 仕様への移行仕様が各大学と開発部隊との分科会活動で構築する経験をさせていただきました。同様の活動が他分科会にもあり、「言いたい放題」「ヒューマンリレーション」というこの会の大事な言葉が生まれてきたものと思います。

多くの大学を訪問し、海外へもアメリカ、中国、韓国、フィンランド等の海外セミナーから、24 時間図書館、ネットワーク上の大学、LMS、学生、保護者、教職員用のポータルサイトを目の当たりにし、今では当たり前の環境に極めて大きな刺激を受けることができました。

直近の 10 年は、東日本大震災や熊本地震等自然災害の罹災復旧、コロナ禍により、クラウドの活用やリモートでの修学、研究、業務への悉皆的な対応は、少し将来の姿としてみていたものが、一気に、全ての学生、保護者様、教員、職員のものとなったのは、極めて大きな変化であったと思います。

と、記憶をたどってみましたが、5 周年記念誌のあとがきに「グローバル化、高齢化、高学歴化、環境問題、18 歳人口の減少の中、学生サービスの充実、時代の要請に応えた個性ある教育・研究支援を、最新の情報技術を利用しながら進めていく」とあるものを 30 周年の寄稿末文で引用させていただきましたが、この 40 年においてもやはり、これが CS 研の命題として活動がなされてきたものと確信している次第です。



ヘルシンキ大聖堂前

■近況について

CS 研を通じて本当に多くのことを学ばせていただき、多くの方々に出会ったことに心から感謝しております。昨年末国内全 47 都道府県を訪ねることを CS 研にかかわれたことも大きく、達成することができました。図書館、システム、教学、カレッジ、学生支援と大学職員として経験をさせていただいておりますが、もう数年は頑張るつもりです。諸先輩、皆様が健やかに活躍されることを祈念いたします。

得難い「場」としてのCS研

甲南大学 篠田 有史

私立大学キャンパスシステム研究会 (CS 研), 創立 40 周年おめでとうございます。私は、2014 年度から 2016 年度にかけて、幹事として第六分科会に参加させていただく機会をいただきました。その長い CS 研の歴史の中では、ほんの一瞬ともいうべき期間かと思いますが、他では得難い経験を積ませていただくことができました。毎年の企画の中で、第六分科会が基盤とする関西圏の多数の大学キャンパスを訪問し、またその場でキャンパスに関わる教職員の皆様の生の声をお聞きできたことは、大変貴重な体験であります。CS 研は、まさに名前の通り、キャンパスを支えるシステムに関する題材を扱われています。大学の中で役立つシステムは、ただ単に役立ちそうに仕上がっているだけでは不十分で、その大学の学風や個性、現状とこれかの目指す姿に寄り添うものであることが求められるのだろう、というのは、建前論としては多くの方がご同意いただけるところかと思います。他方、日本の多様な個性や成り立ちを持つ私立大学においては、そういった細かな寄り添いの具合というものは、キャンパスの紹介記事や部局紹介のパンフレットに収まるようなものではなく、そのシステムが動いている現場で、実際に活用されている先生方や事務職員の方々のお話やご様子に触れて初めて、狙いや魅力、良さといったものが、実感をもって伝わってくるというように思われました。システムベンダーの皆様や教職員が集まってキャンパスのシステムについて考える「場」、それを私立大学に寄り添って提供してくださる CS 研は、これからも変わらない重要な役割を担われるものと思います。本研究会のますますのご発展を祈念申し上げます。

■近況について

当時は甲南大学の「教育学習支援センター」の所属で、学生・教員側のシステム活用を促進する組織の一員として、システム管理を担当する「情報システム室」と連携して取り組みを行っていました。2025 年 5 月現在は、所属の組織は改組で変更になりましたが、「教育学習支援センター」の副所長を拝命しており、引き続き、全学の ICT 活用に関する取り組みに従事しています。

私の教育改革の原点：CS研で得た知見

日本大学 惠藤 浩朗

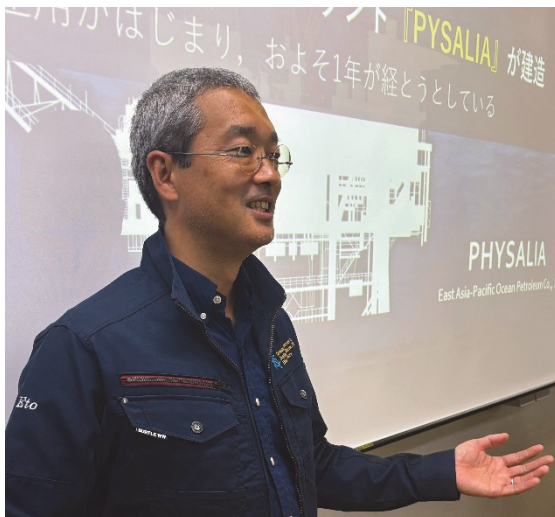
CS研、40周年おめでとうございます！この節目にあたり、これまでの活動への感謝をお伝えするとともに、そこで得た学びと経験が私の教育実践にどのように活かされているかを振り返りたいと思います。

私がCS研に参加するきっかけは、決して高尚な理念ではなく、ただ「金沢で開催される分科会に出張できる！」という、なんとも単純な動機でした。しかし、そんな軽い気持ちで飛び込んだ世界は、私にとって驚きと発見の連続でした。それまで自大学の取り組みしか知らなかった私にとって、CS研で目にしたのは、各大学がそれぞれの課題と向き合いながら、どうすれば魅力ある大学になれるか、どうすれば受験生を惹きつけられるか、そして、学生に充実した学びの場を提供できるかを真剣に議論し、実践する人々の姿でした。そこには大学関係者だけでなく、教育に携わる企業の方々も加わり、「ただ良い大学にしたい」という共通の想いのもと、熱い議論が繰り広げられていました。その真剣さと情熱が、私にとって心地よく感じられたのです。

そして大学の先輩である田中副会長の温かい歓迎もあり、「楽しい！」と感じ始めた頃には、気づけば頻繁にCS研の活動に足を運ぶようになっていました。そして、翌年には運営委員となり、さらにその翌年には運営委員長を拝命。気づけばどんどんCS研の活動にのめり込んでいったのです。各大学を訪問すると、先生方が工夫を凝らした効率的なレポートの回収方法や、学生との双方向型講義の実践、教育の質を向上させるための業務効率化のアイデアなど、実に多くの知識を学ぶことができました。そして、「これ、いいな！」と思った活動は、翌週には自分の講義に取り入れ、実際に学生が楽しそうに学んでいる姿を目にすることで、その効果を実感することができました。それは何より嬉しく、私の教育活動をさらに充実したものへと導いてくれました。

こうした努力が実を結び、本学で新たに設置された教育貢献賞の初回受賞者として選ばれました。これからも自己研鑽を続け、学生の成長に寄与できるよう励みたいと思います。このようにCS研での活動は私にとってかけがえのない宝物となっています。

ぜひまた参加させてください。改めて、CS研40周年おめでとうございます！



■近況について

現在、CS研合同分科会で印象的だった危機管理演習を基にした講義を実施しています。学生達が超大型天然ガスプラントで働く幹部職員の立場となり、災害発生を想定し、常に変化する状況に応じた危機対応戦略を検討します。そしてプラントの責任者としての判断や対応をワークショップ形式で学ぶ内容となっています。このような講義も行っていますので、ご興味のある方は事務局経由でご連絡ください。

【共・協・強】からの今日 ～CS研への想い～

東海大学 平石 泰介

私立大学キャンパスシステム研究会創設40周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。2007年度から分科会や合同研修会への参加させていただき、第二分科会の運営委員を経験させていただいていた私にとって、この40年の歴史の一端に触れ、微力ながらCS研の活動を支えることができたことを大変嬉しく感じております。

当時の第二分科会は、年間のべ200名を超える方にご参加いただく年も多く、日中の活動も夜の意見交換も、活発に活動することができたと振り返っております。その礎となったのは、運営委員が次年度の活動内容を検討する「“魔”の企画運営会議」でした。1月の大学入学共通テスト（当時はセンター入試）前後の時期に開催していたかと記憶しておりますが、その会議では、第二分科会として貫き通すテーマは何か、会員校や賛助会員企業の皆様が第二分科会に何を求めているのか、大学事務システムとしてホットな話題は何か、各大学に共通する問題点は何か、CS研全体活動テーマを分科会にどう落とし込むか等々、挙げればキリがない程のネタから取捨選択し、次年度の活動において最適なプログラムを構築したあの作業は、思い出すと今でも胃が痛くなります（大げさでしょうか・・・笑）。そんな心配は顔を合わせれば直ぐに吹き飛び、実際には、運営委員各自が本務業務で多忙を極める中でも【共】に手を取り合って真摯に企画の策定に取組み、所属大学の垣根を超えた【協力・【協】働を体現させていただくことができました。当時の幹事及び運営委員各位との【強】固な運営体制は、本当に心【強】い限りでしたし、第二分科会の活発な活動に少しでも貢献できたことは私の誇りです。

そもそも、何故、運営委員を担当することになったかを振り返ってみると、たしか第二分科会に参加して1年も経たない頃、当時、第二分科会幹事を務められていた【強】靱な先輩方から半ば脅しに近い【強】力な勧誘を受けたことが契機でした。運営委員に就任当初は少なからず“致し方ないか”という思いもありましたが、今となっては、そのお誘いのお陰で前述のような素晴らしい経験を積むことができたと思います。諸先輩方をはじめ、CS研を通じてお世話になった皆様には本当に感謝しております。

さて、少子超高齢化が進み業界として明るい話題が少ない中、度重なる自然災害や感染症パンデミック等の危機を乗り越え、今後も各会員校の教育研究活動は前進し続けることと思います。そのためにも、賛助会員企業様の知見を大学業界に取り入れること等、CS研は先端技術や未来志向の話題を学ぶことができる場であり続けて欲しいと願います。また、第二分科会で訪問した本学阿蘇キャンパスは、2016年の熊本地震で壊滅的な被害を受けましたが、皆様のお力添えにより2023年に阿蘇くまもと臨空キャンパスとして移転復旧いたしました。被災直後の対応に際しては、CS研でお世話になっていた東日本大震災を経験された大学様からアドバイスを頂戴する等、CS研で培ったヒューマンネットワークを活用させていただくことができ、【今日】の私にとって大きな財産となっています。このように、危機に直面しても会員校同士で助け合える場であること、会員校の各キャンパスで学ぶ学生達が抱える問題に寄り添い、その問題を解消するためのより良い学生サービスとは何かを追求し続ける場であること。CS研はこれからもそういう場であって欲しいと願っております。

冷や汗から始まったCS研での学びの旅

一橋大学 中田 亮太郎

私がCS研と出会ったのは、もう20年以上も前になるかと思います。初めて第3分科会（現・システム運用管理分科会）に参加した時から、他大学の方々が持つマニアックなほどの知識と技術の深さに、文系出身でちょっと自学でネットワークをかじったぐらいだった自分には、正直なところ場違いなのでは・・・と冷や汗をかいたものでした。

しかし、そんな私を温かく迎え入れてくれたのがCS研の皆さんでした。専門的な議論の合間には大学システムの生き字引のような方々を囲んでの笑い話や苦労話に花が咲きます。特に合同研究会などでの宿泊を伴うような場では、夜遅くまで話した時間が何よりも貴重でした。プログラム終了後の「本番」とも言える深夜の情報交換会では、日中の真面目な顔からは想像できないほど盛り上がり、あらゆる議論（？）が続くこともしばしば。翌日の皆の眠そうな顔も、もはや恒例行事だったような気がします。

その後部署が変わっても、そして大学が変わっても、CS研との付き合いは続くことになりました。転職の際にはCS研への参加を条件にしてもらったほど、私にとってCS研での活動は単なる仕事上のつながりを超えた、かけがえのない人間関係を築く場でもありました。システム運用の実務だけでなく、人生の悩みや将来のキャリアについても率直に話せる仲間がいたからこそ、私自身が大学教員というキャリアを選ぶ勇気も湧いてきたのだと思い、深く感謝しています。

現在は以前ほど頻繁にCS研に参加できなくなりましたが、ここで培った知識と人脈は今でも貴重な財産となって私を支えてくれています。特に私が現在専門としているセキュリティ分野では、国立・私立の垣根を越えた協力体制がますます重要になっていると考えています。小さなインシデントが大学全体の信頼を揺るがしかねない時代だからこそ、互いに知恵と技術を集結していけるよう私も尽力し、CS研の皆様とも協働を進めていきたいと考えています。

今後も大学業界の発展を支える重要な存在として、より一層の発展を祈念しております。そして、これからも「あの時の話覚えてる？」と笑い合える仲間としてお付き合いいただければ幸いです。



■近況について

私立大の職員時代にCS研に長らくお世話になっていましたが、現在は教員として一橋大学情報基盤センターに勤務していますが、相変わらず学内のITインフラ整備を行いながらセキュリティ面で研究も絡めて活動しています。

CS 研で得た学び—運営委員の活動を振り返って—

龍谷大学 乾 博智

私立大学キャンパスシステム研究会が創立40周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。私は、2018年度から2021年度の間、図書館分科会（旧第四分科会）の運営委員として活動に参加させていただきました。4年間の活動を振り返ったところ、多くの学びを得させていただいたことを再認識致しました。感謝の気持ちを込めまして、寄稿させていただきます。

龍谷大学図書館では、2016年にシステムリプレイスを実施し、新たに富士通様のiLiswave-Jによる業務運営となりました。その後、CS研のイベントをご案内いただくようになり、分科会の後の懇親会で運営委員のお声がけをいただき、2018年度から担当させていただきました。2017年度からシステム運用の担当となった時期で、知識経験不足で様々な運用情報を収集したい、様々な他大学の図書館を見学したいと考えておりましたので、即答でお引き受けしました。

私はCS研の運営委員の活動を通じて、大きく三つの学びを得ました。一つ目は、運営委員の活動を通じて得た有益な情報です。運営委員や会員の方々と繋がり・意見交換する中で得た多くの情報は、業務上の必要な知識・判断材料となり、経験の浅い私にとって大変ありがたいものでした。二つ目は、イベントの企画・運営の能力が身に付いたことです。会員の皆さんが知りたい情報、これからの大学図書館職員に求められることを踏まえて、分科会の実施内容の検討から事後の検証に関わったことは、自部署や自大学での実施する研修の企画等に非常に役立ちました。三つ目は、富士通様のDXや組織変革の対応を、自大学の業務だけではなく、運営委員の立場でも接する機会が多くあったことです。2000年からDXや働き方改革、組織変革などは国内外で重要視された事項でした。それらに対して、富士通様が先進的な取組を継続して推進されている状況を感じ取れたことは、自身にとっても大きな刺激であり、自組織を俯瞰して捉えることもできました。

最後になりますが、経験も知識も浅かった私に、運営委員のお声がけをしてくださった東海大学の曾澤様、様々なお力添えをいただいた皆様に感謝を申しあげるとともに、今後のCS研の益々のご発展をお念じ申しあげます。



■近況について

仕事については、現在、経済学部教務課にて、主に大学院や留学生業務の担当をしております。また、大学の卒業生として経済学部同窓会の活動も行っています。

プライベートでは、コロナ禍以降、年に1度は海外旅行を楽しんでいます。2025年はラオスに行ってきました。また、2025年は地元大阪で関西万博が開催されています。スタンプラリー制覇を目指して頑張っています。

大学人の実践知の集合

共立女子大学 湯浅 且敏

40周年の記念誌に寄せて、個人的な経験をお伝えできればと思う。

私立大学キャンパスシステム研究会、通称CS研に関わったのは今から約15年前のことだった。生まれてからずっと中部地方を出ることがなく、大学の研究室に入り浸っていた私が着任したのは、青山学院大学情報科学研究センター（現情報メディアセンター）。東京の一等地にある名門大学の屋台骨である教育研究システムの選定、運用、利活用支援の最前線に配置されたのだった。

当時助手で研究室があったものの、事務部署にも席が用意された。相模原事務局、教育・学習支援ユニット授業支援グループで当時課長だった高田成実さん（元CS研第一分科会幹事）の隣だった。大学運営を何も知らない状態から、まさかの教職協働である。当時私はそれまでずっと大学で過ごしていたのにも関わらず、大学運営、いや大学そのものに無知であり無頓着だった。着任当初、外線電話に「青山学園です」と応答してしまい、隣に座っていた高田さんから「今、『青山学園』って言ったよね」と突っ込まれたことを思い出す。そんな働いている大学名もちゃんと見えなかった私だったが、高田さんを始め職員の方達や同僚と仕事を共にすることで、大学という組織や大学での働き方を学んでいった。

仕事上、大学で導入されている教育・学修用のシステムを把握することが必要なため、EDIXやNEW EDUCATION EXPOなど様々なイベントに出かけ、論文、オンライン上の情報などを漁った。半年もかければ、ユーザーのニーズ、トレンド、各社が展開しているソリューションを一通り把握できたのだがどうもしっくりこない。利用者や運用者の生の（広報的ではない）声が聞こえず、実態を知ることが難しいのだ。

そんな中、隣の席の高田さんがCS研を紹介してくれた。この記念誌を読まれている皆さんは既によくご存知だと思うが、CS研の最大の強みの一つは、多くの大学の様々な悩みや各システムの導入・運用経験といった実践知が共有されることだと思う。共通の問題意識の形成、実践知の共有、そして会員相互の支援を通して、実務に役立つ知見が得られるCS研には相当に助けられた。この組織的な強みはコロナ禍での混乱を経てより強固になり、VUCAの時代、これまで以上に社会に求められるようになって考えている。その一端としてこれからも微力ながら貢献できればと思う。



■近況について

現在、共立女子大学の全学教育推進機構という組織に所属しています。共立が全力で取り組んでいるリーダーシップ教育やFDを中心とした大学教育のさまざまな活動、取組みの設計、評価、支援に取り組んでいます。なお、写真は研究室で一服している時のものです（すみません冗談です）。

いま振り返って思う

清泉女子大学 可児 光眞

キャンパスシステム研究会創立40周年おめでとうございます。

一つの節目を迎え思う事は、気がつけばキャンパスシステム研究会にながく携わってきた事でしょうか。

ながく活動させて頂けた理由は外的要因も含めていろいろありますが、一番は居心地が良かったことに尽きると思います。

自大学内だけでは井の中の蛙になりがちで情報も限られてしまいますが、キャンパスシステム研究会に参加させて頂くことで様々な気づきと発見があり毎回とても刺激的でした。自分の考えの狭さ・浅さを思い知る場でもありました。同じように意識を共有し、感じている他大学の方も沢山いて、日頃の悩みや解決策なども一緒に親身になって考えてくれる仲間がかけがえのない宝となりました。

分科会活動での経験も宝となりました。これまで沢山の大学様に訪問させて頂きましたが、それぞれ特徴ある大学の話を聞けるのはとても貴重な経験でした。関東圏はもちろんのこと、北海道、仙台、新潟、長野、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、高知、福岡など、いろいろなところに行った事を思い出します。

その中でも思い出深い記憶として、北海道の大学に初めて行った時はプライベートでも北海道には一度も行ったことがなかったので、広大な景色や空気など今でもとても印象に残っています。夜はビールとジンギスカンで盛り上がったのを思い出します。

新潟の大学様での開催時の事も忘れられません。普段から学内の会話は英語のみの大学でしたが、外国人学生を交えてのディスカッション企画の時には日本語でも大丈夫との話だったのにいつの間にか英語のみの進行となり大汗をかきました。とても疲れましたが懇親会では地元にしかない椎茸と地酒がとても美味しかったのを思い出します。

高知への訪問の回も四国には一度も行ってないのでなんとか実現したいとの運営委員の熱い思いで計画から参加しましたが、一泊二日の日程で大学訪問と研修と移動のスケジュールを組むのはなかなか大変でした。なんとか(半ば強引に)実現できて初めて高知に行ったわけですが、大学の取組と研修内容も良かったし、地元で食べた鰹のたたきのおいしさなど全てが新鮮な経験で良い思い出となりました。

他にも記憶に残っている場所は多々ありますが、毎回ハードな研修と夜は飲んで食べてみんなと話をして盛り上がり、新たな経験が出来るのはありがたかったです。

コロナ禍によって大学訪問や地方に赴く事も少なくなりましたが、逆にハイブリット開催という新しい分科会開催のあり方も可能となり、開催地から遠い大学様リモート参加出来るようになった事は大きなメリットとなりました。

合同研修会が無くなったのは個人的にはちょっと寂しい気もしますが、時代の変化にも柔軟に対応してこそそのキャンパスシステム研究会なので、今後も新たな形で分科会合同の集まりなど全体で集まれる機会を考えていってもらえると思っています。

最近では分科会も徐々に大学訪問や宿泊出張を伴う大学訪問なども増えてきました。キャンパスシステム研究会のモットーであるヒューマンネットワークをこれからもずーっと、50周年、60周年にも大事に続けていって貰えればうれしく思います。

CS 研 40 周年を迎え 10 年先のキャンパスは

東洋大学 鈴木 浩充

恥ずかしながら私は CS 研の回想ができる程の活動はできていないため、CS 研がかかわる 10 年先のキャンパスを妄想してみます。

CS 研は Campus System 研究会ですが、キャンパス = 土地の所有・校舎・施設の概念が変化しそうです。クラウドコンピューティング/仮想化技術により計算機資源は所有からサービス・リソースを借りて使うにシフトしました。大学のキャンパスも教育空間というリソースだと考えれば所有から利用へ、また所有しているならばタイムシェアリングで開放し収入源化が可能です。キャンパスを手放して借りるとか、空き施設の収入源化などという、既存方針からの転換には大きなエネルギーが必要ですが、そのような転換が起きています。人類の歴史では戦争や疫病の蔓延が大変革の要因とも言われますが、ここ 5 年の世界を振り返れば、疫病としてコロナウイルスが蔓延しましたし、ロシアがウクライナに軍事侵攻をしました。転換期には技術が急速に発展しますが、戦地ではドローンにより兵器体系・戦術が変化しています。また、生成 AI の勃興もコロナウイルスによる人類規模での引きこもりによるデジタルコミュニケーションの急増と、共有するための資料のデジタル化によるデータ急増が研究を加速させた要因の 1 つではないでしょうか。また、オンライン/オンデマンド授業やテレワークも一般化しました。つまり、通勤・通学が当然ではない、という考え方の変化です。

これらを踏まえて妄想すると、10 年後のキャンパスはスタジアムや音楽コンサート会場のような枠組みとなり、教室はオンライン配信・蓄積ありのライブステージとなるでしょう。そして、オーナーとしての大学で空いたコマの教室はビジターの大学への貸出となるでしょう。ちなみに、デジタル空間と融合することで教室のキャパシティによる履修制限がなくなります。これは既にコロナ禍で行われたハイブリッド授業のブラッシュアップです。オンラインのカメラをドローンカメラと考えれば、カメラワークの一部を特別に受講者に委ねるのもありかもしれません。

ここで問いかけを 1 つ。ご最員の音楽アーティストのステージを見られるとして①ライブ会場に行く、②ライブ配信を見る、③蓄積コンテンツを視聴する、この 3 つのうちあなたはどれを選びますか？

回答選択は、そのアーティストに対する期待感・親近感により変わるのではないのでしょうか？ちなみに、コンサートの入場料は①>②>③となっています。

この期待感・親近感を意識した授業をライブステージコンテンツと捉え作成することで、建物としての教室は特別な権利で入れる制限空間となり小教室に抑えることが可能となります。溢れた部分はライブ配信や蓄積で対応すれば履修の人数制限なしのコースが実現できます。

教員をアーティストと位置づけ、学生にライブ授業にきたい・教員に生で会いたいと期待されるクオリティの高い授業をライブステージとして行いつつ、モチベーションが高くない学生・聞き流しで済む内容はオンライン/オンデマンドで受講といったスタイルです。教室入場やオンラインカメラの操作権をプレミアム化・インセンティブとして扱うという妄想です。そして、空き教室は、教室を持たない・教室が足りない機関に貸出して収益化します。

こうしたキャンパスの変容？が進むと、CS 研自身が 10 年後にはキャンパスの運営・収益化モデルを研究・提案する存在になっているかもしれません、ね。

これからも、ずっと大事な CS 研

神田外語大学 吉野 知義

私立大学キャンパスシステム研究会(以下、CS 研)は、単にシステムメーカーのユーザー会ではなく、独立した研究会という自主的な団体である。このような稀有な団体が、40 年という永きにわたって継続している。CS 研は、大学にとって非常に貴重かつ大事な組織体として、今後も活発な活動が続くことを願うところである。

さて、私自身の CS 研との関わりを振り返ってみる。2001 年から勤務していた武蔵工業大学(現:東京都市大学)では全学的に CS 研に参加していた。所属していた図書館では、他の職員が運営委員を務め、私自身は管理職としてその活動を応援している立場であった。そのような職員からの出張報告を聞き、楽しくも実践的で多様な内容に CS 研の活動に驚いていた記憶がある。

2012 年に現在の勤務先である神田外語大学(以下、本学)へ転職し、2014 年1月に図書館システムを富士通 iLiswave-J にリプレース導入したことをきっかけに、2014 年度から正会員となり新たに CS 研との関係が始まることとなった。当初は図書館職員のスキルアップを主な目的としており、第四分科会(現:図書館分科会)が開催する企画への参加を促してきた。その後、富士通 Campusmate-J を使用する教学部門をはじめとして、情報システム部門や IR 部門などへも情報を共有するようにして、関係する分科会の企画への参加も進めるようにしてきた。

その間、私自身は図書館分科会において、2018 年度から運営委員、2023 年度からは幹事として運営にも関わるようになった。この立場になって感じるようになったのは、特に大学図書館においては業務委託の増加や職員異動により、知識やスキルの継承が困難になっているという事実である。この問題に対して、やはり研修の機会を地道に設けていくこと、そしてその場に職員を参加させることが大切だと考えている。この点においても、CS 研が開催する企画の意義は大きく、特に「システム」の名を冠さない図書館分科会においては図書館業務や著作権といった様々なテーマでの企画ができることが大きなメリットであり役割と感じている。

あらためて CS 研創立の 40 年前と言えば、私自身は図書館情報学を専攻する大学生として情報システムを学び、当時の最先端であったと思われるハードウェアやソフトウェアに触れて驚いているような頃だった。その後のコンピュータの進化は目覚ましく、インターネットの登場から全世界的な普及を経て、今や誰もがパソコンやスマートフォンでその恩恵を享受する社会へと大きく変貌してきたのは言うまでもない。CS 研創立 30 周年記念誌には、この爆発的なコンピュータの進化を受け止めて、各々の業務に活かし、大学に貢献するように取り組んできた、その時代の熱い思いを感じることができる。

さらにこの 10 年間は、ICT という言葉で総称されるようになり、DX という概念がもてはやされ、そして生成 AI に代表される人工知能が登場する変革の時代となった。それだけでなく、2020 年に発生した新型コロナウイルスの世界的感染拡大によって、人々の行動様式は大きく変容したと言える。このような急激な状況の変化は、CS 研のようなボランタリーな組織にも影響があるように感じている。それは、大学の職員が自主的に CS 研のような外部の団体に参加し、業務時間のエフォートをかけることを是としない風潮も散見されるようになった。同様に学協会でも新規会員の減少や高齢化などが問題となっているように、CS 研においても同じ状況は近づいているのではないだろうか。

これまでに述べてきたように、先人たちの熱い思いから発し、CS 研を代表する活動である各種の研修会などの企画は大学職員のスキルアップを通じて大学に貢献する重要なものである。この認識を大学業界全体でも共有し、CS 研の会員充実と活動のさらなる発展と継続を願うばかりである。

「CS 研 50 周年に向けて」

大阪工業大学 井上 明

CS 研 40 周年おめでとうございます。この文章は ChatGPT で書いています。というのは冗談です。なぜこのような事を書いたかと言いますと、もしかすると CS 研が 50 周年を迎える 10 年後には、「そういえばあの時代、まだ文章を人が書いていたんだ！」という未来が来るかもしれない、そんな予言めいたことを少し書いてみた次第です。

いろいろ思い出深いことはたくさんあります。CS 研のメンバーとテニスへ行き、脛の肉離れを起こして、2 日後の分科会が自宅からのオンライン参加になったこと。高校の先輩が CS 研メンバーだったこと。CS 研で教え子に再会したこと。浜名湖ロイヤルホテルでの合同研修会で仲良くなった他大学のメンバーとその後も交流が続いたこと。そんな普段の仕事を超えた繋がりが生まれるもの CS 研の良さでした。

私が CS 研に参加したのはいつからでしたでしょうか？たぶん 2012 年頃には幹事をしていたかと思います。それぐらいの頃に、第 6 分科会が立ち上がり、その後次世代情報システム検討分科会になりました。

最初は「関西からも CS 研を盛り上げよう」でした。ただそれだけでは物足りません。常々、いろいろな研究会やセミナーに参加してもだいたい同じような内容で食指気味だったのと、「関西なんやから、何か面白いことやらへん！？」ということで、「次世代」というちょっと新しい名前になりました。

それから早 10 年以上が経過しました。この 10 年、さきほどの生成 AI だけでなく、メタバース、オンライン・オンデマンド授業、全く新しいテクノロジーや社会環境が到来しました。そう、昔の「次世代」が今まさに訪れています。まさかオンライン授業がほぼ全ての大学で実施されるとは誰も予想していなかったのではないのでしょうか。初めて Zoom を使ったとき、カメラの On/Off 操作が分からずパジャマ姿を見られてしまったのは良い思い出です。

つまり、我々が思った以上に世の中は急速に変わっていて、その変化に適応することが求められています。CS 研も同じで、これまで通りではなく、常に社会や教育の変化に対応しながら、できればその変化を作るような議論をする場にしないといけません。というようなことを言うのは簡単です。それを 50 周年に向けて次世代情報システム検討分科会からやろうじゃないか、と偉そうなことを考えている次第です。

近い将来、文章は AI が書けても、人間ならではのつながり、喜び、感動、そんな場が創発されるのが CS 研究会です。50 周年に向け、ますますの発展を願っています。

CS 研創立 40 周年に寄せて

城西大学 三ヶ田 学

私立大学キャンパスシステム研究会が創立 40 周年を迎えられたことに対し、心よりお祝い申し上げます。

私と CS 研との出会いは 2018 年に当時の上司に勧められ、システム運用管理分科会へ参加したことが最初だったと記憶しています。その後、2022 年より教育システム分科会の運営委員として参加させていただいておりますが、当時は新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制限されていたため、分科会はオンラインでの開催がほとんどでした。

今振り返りますと、新型コロナウイルス感染症は我々のように大学教育に携わる者にとっても非常に大きな影響がありました。そもそも学生がキャンパスに通学できないという想定外の事態に見舞われ、学内システムやネットワークインフラがオンライン授業にどの程度対応できるものなのか等、ハードおよびソフトの両面でどの大学も試行錯誤していました。そのような状況において、CS 研では各大学の取り組み事例や課題等を共有させていただき、中でもグループディスカッションでは様々な大学関係者とお互いの悩みを相談し、気軽に情報交換することができる貴重な時間であり、自大学を客観的に見つめ直す良い機会でした。2023 年より対面での分科会が徐々に再開され、様々な大学や施設を見学させていただきましたが、まさに CS 研に参加していなければ得られない経験であり、ここに CS 研の存在意義があるのではないかと思います。

現在は ChatGPT に代表されるような生成 AI をはじめ、少し前までは考えられないような技術が急速に普及し社会に影響を与えていますが、これらに対しても CS 研を通じて研鑽を積んでいきたいと考えております。

事務局の皆様には日頃より分科会の開催はもとより、開催に至るまでの各種調整につきましてサポートいただき、ありがとうございます。この場を借りて感謝申し上げます。

最後になりますが、40 周年を機に CS 研が今後もますます発展されることを期待しています。

CS研との出会いと感謝

千葉工業大学 山崎 恭輔

CS研創立40周年、誠におめでとうございます。

2015年に初めて分科会に参加させていただき、運営委員として気づけば7年目を迎えました。

最初のCS研に対するイメージは、「何やら難しいことをしていて、取っつき難いもの」でした。当時の第二分科会には、本学からは教務課職員が持ち回りで参加しており、その一環で参加したのがCS研との最初の出会いでした。決して前向きな理由ではありませんでしたが、いざ参加してみると、事例紹介や情報交換会、施設見学会と内容盛りだくさんで、まだ若手の私には刺激的で「また参加したい!」と感じたのでした。

それから間もなくして、「若手でも大丈夫」という心強い言葉に背中を押され、学内で運営委員を務めていた先輩職員からバトンを受け取るようになりました。

運営委員として学び感じることは多くあります。まずはテーマ選定の難しさです。事務システム分科会(旧第二分科会)は、主に教務とシステム部門の職員中心ですが、普段の業務や過去の経験、興味のあるテーマも各々異なります。自分は興味があっても、分科会として集客できなければ成立しません。毎年年初めには、翌年度の活動計画を協議しますが、スムーズに決まることはなく、難しさを痛感します。テーマ決定後も、講師の選定・依頼や意見交換会の方法、事前アンケートの作成等、一回の分科会を作り上げるまでに、多くの検討を重ねなければなりません。学内業務に追われ、満足のいく分科会を計画することができず、もどかしい気持ちになりながらも、同じ目標に向かって分科会を運営する経験は、自分自身を成長させるきっかけになりました。振り返ると、CS研に携われたからこそ、既存の考えに囚われすぎずに、新しい考えや日々の業務改善を意識しながら行動することができるようになったと思います。

大学を取り巻く環境は、コロナ禍を経て大きく変化しました。大学DXが大きく前進し、業務効率化や働き方改革等、分科会で取り上げるテーマも変わってきました。出張が当たり前だった時代から、オンラインが浸透したことで、参加の形式も選択できるようになりました。「出張までは・・・」という方はオンラインで参加可能ですし、都合がつく方は積極的にオフラインでもご参加いただければ嬉しいです。対面だからこそ生まれる会話や発見もきっとあるはずです。これから先、大学を取り巻く環境は一層厳しさを増していきます。CS研で得られる知見や出会いを大切に、今後の大学の発展の一助になりましたら幸いです。

最後に、これまで大きなトラブルなく運営できているのは、幹事や運営委員をはじめ、事務局の皆さまの温かいご支援があったからです。この場を借りて厚く御礼申し上げます。



■最近の一言

趣味の海外旅行でエジプトを訪れました。文化や気候の違いに苦戦しましたが、幼少期に「遊戯王」で育った私は、古代エジプト時代の圧倒的な文化遺産の数々に強く魅せられました。

CS 研 祝 40 周年

産業能率大学 錦織 政晴

私立大学キャンパスシステム研究会が創立 40 周年を迎えられましたこと、謹んでお慶び申し上げます。

大学に入職してパソコンの運用管理を担当した時点では、教室の教卓、実習室、研究室など、デスクトップパソコンが主流だったわけです。産業能率大学では、2001 年から新入生全員ノートパソコン必携化（幹旋ノートパソコン／個人購入ノートパソコンの対応）が制度としてスタート、授業利用、運用管理がはじまり、IT 環境の大きな変化を実体験することになりました。

今では出席を含め、スマートフォンもフル活用という状況かと思います（余談ですが 2001 年当時の学生所有パソコンの OS は、「Windows Me」でした）。2005 年には、関係企業の皆様に尽力いただき、キャンパス内の無線 LAN の実証実験をおこないまして、当時は、まだノートパソコンに無線 LAN が内蔵されていないため、実証実験に参加すると、無線 LAN 用「PC カード」が貸与されて、キャンパスの屋内外をはじめ、駅や空港の無線 LAN にも接続できるよ～ と案内をしたことを思い出します。

「これからは無線 LAN の時代が来る～」と言われたものの国内・国外メーカーは、実際にアンテナを設置して実証実験、評価をおこなう段階だったわけです。

インフラ面（WAN、LAN、サーバー）、サービス面と更改をおこなうべく、グランドデザインを目指して「世はまさに大学でのパソコン利用拡大、大更改時代（失敗による後悔も多々あり）」となりました（← 笑ってくださいね）。

時は過ぎてもこのあたりは、多くの大学の継続課題ではないでしょうか？
新型コロナウイルス感染症への対応を思い浮かべると、ウイルス自体への対応はもちろん大変だったわけですが、システム運用管理においても、柔軟に対応できた大学、対応に苦慮した大学、CS 研の会員の皆さんは、多くの事案の相談対応に尽力されたもの、と想像します。

CS 研の企画・運営に携わった 1 メンバーとしては、参加させていただいた時から、大学が抱える実務課題（共通課題）の解決に真っ向から取り組んでいる姿勢を強く感じました。CS 研を通じて本当に多くの事案（+ α の事案も含め）の解決に役立ちました。

主にシステム運用管理分科会（旧：第三分科会）の企画・運営に参画しましたが、なかなかの有識者（決してマニアックな技術集団でないですよ！？）の集まりにて、初心者からベテランまで、参加いただいた皆さんの共通課題の解決に少しでも役に立つよう、開催テーマ、事例発表、製品紹介、ディスカッション、合同研修会では、夜遅くまで意見交換、議論したこと、飲みニケーション、米（こめ）ニケーション（食事中も意見交換？）など、ヒューマンコミュニケーションが活発で、多くの皆さんと知り合いになって、お力添えいただきましたこと、この場をお借りして感謝申し上げます。

教育機関に留まらず、世の中では、IT 担当者は、貴重な人財です。諸先輩方から受け継いだ経験を次の世代に伝えていけるよう、今後も CS 研が益々発展されますこと祈念しております。

いきなりのオファー

神戸学院大学 西 久美子

CS研、40周年おめでとうございます。

私がCS研を知ったのは、人事異動内示日、前任者から来た一本の電話でした。

「あ、そうや、CS研の運営委員も引き継いでな。最初はしんどいかもしれんけど絶対面白いから。ええな？先方には伝えとくんで、ほなよろしく」

異動先の情報支援センターは、教務でのシステム運用の経験があるだけの私にとってはかなり荷が重いポジション。その上、活動内容もよく知らないままいきなり引き受けることになったCS研の運営委員。初めて運営委員会に参加した時のアウェイ感たるや、なにせ、幹事の井上先生はじめ、他の委員の方々は現役バリバリの方ばかりで、こんな素人が入っていい分科会なのか？と真剣に悩みました。

次世代情報システム研究分科会は、唯一関西で活動している分科会であり、教育・研究や事務あるいはインフラ・ソフトウェアを問わず、未来の大学の在り方～こうなったらいいな、を考える、という点が特徴です。自由度が高い分、毎年毎回の分科会で何をテーマにするかを考えるのが難しく、なかなか輪に加われない自分の経験や知識の無さを恨みもしましたが、逆に毎回新しい知見を得られるのが楽しくもありました。

あれから6年、運営委員会ではいまだにトレンドや技術的な事はすっ飛ばして、自分が面白そうだと思ったことを話すだけの人ですが、ここまで活動を続けられているのも、委員の皆さんの温かい？まなざしと富士通の方々の支えのおかげだと思っています。

CS研で深まった交流と自らの成長

摂南大学（常翔学園） 玉瀬 篤志

CS研創立40周年おめでとうございます。私が初めてCS研に参加したのは十数年前でした。当初は情報システムに精通した強者たちの集まりに参加することに、緊張と不安を感じましたが、今では運営委員として活動し、多くの経験を積ませていただいています。この10年間は、クラウドサービス、アクティブラーニング、BYOD、RPA、BCP対策、遠隔授業、DX、生成AIなど多種多様なテーマに取り組んできました。また、関西から始まった次世代情報システム検討分科会は、「手を動かしてナンボ」の精神でハンズオンセミナーも数多く実施してきました。ハンズオンセミナーでは、その日のうちに成果を得られるものから、数日かけてアプリを開発するものもあり、発表会の場で「うわ、すごいやん！」と言わせたくて、ちょっとした闘志を燃やしながら取り組んだものでした。分科会では普段の業務ではなかなか直接お話を伺う機会のない方々をお招きし、最先端の技術動向や現場のリアルな話を聴講することができました。さらに、グループワークにも加わっていただくことで、より深い学びを得ることができ、多くのことを吸収させていただきました。

分科会には、多くの大学関係者の方々にご参加いただきました。分科会での意見交換や情報共有にとどまらず、分科会以外でも交流を持つことができ、日々の業務で困った際にはメールで相談をさせていただき、アドバイスをいただくこともありました。このようなネットワークの広がり、私にとって非常に貴重な財産となっています。

CS 研での学び

富士通株式会社 佐伯 敦

CS 研創立 40 周年、誠におめでとうございます。

私にとっての CS 研は、2005 年に SE として文教部門に異動した時からの学びの場です。大学様の取り組みを現場訪問して学ばせていただいた数は、もう数えることすらできませんし、私の自己紹介に「趣味・特技＝アイスブレイク」と書けるようになったのも CS 研の活動のおかげです。フィンランドの海外セミナーで学んだ「ポジティブなあきらめ」は、私の行動を決める際の一助にもなっています。何よりも、多くの関係者の方と知り合うことができ、ヒューマンネットワークを築いてこられたことはかけがえのない財産になっています。本当にありがとうございました。



■近況について

最近、コロナ禍を経てハイブリッド開催が増えておりましたが、徐々に現地訪問・視察の場としての開催も戻り、2024 年度は過去最高の参加者を記録しています。教育 ICT から DX、AI 活用とスピードアップした社会変化に対し、CS 研への期待の高まりを感じるばかりです。

今後の CS 研のますますのご発展をお祈り申し上げます。

資 料

2025年度会員一覧

CS研40年間のあゆみ

活動実績一覧

海外セミナー一覧

情報戦略フォーラム実施一覧

2025年度 会員名簿

2025年5月14日時点

【正会員】

No.	会員名
1	愛知大学
2	愛知学院大学
3	青山学院大学
4	亜細亜大学
5	大阪経済大学
6	大阪産業大学
7	学校法人 常翔学園
8	学校法人 拓殖大学
9	学校法人 日本工業大学
10	神奈川大学
11	鎌倉女子大学
12	関西国際大学
13	関西大学
14	神田外語大学
15	関東学院大学
16	京都産業大学
17	共立女子大学
18	近畿大学
19	金城学院大学
20	久留米大学
21	慶應義塾大学
22	工学院大学
23	甲南大学
24	神戸学院大学
25	国士舘大学
26	産業能率大学
27	実践女子大学
28	芝浦工業大学
29	秀明大学
30	順天堂大学
31	城西大学
32	上智大学
33	女子栄養大学
34	聖学院大学
35	成蹊大学
36	清泉女子大学
37	専修大学

No.	会員名
38	大東文化大学
39	多摩美術大学
40	千葉工業大学
41	中央大学
42	中京大学
43	中部大学
44	津田塾大学
45	帝京大学
46	帝京平成大学
47	東海大学
48	東京音楽大学
49	東京家政大学
50	東京工科大学
51	東京電機大学
52	東京都市大学
53	東京農業大学
54	東京理科大学
55	東洋学園大学
56	東洋大学
57	常盤大学
58	二松学舎大学
59	日本女子大学
60	日本大学生産工学部
61	日本福祉大学
62	白鷗大学
63	福岡女学院大学
64	福岡大学
65	文京学院大学
66	武蔵大学
67	明治大学
68	名城大学
69	立教大学
70	立正大学
71	立命館大学
72	流通科学大学
73	流通経済大学
74	麗澤大学

【賛助会員】

No.	会員名
1	アシアル株式会社
2	アルテリア・ネットワークス株式会社
3	エイチ・シー・ネットワークス株式会社
4	オープンテキスト株式会社
5	株式会社内田洋行
6	株式会社ジェイエスエス
7	株式会社キャリタス
8	株式会社TOKAIコミュニケーションズ
9	株式会社早稲田大学アカデミックソリューション
10	京都電子計算株式会社
11	京セラドキュメントソリューションズジャパン株式会社
12	クラスメソッド株式会社

No.	会員名
13	サイオステクノロジー株式会社
14	サイバーリーゼン合同会社
15	ソフト・オン・ネット ジャパン株式会社
16	大興電子通信株式会社
17	チエル株式会社
18	電子システム株式会社
19	東京コンピュータサービス株式会社
20	Totsu 株式会社
21	日本ソフト開発株式会社
22	富士電機ITソリューション株式会社
23	株式会社富士通ラーニングメディア
24	富士通Japan株式会社

CS研40年間のあゆみ

年次	私立大学キャンパスシステム研究会	富士通	業界	一般
1985 年	11.8 1985 年度総会 私立大学 FACOM ユーザ研究会として発足 東京ガーデンパレス 会員大学:27 校 登録会員数:149 名	・汎用機に UNIX 採用 「VP400/50」発表 ・大型汎用機 M-780 発表 ・富士通 VAN サービス FENICS の販売開始 ・FETEX-150 世界初の ISDN 実用試験をシンガポールで実施	・UNIX での学術研究ネットワークとして JUNET が慶応大、東大、東工大によってスタート Σプロジェクト開始 ・(国のソフトウェア技術者養成プロジェクト)	・東北・上越新幹線(上野～大宮間)開通(3 月) ・日本たばこ産業・NTT 開業(公社の民営化)(4 月) ・日航機、御巣鷹山に墜落(8 月) ・科学万国博「つくば 85」開幕 ・通信端末設備の自由化 ・プラザ合意(9 月)
1986 年	6.20 1986 年度総会 青学会館 会員大学:29 校 登録会員数:149 名 9.4～9.6 第 1 回分科会合同研修会 シャトーテル赤根崎 テーマ:データベース 講演テーマ/講演者 大学におけるコンピュータ利用の一考案 植村 満夫(ファコムハイタック㈱) 私立大学コンピュータセンターの今後の役割 川井 忠雄(東海大学)	・デジタル交換機「ETEX3000」発表 ・スーパーコンピュータ「VP-30」発売 ・富士通ビデオテックスシステムの運用開始	・NEC・東芝 4M ビット DRAM を開発 ・文化庁、データベースを著作権の対象に ・日米半導体交渉最終合意 ・コンピュータ教育開発センター(CEC)設立 ・日立 M-660X シリーズ発表	・ソ連チェルノブイリ原子力発電所爆発(4 月) ・三原山大噴火(11 月) ・男女雇用機会均等法施行(4 月) ・日米貿易摩擦 ・日米半導体協定スタート ・円高不況 ・金融ビッグバン
1987 年	5.15 1987 年度総会 東京ガーデンパレス 会員大学:33 校 登録会員数:153 名 9.9～9.11 第 2 回分科会合同研修会 東海大学三保研修館 テーマ:システム監査 講演テーマ/講演者 システム監査 大山 政雄(横浜商科大学)	・ビジネスパソコン「FMR」発表 ・大型汎用機「M-700 シリーズ」発表 ・32 ビットワークステーション「G シリーズ」発表 ・人工知能の新体系 KSA 知識情報システム開発	・NEC・日立・富士通等 32 ビットパソコン相次いで発表 ・IBM が OS/2 を発売 ・Motorola 社:MMU 内蔵の 32 ビットマイクロプロセッサ MC68030 を出荷 ・NTT、携帯電話サービスを開始	・国鉄民営化(3 月) ・利根川進、ノーベル医学生理学賞受賞(10 月) ・ニューヨーク株式市場大暴落(10 月) ・東証 1 部、平均株価 2 万円を突破
1988 年	5.27 1988 年度総会 東京ガーデンパレス 会員大学:36 校 登録会員数:138 名 9.7～9.9 第 3 回分科会合同研修会 静岡厚生年金休暇センター テーマ:ネットワークの運用 講演テーマ/講演者 ① 大学におけるコンピュータネットワークの構築と運用 北川 一(豊田工業大学) ②異機種間接続に関する富士通の対応 小谷野 正博(富士通㈱) 10.6～10.7 ・第 1 回私立大学エグゼクティブセミナー 富士フォーラム テーマ:インテリジェントキャンパス	・ニューロコンピュータ開発 ・川崎工場に新技術新棟竣工 ・広帯域 ISDN システムを世界で初めて試作 ・オフィスプロセッサ「K-600, K-100 シリーズ」発表 ・UNIX ワークステーション「S フマリ」発表 ・「VP-2000 シリーズ」発表 ・SunOS 出荷	・通産省ニューロコンピュータ・光コンピュータの研究・開発・調査に着手 ・WIDE プロジェクト発足 ・日本ユニパックとパロース合併、日本ユニシスとして発足 ・「VP-2000 シリーズ」発表	・青函トンネル開通(3 月) ・瀬戸大橋開通(4 月) ・リクルート疑惑発生(6 月) ・スーパー 301 条を含む包 括通商法成立が米国で成立(8 月)
1989 年	4 月 Nifty にプライベートフォーラム(UFOR)開設 6.8 1989 年度総会 東京ガーデンパレス 会員大学:39 校 登録会員数:177 名 8.30～9.1 第 4 回分科会合同研修会 静岡厚生年金休暇センター テーマ:マンマシンインターフェース 講演テーマ/講演者 マンマシンインターフェースにおける曖昧さの役割 向殿 政男(明治大学)	・32 ビットハイパーメディアパソコン「FMTOWNS」発表 ・電脳遊園地を東京ドームにて開催 ・汎用大型コンピュータ向け OS「MSP-EX」発表 ・豪州ダンデノンにデジタル PBX の製造工場を開設	・コンピューターウィルスの被害続出 ・東芝と NEC がノートブック型パソコン販売 ・Intel 社が 32 ビットマイクロプロセッサ 80486DX(25MHz)を発表	・昭和天皇崩御(1 月) ・アフガニスタン駐留のソ連軍撤退完了(2 月) ・消費税 3%導入(4 月) ・中国で天安門事件(6 月) ・ベルリンの壁崩壊(11 月) ・ルーマニア、チャウシェスク政権崩壊(12 月) ・東京証券取引所(日経平均)が史上最高値(12 月)

年次	私立大学キャンパスシステム研究会	富士通	業界	一般
1990 年	<p>7.18～7.20 創立 5 周年記念全体研修会 静岡厚生年金休暇センター テーマ:理想の学園システムの構築 講演テーマ/講演者 型破りのオペラ歌手ロマンを語る 岡村 喬生</p> <p>10.16～10.31 第 1 回海外セミナー アメリカ合衆国</p> <p>11.27 1990 年度総会及び創立 5 周年記念式典 ホテルグランドパレス 会員大学:45 校 登録会員数:200 名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートブック型パソコン「FMNOTEBOOK」発表 ・関澤義第 10 代社長に就任 ・世界発の UNIX SystemV Release 4 準拠のメインフレーム OS「UXP/M」を発表 ・MISSION/DC の確立と世界最高速の超大型汎用コンピュータ「M-1800」発表 ・1Kg を切るノートブック型パソコン「FMRCARD」発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・日立、M-880 シリーズ発表 ・Motorola 社:FPU,MMU 内蔵の 32 ビットマイクロプロセッサ MC68040 を出荷 	<ul style="list-style-type: none"> ・イラク、クウェートに侵入(8 月) ・東西ドイツ統一(10 月) ・日米新経済協議(日本市場の開放が一段と進む) ・株価暴落(10/1 に 2 万円割れ。9 ヶ月の間に半値まで暴落)
1991 年	<p>6.18 1991 年度総会 東京ガーデンパレス 会員大学:51 校 登録会員数:245 名 講演テーマ/講演者 情報通信システムの動向と当社の対応 小林 光治(富士通㈱)</p> <p>8.28～8.30 第 5 回分科会合同研修会 静岡厚生年金休暇センター テーマ:言いたい放題 講演テーマ/講演者 脳の可塑性と学習 松本 元(工業技術院電子総合研究所)</p> <p>11.7～11.8 第 2 回私立大学エグゼクティブセミナー 富士フォーラム テーマ:大学に於ける情報の戦略的活用に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「VP1000」発表 ・「DS/90 7000 シリーズ」発表 ・富士通初の携帯電話「ムーバ F」発表 ・1990 年代の情報システム構築新コンセプト「MESSAGE90S」発表 ・中大型汎用コンピュータ「M-1400/M-1600」発表 ・世界初 SDH 光海底システム(FS-1.8G)を英独間に納入 	<ul style="list-style-type: none"> ・PC オープン・アーキテクチャ推進協議会が結成、IBM の DOS/V 仕様のパソコンを各社で開発することに合意 ・オープンソースソフトウェアである Linux 公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・湾岸戦争勃発、原油高(1 月) ・雲仙普賢岳噴火で大火砕流発生(6 月) ・ソ連、保守派クーデタ発生(8 月) ・ソビエト社会主義共和国連邦消滅、独立国家共同体誕生(12 月) ・バブル崩壊(地下の下落が始まる)
1992 年	<p>6.5 1992 年度総会 東京ガーデンパレス 私立大学キャンパスシステム研究会(略称 CS 研)に名称変更 会員大学:57 校 登録会員数:255 名 講演テーマ/講演者 ネットワーク社会の技術と利用の問題 安田 寿明(東京電機大学)</p> <p>8.26～8.28 第 6 回分科会合同研修会 磐田グランドホテル テーマ:ダウンサイジング 講演テーマ/講演者 感性とコンピュータ 北川 一(中京大学人工知能高等研究所)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「富士通環境憲章」を発表 ・情報・通信システムの総合サービス体系 ・「PROPOSE」発表 ・世界最高速のベクトルパラレル型スーパーコンピュータ「VPP500」発表 ・世界初、21 インチ・フルカラーのプラズマディスプレイを発売 ・幕張システムラボラトリ開設 	<ul style="list-style-type: none"> ・日立、トータルシステムコンセプト FOREFRONT 発表 ・マイクロソフト米国が Windows3.1 販売開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・欧州連合(EU)発足(2 月) ・地球サミット(国連環境開発会議)をブラジルのリオデジャネイロで開催(6 月) ・第 25 回夏期オリンピックバルセロナ大会開催(7 月) ・毛利 衛さん宇宙へ(9 月) ・あかつき丸プルトニウム 1t を積みフランスを出港(11 月) ・失われた 10 年
1993 年	<p>6.15 1993 年度総会 富士通幕張システムラボラトリ 会員大学:62 校 登録会員数:255 名 講演テーマ/講演者 マルチメディアの動向と富士通の取り組み 坂本 善博(富士通㈱)</p> <p>8.25～8.27 第 7 回分科会合同研修会 磐田グランドホテル テーマ:マルチメディアとネットワーク 講演テーマ/講演者 日本の情報システムとオープンシステムパラダイム 山崎 和海(立正大学)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3D システム「AG シリーズ」発表 ・中国人民会堂で「富士通総合技術展」開催 ・Windows 時代に対応する国際標準機「FMV シリーズ」発表 ・スパコン「数値風洞システム」(NWT)※が世界初 100GFlops 超え ※航空宇宙技術研究所(現 JAXA)と富士通が共同で開発 ・スーパーコンピュータ「VP2000 シリーズ」発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・NEC の PC-VAN 米英の国際 VAN と接続 ・日本 DEC 社、64 ビットパソコンを発売 ・携帯電話第 2 世代(PDC)サービス開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・新総合経済対策 13 兆 2 千億円(4 月) ・皇太子・雅子さまご結婚(6 月) ・細川連立内閣成立-「55 年体制」崩壊(8 月) ・環境基本法の公布、施行(11 月)

年次	私立大学キャンパスシステム研究会	・富士通	業 界	一 般
1994 年	<p>6.10 1994 年度総会 富士通本社 会員大学:61 校 登録会員数:250 名 講演テーマ/講演者 使える意思決定法 若山 邦紘(法政大学)</p> <p>8.24~8.26 第 8 回分科会合同研修会 磐田グランドホテル テーマ:ユーザサービス 講演テーマ/講演者 マイクロソフトの Windows 戦略 加藤 浩一(日本マイクロソフト(株))</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・商用インターネットサービス「Infoweb」の提供開始 ・都市型 CATV の新サービストライアルを日本で初めて実施 ・ATM マルチメディアシステム「E-7000 シリーズ」発表 ・世界最速プリンタ「F6772D」を出荷 ・「FMV DESKPOWER」発売 	<ul style="list-style-type: none"> ・IBM パソコン通信参入 ・ソニー・コンピュータエンタテインメントが家庭用テレビゲーム機プレイステーションを発売。 ・製造物責任法(PL 法) 成立 	<ul style="list-style-type: none"> ・新総合経済対策 15 兆 2 千 5 百億円(2 月) ・米国にてスーパー301 条を復活(3 月) ・中華航空 140 便墜落炎上(4 月) ・向井千秋さんスペースシャトルで宇宙へ旅立つ(7 月) ・大江健三郎ノーベル文学賞受賞(10 月)
1995 年	<p>2.22 創立 10 周年記念座談会</p> <p>6.9 1995 年度総会及び創立 10 周年記念式典 富士通幕張システムラボラトリ、幕張プリンスホテル 会員大学:56 校 登録会員数:211 名 講演テーマ/講演者 海外ビジネス体験談 山本 卓真(富士通(株))</p> <p>8.20~8.26 第 2 回海外セミナー(第 1 回アジアセミナー) 中華人民共和国</p> <p>9.11~9.12 創立 10 周年記念研修会及び第 9 回分科会合同研修会 熱海後楽園ホテル 講演テーマ/講演者 ネットワークが世の中を変える 京増 弘志(ニフティ(株))</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新サービス体系「C/S デスクトップサービス」を発表 ・仮想現実によるマルチメディア通信サービス「WorldsAway」の提供開始を発表 ・マルチメディアのクリエイターを支援する「コンテンツラボ」を開設 ・新グローバルサーバ「GS8000 シリーズ」発表 ・42 型カラープラズマディスプレイを世界で初めて商品化 ・世界初、2GB/4GB の 3.5 インチ光磁気ディスクを開発 ・アウトソーシングサービス拠点「館林システムセンター」開設 ・世界最速アレイディスクサブシステム「F6493」を発売 	<ul style="list-style-type: none"> ・電話の公専接続解禁 ・製造物責任法(PL 法)施行 ・首都圏と北海道で PHS サービス開始 ・Windows95 発表 ・日本でインターネットが普及しはじめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神大震災発生(1 月) ・世界貿易機構(WTO)が発足(1 月) ・地下鉄サリン事件発生(3 月) ・東京円 1ドル 79 円 -産業の空洞化の進行-(4 月) ・世界都市博中止(5 月) ・野茂投手大リーグ初勝利(6 月) ・フランス、ムルロア環礁で核実験強行(9 月) ・イスラエル、ラビン首相暗殺(11 月)
1996 年	<p>6.7 1996 年度総会 富士通本社 会員大学:55 校 登録会員数:202 名 共通テーマ:21 世紀の大学 講演テーマ/講演者 CALS の動向と事例 生田 賢次(富士通(株))</p> <p>8.28~8.30 第 10 回分科会合同研修会 浜名湖ロイヤルホテル テーマ:21 世紀の大学 講演テーマ/講演者 収奪文明から調和文明へ 鳥井 弘之(日本経済新聞社)</p> <p>10.1~10.12 第 3 回海外セミナー アメリカ合衆国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルサーバ「GS8600」発表 ・超高速スーパーコンピュータ「VPP700」発表 ・新並列サーバ「AP3000」発表 ・「Wild Bird センター」をインターネット上に開設し、世界初の携帯情報端末・携帯パソコン向け情報サービスを開始 ・世界最高速の並列 DB プロセッサ「TX5000」、SymfoWARE 製品、サービス商品を提供し、データウェアハウス市場へ本格参入 ・パソコンサーバ「GRANPOWER5000」発表 ・ウェブ TV 社と日本におけるテレビ向けインターネット事業を行なうことに合意 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界にさきがけ、東京圏に道路交通情報システム(VICS)サービス開始 ・日本初の衛星デジタル放送「パーフェク TV」本放送開始 ・NTT が OCN サービス開始 ・デジタル・カメラが普及 ・インターネットのポータルサイト Yahoo! JAPAN(ヤフー)がスタート ・米国、通信の規制緩和 ・携帯電話加入者 1 千万人を突破 	<ul style="list-style-type: none"> ・若田さん宇宙へ日本人初の搭乗運用技術者(1 月) ・日本サッカー28 年振り五輪出場権獲得(3 月) ・2002 年サッカーW 杯日韓共催決定(5 月) ・アトランタ五輪開幕 179 ヶ国・地域が参加(7 月) ・ローマ法王、進化論認める(10 月) ・金融ビッグバン(11 月) ・ペルーの日本大使公邸占拠事件(12 月) ・労働省、人材派遣業を自由化(12 月)
1997 年	<p>4 月 CS 研ホームページ開設</p> <p>6.6 1997 年度総会 富士通川崎工場 会員大学:56 校 登録会員数:196 名 共通テーマ:21 世紀の大学 講演テーマ/講演者 大学の情報化と国の財政援助 井端 正臣((社)私立大学情報教育協会)</p> <p>8.27~8.29 第 11 回分科会合同研修会 浜名湖ロイヤルホテル テーマ:21 世紀の大学 講演テーマ/講演者 21 世紀の大学 下坂 陽男(明治大学)</p> <p>9.6~9.14 第 4 回海外セミナー(第 2 回アジアセミナー) シンガポール共和国・タイ王国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新ビジネスサーバ「GRANPOWER6000」発表 ・新携帯情報ツール「INTERTop」発表 ・ネットワークコンピューティングの体系「SOLUTIONVISION」を確立 ・世界初の WDM 光海底システムをアラブ湾岸 3 カ国に納入 ・女性向けスタイリッシュパソコン「FMV-ESKPOWER プリシエ」を発売 ・米アムダール社を 100%子会社化 ・国内全製造工場にて ISO14001 認証取得完了 	<ul style="list-style-type: none"> ・住銀、国内初の「インターネットバンキング」サービス開始 ・NTT 移動通信網「10 円メール」サービス開始 ・アスキーが IP 事業から全面撤退 ・NTT のアナログ更改完了、クロスバ交換機終息 ・携帯電話加入者 2 千万人を突破 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシアンタンカー日本海で沈没、各地に重油被害(1 月) ・クローン羊ドリー誕生(2 月) ・消費税 5%(4 月) ・香港の中国変換、155 年の英統治に幕(7 月) ・持株会社解禁(7 月) ・タイで通貨危機、周辺国に波及(7 月) ・マザーテレサ死去(9 月) ・土井隆雄さん宇宙へ、日本人初の宇宙遊泳(11 月) ・地球温暖化防止京都会議開催(12 月) ・クレジットクランチ(貸し渋り)により金融機関の経営破綻のはじまり

年次	私立大学キャンパスシステム研究会	富 士 通	業 界	一 般
1998 年	<p>6.5 1998 年度総会 富士通本社 会員大学:54 校 登録会員数:204 名 共通テーマ:21 世紀の大学 -21 世紀を目指した大学の情報化と情報環境 講演テーマ/講演者 インターネット社会の人権 夏井 高人(明治大学)</p> <p>8.26~8.28 第 5 回海外セミナー(第 3 回アジアセミナー) 日本は、第 12 回分科会合同研修会として実施</p> <p>富浦ロイヤルホテル テーマ:21 世紀の大学 -アジア諸国の大学との連携と貢献 講演テーマ/講演者 ①大学における情報処理環境の現状と将来 寇 廷耀(華東大学) ②華東師範大学におけるキャンパスネットワーク及び 情報システムの現状と将来 王 能(華東師範大学) ③情報処理教育/情報教育の変遷と今後の課題 山崎 和海(立正大学)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 世界最高速の CMOS 大型汎用機「GS8800」発表 ソニーと次世代システム LSI の開発、製造における協業で基本合意 WebTV 日本法人に資本参加 日立製作所と次世代 PDP に関する共同開発契約を締結 基本ソフトウェアに Solaris を採用した自社製チップ搭載の UNIX サーバ「GP7000F」発表 ソニーと 1.3GB の 3.5 インチ光磁気ディスクシステム「GIGAMO」を共同開発 サービス事業本格展開 FENICS トータルアウトソーシングサービス発売 	<ul style="list-style-type: none"> 改正著作権法施行、デジタルネットワークにおける双方向通信に対応 国内の IP 事業者数、3000 社突破 京都市内でデビッドカードサービス開始 公取委、マイクロソフトに独禁法違反で排除勧告 Windows 98 を発売開始 Google 社設立 	<ul style="list-style-type: none"> 長野オリンピック開幕(2 月) 若乃花 66 代横綱、史上初兄弟横綱(5 月) 和歌山市毒入りカレー事件(7 月) NTT ドコモが東証 1 部に上場(10 月)
1999 年	<p>6.4 1999 年度総会 富士通本社 会員大学:53 校 登録会員数:210 名 共通テーマ:21 世紀の大学 -21 世紀を目指した大学の情報化と情報環境 講演テーマ/講演者 デジタルコミュニケーションへの期待と役割 村井 純(慶應義塾大学)</p> <p>8.25~8.27 第 13 回分科会合同研修会 浜名湖ロイヤルホテル テーマ:21 世紀の大学 -多様化と個性化へのアプローチ 講演テーマ/講演者 世紀末とコンピュータワールド 加賀美 鐵雄(中央大学)</p> <p>11.9 創立 15 周年記念座談会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 衛星イントラネットの販売開始 世界初の 1Tbps 光多重の 1 万キロメートル伝送実験に成功 富士通と日立、大型 PDP の開発・製造・販売で合弁会社 米ビジネス・ウィーク誌年間企業広告賞受賞 350 万会員のメガ・プロバイダーサービス「@nifty」が誕生 富士通と日興証券が業務提携 世界初、富士通、ファナック、東レが The MOLDEST の共同開発に成功 世界最高速の処理能力「GS8900」発表 	<ul style="list-style-type: none"> NTT ドコモが世界初の携帯電話 IP 通信サービス「i モード」開始 中古ソフト販売、小売店が勝訴 NTT 分割再編、国際通信へ進出 MS Office2000 発売 東芝、米 PC 訴訟「被害を受ける可能性」で和解金 1, 100 億円 	<ul style="list-style-type: none"> 欧州統一通貨ユーロ誕生(1 月) 初の「心・肝」脳死移植(2 月) トキの人口ふ化、国内初成功(5 月) トルコ西部地震、犠牲者 18,000 人(8 月) 台湾大地震犠牲者 2,000 人(9 月) 東海村で臨界事故(9 月)
2000 年	<p>6.2 2000 年度総会及び創立 15 周年記念式典 東京ガーデンパレス 会員大学:54 校 登録会員数:244 名 共通テーマ:21 世紀の大学-21 世紀を目指した大学の情報化と情報環境- 講演テーマ/講演者 Everything on the Internet 渡辺 武経(ニフティ株)</p> <p>8.28~8.30 第 14 回分科会合同研修会 長浜ロイヤルホテル テーマ:21 世紀の大学-教育の情報化と事務のオープン化- 講演テーマ/講演者 宇宙の謎に挑む 海部 宣男(国立天文台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 富士通ショッピングサイト「WEB MART(ウェブマート)」を開設 グローバルビジネスの展開に向けたサーバ戦略を発表、サーバのブランド全世界で統一 プライバシーマーク取得、ネットの情報管理強化 電子部品、ネット購買網を公開会員、企業を募る ブランド戦略推進 グループ各社 ログマーク統一 世界初、高速 64kbps ワイヤレスデータ通信機能を標準内蔵したモバイルパソコン「FMV-BIBLO LOOX(ルークス)」2 機種を提供 電子社会の未来を拓く「net Community」を開設 世界最大容量の 1.76Tbps 光波長多重伝送システムが完成(02 年に市村産業賞を受賞) 企業向けサポートデスク開始 コールセンタ業務の本格展開 あきるのテクノロジーセンター開設 	<ul style="list-style-type: none"> 西暦 2000 年問題、順調な幕開け Windows2000 発売 省庁ホームページ改ざん 日本 IBM 企業向けパソコンで新ブランド「ネットビスタ」 東電など、データセンター設立発表 東京に世界最大級設備投資 100 億円 日本ボルチモア、サイバートラストと合併 電子認証でシェア 1 位に NTT ドコモ、携帯電話機の海外利用を開始 日本ゲートウェイ、コンビニでパソコン販売サンクスと提携 米クレイ日本法人設立 相次ぎスパコン投入 DDI・IDO、携帯電話で位置検索「EZWeb」新サービス 日本 IBM、Linux 拠点開設 専属技術者を 100 人配置 マイクロソフト、ウィンドウズ EC の携帯端末日本語版を投入 新型コンピューターウイルス「マトリックス」「ナビダ」が日本で猛威 BS デジタル放送開始 インバク開幕、ネット上に 200 超す「バビリオン」 	<ul style="list-style-type: none"> 初の女性知事、大阪府に誕生(2 月) 有珠山噴火(3 月) 朝鮮半島で初の南北首脳会議(6 月) パリ郊外で超音速旅客機コンコルド墜落(7 月) 新額面紙幣 2 千円札発行(7 月) 三宅島噴火で全島民避難 17 年ぶりに噴火。島民 約 3800 人が避難(8 月) シドニー五輪開幕(9 月) 白川博士にノーベル化学賞。電気を通すプラスチック(導電性高分子)を発見(10 月) アメリカ大統領選、歴史的な接戦で混乱 共和党のブッシュ候補が当選(12 月) IT バブルの崩壊

年次	私立大学キャンパスシステム研究会	富士通	業界	一般
2001 年	<p>6.8 2001 年度総会 富士通本社 会員大学:57 校 登録会員数:269 名 共通テーマ:学生に対するサービスのあり方 講演テーマ/講演者 死の四重奏は正しい食生活で直せる 佐藤 和子(大塚製薬㈱)</p> <p>8.29〜8.31 第 15 回分科会合同研修会 長浜ロイヤルホテル テーマ:学生に対するサービスのあり方 講演テーマ/講演者 大変革時代の大学と情報技術 永田 守男(慶應義塾大学)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「富士通 IA ソリューションセンター」を開設 ・「PRIMEPOWER CENTER」を開設 ・FUJITSU LIFEBOOK、COMDEX 2001 で最優秀賞受賞 ・The FUJITSU Way (現 FUJITSU Way)を制定 ・日本初のビジネスサポートサービス(コンサルティング、コラボレーションサービス、構築テンプレート)発売 	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロソフト、新ゲーム機 X-BOX を披露 ・家電リサイクル法の施行 ・XML コンソーシアム設立 ・新ウイルス「コード・レッド」、世界で被害拡大 ・日本 IBM、PC ブランドを「ネットビスタ」に統一 ・新種のコンピューターウイルス「ニムダ」被害拡大 ・マイクロソフト、XP 国内販売開始 ・NTT ドコモが「FOMA サービス」開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央省庁再編スタート(1 月) ・IT 戦略本部が「e-Japan 戦略」として IT 国家戦略を策定(1 月) ・えひめ丸がハワイ沖で米原潜と衝突(2 月) ・小泉純一郎内閣発足。驚異的内閣支持率を得て『小泉人気』とよばれる(4 月) ・国内初の狂牛病の牛を確認(9 月) ・米国同時多発テロ(9 月) ・テロ対策特別措置法成立、自衛艦インド洋へ(10 月)
2002 年	<p>6.7 2002 年度総会 富士通本社 会員大学:55 校 登録会員数:266 名 共通テーマ:学生に対するサービスの向上 講演テーマ/講演者 これからの大学評価と認定 大橋 秀雄(工学院大学)</p> <p>8.29〜8.31 第 16 回分科会合同研修会 伊勢志摩ロイヤルホテル テーマ:学生に対するサービスの向上 講演テーマ/講演者 大谷流 人脈の作り方 大谷 由里子(吉本興業㈱)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークストレージサーバ「ETERNUS SP5000」発表 ・プラットフォームコンセプト「TRIOLE」を確立 ・世界最高速の大型汎用コンピュータ「GS21 600 モデルグループ」発表 ・「FUJITSU ユニバーシティ」の設立 ・「あきる野テクノロジーセンター」世界で初めて 90 ナノメートル LSI 試作量産ラインの稼働開始 ・世界初、環境負荷の少ない「生分解性プラスチック」部品をノートパソコンに採用 ・「GLOVIA ソリューション」の提供開始 ・ギガヘルツプロセッサを搭載した UNIX サーバ「PRIMEPOWER」販売開始 ・日本最大規模の新スーパーコンピュータシステムが航空宇宙技術研究所で稼働 ・自社回収したパソコンの筐体樹脂をノートパソコンに再生利用 ・プラットフォームコンセプト TRIOLE を確立 ・「Campusmate-J」提供開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・インテル、新型「ペンティアム 4」を発売 ・日立と IBM が HDD 事業統合へ ・海洋科学技術センターが、多目的スーパーコンピュータ「地球シミュレーター「Earth Simulator」の運用開始 ・日本 IBM、ホームページ・ビルダーの認定資格制度を設置 ・電子投票、岡山県新見市で全国初の試み ・マイクロソフト、「ウィンドウズ・メディア 9」公開へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・公立学校完全週 5 日制の開始(4 月) ・経団連と日経連が統合し日本経団連が発足(5 月) ・日韓共催サッカーワールドカップ開催(5 月) ・東ティモール民主共和国が独立(5 月) ・アフリカ連合発足(7 月) ・住民基本台帳ネットワーク稼働(8 月) ・スイス国連加盟(9 月) ・ノーベル賞初のダブル受賞。小柴昌俊氏が物理学賞、田中耕一氏が化学賞を受賞(10 月) ・日朝首脳会談が行われ、北朝鮮拉致被害者 5 人帰国(10 月)
2003 年	<p>6.6 2003 年度総会 富士通本社 会員大学:60 校 登録会員数:326 名 共通テーマ:学生サービスの向上 講演テーマ/講演者 大学行政の転換と大学運営 清成 忠男(法政大学)</p> <p>8.29〜8.31 第 17 回分科会合同研修会 伊勢志摩ロイヤルホテル テーマ:学生に対するサービスの向上 講演テーマ/講演者 ①ナノテクが拓く新しい IT の世界 横山 直樹(㈱富士通研究所) ②スーパーカミオカンデによる素粒子ニュートリノの観測 小汐 由介(東京大学)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界初の非接触型手のひら静脈認証技術を開発 ・手書き機能付き日本語入力ソフト「ジャパニスト 2003」発売 ・最適な通信網選択ソフト「シームレスリンク V1」発売 ・ブレード型 IA サーバ「PRIMERGY BX300」発表 ・世界規模で社員教育改革、eラーニング 5 万人に拡大 ・電子投票システム、ムサシが製品化、富士通と共同開発 ・高性能メインフレーム「GS21」発売 ・札幌にデータセンター開設 ・アメフト・バールボウル 富士通、逆転初 V ・統合業務パッケージ「GLOVIA」製品体系一新 ・UNIX サーバ「PRIMEPOWER」TPC-H ベンチマークで世界最高性能を達成 ・高知に IDC 完成 ・ソフト事業の拠点「富士通ソリューションスクエア」開設、技術者 4000 人結集 	<ul style="list-style-type: none"> ・手書きパソコン「タブレット PC」販売開始 ・日本 HP・コンパック合併 ・住基カード、サービス実験開始 ・マイクロソフト、「ウィンドウズサーバー 2003」発売 ・日立・三菱、「半導体」本格統合へ ・新ウイルス「バグベア B」感染報告が増加 ・「リンドウズ」発売 ・「e-Japan 戦略 II」決定 ・新ウイルス MS プラストの被害拡大 ・住基ネット、本格稼働 ・NEC、PC-9800 シリーズの歴史に幕 ・家庭のパソコンを再資源化する PC リサイクル法が開始 ・アップルの直営店が銀座に開店 ・Apple 社が iTunes Music Store 開始 ・地上デジタルテレビ放送開始 ・「資源有効利用促進法(パソコンリサイクル法)の改正施行 	<ul style="list-style-type: none"> ・スペースシャトル「コロンビア」が空中分解、乗員死亡(2 月) ・新型肺炎(SARS)が世界的流行。世界全体で感染者は 8 千人以上(2 月) ・個人情報保護法が成立(5 月) ・有事関連法が成立(6 月) ・イラク復興支援特措法成立、自衛隊派遣へ(7 月) ・阪神タイガースが 18 年ぶりリーグ優勝(9 月) ・中国初の有人宇宙船「神舟 5 号」の打ち上げに成功(10 月) ・第 43 回衆院選において民主躍進、二大政党時代へ(11 月) ・邦人外交官 2 人がイラクで殺害(11 月) ・フセイン元大統領を拘束(12 月)

年次	私立大学キャンパスシステム研究会	富士通	業界	一般
2004 年	<p>6.4 2004 年度総会 富士通本社 会員大学:65 校 登録会員数:359 名 共通テーマ:学生の視点に立った キャンパスシステムの在り方 講演テーマ/講演者 日本の大学の致命的な欠陥 諸星 裕(桜美林大学)</p> <p>8.25～8.27 第 18 回分科会合同研修会 浜名湖ロイヤルホテル テーマ:学生の視点に立ったキャンパスシステ ムの在り方 講演テーマ/講演者 ①情報生物学のすすめ 菅原 秀明(国立遺伝学研究所) ② 大学の情報化と著作権 久保田 裕(コンピュータソフトウェア著作権協会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・GPS 搭載携帯電話「ムーバ F505iGPS」出荷 ・世界初の i モード FeliCa 対応携帯電話「FOMA F900Ic」を発売 ・三重に半導体新工場建設を発表(来年 4 月稼働予定) ・世界最大容量(1 メガビット)の FRAM 発売 ・国内最大規模「Platform Solution Center」を開設(浜松町)システム検証、新拠点 ・ネットワークサーバー「IPCOM S シリーズ」発売 ・シスコ社とルータ・スイッチ分野で戦略提携 	<ul style="list-style-type: none"> ・総務省 8 日から住基カード交付 ・新ウイルス「ネットスカイ Q」国内で感染被害拡大 ・ソニー 885 万画素の液晶パネルを開発 ・日本 IBM 新ブランド戦略「e」から「ON」へ 7 年ぶり刷新 ・アップル「iPod mini」発売 ・アップルが大阪に直営店(国内 2 店目) ・総務省電子政府の体験サイトを開設 ・米サン「Solaris10」最新版を発表 ・IBM、聯想にパソコン事業売却を発表 ・任天堂がゲーム機「ニンテンドーDS」を発売 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国内で 79 年ぶりに鳥インフルエンザ(1 月) ・国立大学法人化(4 月) ・拉致被害者の家族が帰国(5 月) ・アテネ五輪で日本大活躍。史上最多のメダルを獲得(8 月) ・プロ野球大再編、選手会はストを決定(9 月) ・マリナーズのイチロー、今季通算 262 安打で大リーグの 1 シーズン最多安打新記録を樹立(10 月) ・新潟県中越地震(10 月) ・ブッシュ大統領が大接戦の末、再選(11 月) ・スマトラ沖地震津波(12 月)
2005 年	<p>1.28 創立 20 周年運営委員長座談会</p> <p>6.3 2005 年度総会及び創立 20 周年記念式典 高輪プリンスホテル 会員大学:65 校 登録会員数:365 名 共通テーマ:個性あるキャンパスシステムの 構築を目指して 講演テーマ/講演者 大学の情報化と私立大学情報教育協会の取り組み 戸高 敏之(同志社大学 社団法人私立大学情報教育協会)</p> <p>8.24～8.26 第 19 回分科会合同研修会 信州松代ロイヤルホテル テーマ:個性あるキャンパスの構築を目指して 講演テーマ/講演者 個人情報保護法-システム運用上の留意点を中心に 夏井 高人(明治大学) 事例紹介/講演者 千葉工業大学における静脈認証 IC 学生証の導入について 小川 靖夫(千葉工業大学)</p> <p>9.7～9.10 第 6 回海外セミナー(第 4 回アジアセミナー) 大韓民国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・90nm テクノロジーのロジック LSI 生産拠点、三重工場 300mm 第 1 棟を稼働開始 ・国内連結子会社で ISO14001 の一括認証を取得 ・米 EDS 社とグローバルなテクノロジーパートナー契約を締結 ・世界最強の基幹 IA サーバ「PRIMEQUEST」を発表 ・シスコとの戦略提携に基づき、次世代ハイエンドルータ「Fujitsu and Cisco CRS-1」を発売 ・日本初の次世代車載ネットワーク「FlexRay スターターキット」を発売 ・日本初の UHF 帯 RFID 関連商品を発売 ・非接触型手のひら静脈認証装置「PalmSecure」ビジネスをワールドワイドに展開 ・WiMAX 対応の基地局と端末の双方で使える高集積化 LSI を世界で初めて開発 ・最新映像圧縮方式 H.264 に対応したプロセッサを発売 	<ul style="list-style-type: none"> ・外務省など 電子パスポート実証実験実施へ IC チップで本人確認 ・Web 2.0 が流行 ・YouTube 社設立。翌年にかけて大流行 ・アップル社がフラッシュメモリーを搭載した iPod shuffle(アイポッドシャッフル)を発売 	<ul style="list-style-type: none"> ・中部国際空港開港(2 月) ・福岡県西方沖地震(3 月) ・愛知万博「愛・地球博」が開幕(3 月) ・個人情報保護法施行(4 月) ・JR 福知山線脱線事故(4 月) ・京都議定書発効とクールビズ実施(5 月) ・宇宙飛行士野口聡一がスペースシャトル「ディスカバリー」で宇宙へ(7 月) ・日本の人口が 1899 年の統計開始以来初の自然減(9 月) ・郵政民営化関連法案が成立(10 月)
2006 年	<p>6.2 2006 年度総会 富士通本社 会員大学:69 校 登録会員数:380 名 共通テーマ:個性あるキャンパスシステムの 構築を目指して 講演テーマ/講演者 グローバル化と日本の大学 -国際教養大学の挑戦- 中嶋 嶺雄(国際教養大学)</p> <p>8.30～9.1 第 20 回分科会合同研修会 信州松代ロイヤルホテル テーマ:個性あるキャンパスの構築を目指して 講演テーマ/講演者 川中島の戦い -その史実と虚構について- 原田 和彦(松代文化施設等管理事務所 真田宝物館) 事例紹介/講演者 IT キャンパス構築のためのグランドデザイン ～芝浦工業大学豊洲キャンパス IT 環境構築事例～ 山崎 達朗(芝浦工業大学)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海外グループ会社を含めた ISO14001 グローバル統合認証を取得 ・世界最大の記憶容量「ETERNUS8000」発売 ・独 SAP AG とサービス分野でグローバル協業を強化 ・300 ギガバイトのシリアル ATA 対応 2.5 型 HDD を世界で初めて発売 ・世界最小の設置面積を実現したコンパクトサーバ「PRIMERGY TX120」を発売 ・パソコン通信サービス NIFTY SERVE 終了 ・「iLiswave-J」提供開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・伊藤忠テクノサイエンス CRC ソリューションズと経営統合。伊藤忠テクノソリューションズ(CTC)に社名変更 ・金融商品取引法(J-SOX 法)成立 ・Winny による防衛庁機密情報漏洩事件 ・総務省令改正で UHF 帯対応の IC タグやリーダー・ライター機器が続々登場。「RFID 元年」 ・Twitter がサービス開始 ・Google 社が「クラウドコンピューティング」を提唱 ・携帯電話の番号ポータビリティ制度(MNP)開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライブドア・ショック(1 月) ・トリノオリンピック開催、荒川静香がフィギュアスケートで日本人初の金メダル(2 月) ・第 1 回ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)開催、日本が優勝(3 月) ・地上デジタルテレビのワンセグ放送を開始 ・ジャワ島地震(5 月) ・秋篠宮悠仁親王が誕生(9 月) ・日本郵政誕生(10 月)

年次	私立大学キャンパスシステム研究会	・富士通	・業界	・一般
2007 年	<p>6.1 2007 年度総会 富士通本社 会員大学:72 校 登録会員数:465 名 共通テーマ:キャンパスシステムの新たな潮流を創る 講演テーマ/講演者 松下政経塾の人材育成 古山 和宏(松下政経塾)</p> <p>8.29～8.31 第 21 回分科会合同研修会 檀原ロイヤルホテル テーマ:キャンパスシステムの新たな潮流を創る 講演テーマ/講演者 関西国際大学での学習支援の取り組み ～多面的で発展的な取り組みと今後の課題～ 山下 泰生(関西国際大学)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・65nm テクノロジー対応の三重工場 300mm 第 2 棟を稼働開始 ・オープンシステムの新標準となる最速・高信頼性の Solaris/SPARC サーバ「SPARC Enterprise」を投入 ・フィールドイノベーションを提唱し、フィールド・イノベータの育成を開始 ・世界最薄の防水携帯電話「FOMA F703i」発売 ・キッズケータイ「FOMAF801i」を発売 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google が携帯用 OS「アンドロイド」を発表 ・米アップルが iPhone 発売 ・You tube 日本版が公開 ・Windows Vista 販売 ・電子ブックリーダー端末 Amazon Kindle 発売 ・携帯電話・PHS の契約数が 1 億台突破 	<ul style="list-style-type: none"> ・能登半島地震発生(3 月) ・43 年ぶりとなる全国学力調査実施(4 月) ・年金記録漏れ 5,000 万件判明(6 月) ・新潟県中越沖地震発生(6 月) ・参院選で自民党が歴史的惨敗(7 月) ・日本郵政公社の民営化(10 月) ・止まらぬ食品偽装「食」の安全・信頼大きく揺らぐ(12 月)
2008 年	<p>6.6 2008 年度総会 富士通本社 会員大学:74 校 登録会員数:433 名 共通テーマ:キャンパスシステムの新たな潮流を創る 講演テーマ/講演者 高等教育の質保証と『学士力』 濱名 篤(関西国際大学)</p> <p>8.27～8.29 第 22 回分科会合同研修会 信州松代ロイヤルホテル テーマ: キャンパスシステムの新たな潮流を創る 講演テーマ/講演者 「大学のコミュニケーション戦略」 ～カスタマーとなる高校生の理解から～ 小林 浩(株式会社リクルート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Fujitsu Services がアステラス製薬欧州株式会社から 5 年間の IT アウトソーシング契約を獲得 ・携帯電話「らくらくホン」シリーズの累計販売台数が 1200 万台を突破 ・航空分野向け 64 キロバイト大容量 FRMA 搭載の RFID タグを世界で初めて開発 ・暗号化方式 AES256 ビットに対応した 320 ギガバイト 2.5 型 HDD を世界で初めて発売 ・「Ufinity」提供開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・「Windows Server2008」発売 ・ソフトバンクモバイルが「iPhone 3G」発売、社会現象に ・Google「ストリートビュー」の国内提供を開始 ・Twitter 日本語版サービス開始 ・Facebook 日本語版サービス開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・後期高齢者医療制度がスタート(4 月) ・北京オリンピック開催(8 月) ・四川大地震(8 月) ・リーマンショック、世界同時不況(9 月) ・南部陽一郎・小林誠・益川敏英がノーベル物理学賞、下山脩がノーベル科学省を受賞(10 月) ・バラク・オバマが黒人初のアメリカ合衆国大統領となる(11 月)
2009 年	<p>6.5 2009 年度総会 富士通本社 会員大学:72 校 登録会員数:397 名 共通テーマ:学士力確保を支えるキャンパスシステムのあり方 講演テーマ/講演者 静岡産業大学の「教育第一主義」における実践 ～人材の地産・地育への取り組み～ 大坪 檀(静岡産業大学)</p> <p>8.26～8.28 第 23 回分科会合同研修会 信州松代ロイヤルホテル テーマ:学士力確保を支えるキャンパスシステムのあり方 講演テーマ/講演者 学士力と教育の質保証 矢部 正之(信州大学)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界初、国際エネルギースタープログラム 4.0 に対応した PC サーバ「PRIMERGY TX120 S2」を販売開始 ・業界初、グリーン電力証書システムに対応したノート PC 「FMV-BIBLO LOOX U/C50N ECO モデル」を販売開始 ・次世代サービスの新拠点「館林システムセンター新棟」をオープン ・富士通シーメンス・コンピュータズを 100%子会社化し、富士通テクノロジー・ソリューションズを設立 	<ul style="list-style-type: none"> ・Windows7 販売 ・AMD、ネイティブ 6 コアを搭載する Opteron を発表 ・Twitter が世界的に大流行 ・Facebook が MySpace を抜き世界最大となる ・電子ブックリーダー Amazon Kindle の第 2 世代機の売り上げが米国市場を中心に増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・バラク・オバマ、第 44 代アメリカ合衆国大統領に就任(1 月) ・日経平均株価の終値が 7,054 円バブル後の最安値を更新(3 月) ・新型インフルエンザが大流行(5 月) ・裁判員制度始まる(5 月) ・総選挙で民主党が政権交代を実現(8 月) ・政府が円高、デフレ宣言。日航経営危機など企業業績悪化(11 月) ・行政刷新会議の事業仕分け(11 月)
2010 年	<p>6.4 2010 年度総会 富士通本社 会員大学:74 校 登録会員数:455 名 共通テーマ:学士力確保を支えるキャンパスシステムのあり方 講演テーマ/講演者 やれば、できる。 小柴 昌俊(財団法人平成基礎科学財団)</p> <p>9.1～9.3 第 24 回分科会合同研修会 長浜ロイヤルホテル テーマ:学士力確保を支えるキャンパスシステムのあり方 講演テーマ/講演者 クラウドコンピューティングの全面適用とその効果 井上 春樹(静岡大学)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界最高水準である東証の次世代株式売買システム「arrowhead」を稼働 ・富士通トラステッド・クラウド・スクエアを開設 ・「PRIMERGY」により欧州の HPC 市場に参入 ・富士通の新たなブランドプロミス「shaping tomorrow with you」制定 ・国内最大規模、オフィスでの廃棄物ゼロエミッションを達成。機密文書、一般古紙類、産業廃棄物の資源有効利用を推進 ・富士通グループ、環境省より IT サービス業界で初めて「エコ・ファースト企業」として認定 ・大学向け授業支援システム「CoursePower V1」を販売開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・Oracle、Sun の買収完了を発表 ・Apple、タブレット「iPad」を発表 ・「iPad」などの電子書籍リーダーが流行し、電子書籍元年と呼ばれる ・Microsoft、「Windows Azure」を正式公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドバイに世界一の超高層ビル、ブルジュ・ハリフアがオープン(1 月) ・チリ大地震(2 月) ・小惑星探査機「はやぶさ」が 7 年ぶりに地球へ帰還(6 月) ・参院選で民主党が大敗。ねじれ国会に(7 月) ・鈴木章・根岸英一がノーベル化学賞を受賞(10 月) ・チリ鉱山落盤事故、33 人全員が無事救出(10 月) ・羽田空港の新国際線ターミナルがオープン(10 月) ・アラブ世界において大規模民主化運動(アラブの春)が起こる

年次	私立大学キャンパスシステム研究会	富士通	業界	一般
2011 年	<p>3.1 25 周年記念講演(2010 年度事業) 講演テーマ/講演者 なぜ今ドラッカーが求められるのか 岩崎 夏海(放送作家、小説家)</p> <p>6.3 2011 年度総会 富士通本社 会員大学:69 校 登録会員数:465 名 共通テーマ:元気のあるキャンパスを目指して 講演テーマ/講演者 スーパーコンピュータとは何か、 そして次世代スーパーコンピュータ「京(けい)」で何が できるようになるか? 姫野 龍太郎(独立行政法人理化学研究所)</p> <p>8.24~8.26 第 25 回分科会合同研修会 信州松代ロイヤルホテル テーマ:危機管理と事業継続 講演テーマ/講演者 「はやぶさ」と日本の矜持 的川 泰宣(宇宙航空研究開発機構)</p> <p>9.5~9.11 第 7 回海外セミナー フィンランド共和国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーコンピュータ「京」が世界最速を達成 ・スーパーコンピュータ「PRIMEHPC FX10」を発売 ・プライベートクラウド統合製品「Cloud Ready Blocks」を販売 ・パブリック型クラウドサービス「FGCP/S5」を 6 カ国で展開 ・らくらくホンシリーズ累計販売 2,000 万台突破 ・Windows7 ケータイ「F-07C」発売 ・スマートフォン、タブレット端末のブランド名を「ARROWS」に決定 ・大学向け統合 ID 管理パッケージ「UnifDone」を販売開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・NEC とレノボ、パソコン事業で提携「NEC レノボ・ジャパングループ」が発足 ・米 IBM が開発したコンピューターシステム「Watson」が米国のクイズ番組に出演し、クイズ王を抑えて優勝 ・チュニジアやエジプトをはじめとする国で Facebook での呼びかけをきっかけとする政変が発生。東日本大震災の発生により、Twitter などの SNS の活用や震災の映像の YouTube へのアップロードなど、災害時のネットの有用性が再認識される 	<ul style="list-style-type: none"> ・東北新幹線「はやぶさ」が営業運転を開始(3 月) ・東日本大震災 M9.0、福島原発で大津波による大事故(3 月) ・上野動物園で 3 年ぶりにパンダを一般公開(4 月) ・平泉の世界文化遺産登録が決定(10 月) ・サッカー女子日本代表が W 杯で金メダル(7 月) ・アナログ放送が終了、58 年の歴史に幕(7 月) ・タイ洪水
2012 年	<p>6.8 2012 年度総会 富士通本社 会員大学:68 校 登録会員数:512 名 共通テーマ:元気のあるキャンパスを目指して 講演テーマ/講演者 日米のディズニーで教わった感動のサービス 加賀屋 克美 (有限会社加賀屋感動ストアーマネージメント)</p> <p>8.29~8.31 第 26 回分科会合同研修会 信州松代ロイヤルホテル テーマ:大学におけるソーシャルメディアを考える 講演テーマ/講演者 大学におけるソーシャルメディアの活用と事例 鶴野 充茂(ビーンスター株式会社)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富士通グループ初となる、地中熱採熱システムを長野工場に導入 ・スーパーコンピュータ「京」が完成 ・業界初、自社回収した CD/DVD をノートパソコンに再生利用 ・Newsweek.Green Rankings にて二年連続で日系企業の最上位獲得 ・らくらくスマートフォン発売 ・食・農クラウド「Akisai」を発売 ・個人向けクラウドサービス「My Cloud」を提供 ・ビッグデータ活用のためのデータ活用基盤サービス発売 	<ul style="list-style-type: none"> ・Windows8 販売 ・スマートフォン普及率が拡大。 ・スマートフォンで無料通話やメール送受信を行うアプリケーションである LINE が流行 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の原子力発電所がすべて停止(5 月) ・金環日食、国内で 25 年ぶりに観測(5 月) ・東京スカイツリーが開業(5 月) ・ロンドンオリンピック(第 30 回夏季オリンピック)開催。日本最多メダル(7 月) ・山中伸弥教授がノーベル生理学・医学賞を受賞(10 月) ・衆院選において民主党より 3 年ぶりに政権奪回(12 月) ・国内で格安航空会社(LCC)が就航開始
2013 年	<p>6.7 2013 年度総会 富士通本社 会員大学:73 校 登録会員数:587 名 共通テーマ:キャンパスの明日をつくる 講演テーマ/講演者 わかりあえないことから 平田 オリザ(劇作家・演出家、大阪大学)</p> <p>8.29~8.30 第 27 回分科会合同研修会 浜名湖ロイヤルホテル テーマ:大学におけるデータ活用の可能性を探る 〜ビッグデータを考える〜 講演テーマ/講演者 大学におけるビッグデータの活用について考える 佐々木 宏(立教大学)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全社ビジョン「Fujitsu Technology and Service Vision」を策定 ・米フォーチュン誌「世界で最も賞賛される企業」に選出 ・宇宙に最も近い大型電波望遠鏡「アルマ」のスーパーコンピュータが稼働 ・業界初、水性塗料を ICT 機器のプラスチック筐体に適用 ・UNIX サーバ「SPARC M10」が Java アプリケーションで世界最高性能を達成 ・UNIX サーバ「SPARC M10」を発売 ・モバイル製品、サービス群を「FUJITSU Mobile Initiative」として体系化 	<ul style="list-style-type: none"> ・7 月の参院選よりインターネット選挙活動が解禁 ・Windows8.1 発売 ・日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)設立。 ・ウェアラブルコンピュータが流行の兆し ・3D プリンタが流行 ・米 Twitter 上場 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシアのチェリャビンスク州に隕石が落下(12 月) ・日銀が異次元の量的・質的緩和を決定(4 月) ・富士山が世界文化遺産に決定(6 月) ・参院選で自民、公明両党が過半数獲得、ねじれ解消(7 月) ・2020 年夏季五輪・パラリンピックの開催地が東京に決定(9 月) ・消費税率 8%への引き上げ決定(10 月) ・ヒッグス粒子の存在が確認される(10 月)

年次	私立大学キャンパスシステム研究会	富士通	業界	一般
2014 年	<p>6.6 2014 年度総会 富士通本社 会員大学:72 校 登録会員数:611 名 共通テーマ:キャンパスの明日をつくる 講演テーマ/講演者 チームメイクにおけるコーチングと強い組織づくり 平尾 誠二(神戸製鋼ラグビー部、 (元)ラグビー日本代表監督)</p> <p>8.28～8.29 第 28 回分科会合同研修会 浜名湖ロイヤルホテル テーマ:これからの大学を考える 講演テーマ/講演者 社会から期待される大学の姿 伊東 千秋(富士通株式会社)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ製品、サービス群を「FUJITSU Security Initiative」として体系化 ・スーパーコンピュータの高出力接続技術が「恩賜発明賞」を受賞 ・EMEIA、アメリカ、アジア、オセアニア、日本の 5 リージョンに再編し新たなグローバルマトリクス体制を構築 ・会津若松 Akisai やさい工場産キレイヤサイを発売 ・ビジネス創出とグローバルエコシステム形成に向けた IoT プラットフォーム発売 ・世界最軽量のタブレット「ARROWS Tab F-03G」発売 ・大人世代向けパソコン「GRANNOTE (LIFEBOOK AH90/P)」を発売 ・大学向けクラウドソリューション「UniflDone キャンパスクラウド」を提供開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・NTT データ、パチカン市国のパチカン図書館が所蔵する文献のデジタル化プロジェクトを 23 億円で受注したと発表 ・Windows XP サポート終了 ・ドコモが iPhone 販売に参入 ・ネットバンキングの被害が深刻化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソチオリンピック(第 22 回冬季オリンピック)開催、羽生結弦がフィギュアスケート男子シニアのフリープログラムで金メダル(2 月) ・消費税 8%スタート(4 月) ・富岡製糸場が世界文化遺産に決定(6 月) ・全米テニスで錦織圭が準優勝(9 月) ・御嶽山が噴火(9 月) ・青色 LED を開発した赤崎勇、天野浩、中村修二の 3 氏がノーベル物理学賞を受賞(10 月) ・ウクライナ紛争
2015 年	<p>6.5 2015 年度総会及び創立 30 周年記念式典 富士通本社 ロイヤルパークホテル ザ 汐留 会員大学:77 校 共通テーマ:グローバルな学びを育むキャンパスを目指して 講演テーマ/講演者 あたりまえが変われば、結果は変わる!! 藤田 智(富士通アメリカンフットボール部)</p> <p>8.31～9.1 第 29 回分科会合同研修会 浜名湖ロイヤルホテル テーマ:高等教育におけるグローバルの意味を問い直す 講演テーマ/講演者 教育のグローバル化を欧州初等教育の実践から学ぶ 川合 正(東洋大学)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・米フォーチュン誌「世界で最も賞賛される企業」に 3 年連続選出(2 月) ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会ゴールドパートナーに決定(2 月) ・富士通創立 80 周年(6 月) ・デジタル革新を実現するデジタルビジネス・プラットフォーム「MetaArc」を提供(6 月) ・AI 技術を「Human Centric AI Zinrai」として体系化(11 月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・Intel が第 5 世代 Intel Core プロセッサを正式発表(1 月) ・Netflix が日本でサービス開始を発表(1 月) ・Apple Watch の発売(4 月) ・Windows 10 のリリース(7 月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸新幹線開通(3 月) ・ネパール中部地震(4 月) ・天皇皇后両陛下がバオオを公式訪問(4 月) ・日本年金機構より個人情報流出(6 月) ・川内原発が再稼働(8 月) ・日本の安全保障政策に大きな影響を与える法案「安全保障関連法」が成立。(9 月)
2016 年	<p>6.3 2016 年度総会 富士通本社 会員大学:73 校 共通テーマ:個性的な学びを育むキャンパスを目指して 講演テーマ/講演者 目標達成の極意 ～克己心～ 萩原 智子 (日本水泳連盟理事 元水泳競技日本代表)</p> <p>9.1～9.2 第 30 回分科会合同研修会 長浜ロイヤルホテル 参加者 112 名 テーマ:震災!! あなたの大学では? 講演テーマ/講演者 初動とその後の業務継続について 會澤 信(東海大学)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育出前授業が「LCA 日本フォーラム奨励賞」を受賞(1 月) ・女性の活躍推進企業として「なでしこ銘柄」に選定(3 月) ・富士通は、米国のネットワークサービス企業 TrueNet Communications を買収し、グローバルなサービス体制を強化しました(7 月) ・富士通研究所、量子コンピュータを実用性で超える新アーキテクチャーを開発(10 月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・米マイクロソフトが Windows 10 の無償アップグレードを終了、強引な適用に不満も(8 月) ・韓国サムスン電子がバッテリー不具合で『Galaxy Note 7』を回収、生産も中止へ(8 月) ・「ジェイティービー(JTB)子会社で標的型攻撃、約 793 万人の顧客情報流出の可能性」(6 月) ・「米アップルが『iPhone 7/7 Plus』を国内で発売、Apple Pay で Suica を利用可能に」(9 月) ・ドコモ、i モードケータイの出荷を 2016 年内に終了へ(12 月) ・ソフトバンクグループは英 ARM Holdings を約 240 億ポンド(当時の為替レートで約 3 兆 3000 億円)で買収(1 月) ・大手 3 キャリアが、1 ヶ月 5000 円以下を実現するライクユーザー向け新料金を発表(7 月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震、震度 7 を記録(4 月) ・米大統領、歴史的な広島訪問(5 月) ・英国は国民投票で欧州連合(EU)からの離脱を決定(6 月) ・リオ五輪、過去最多 41 メダル(8 月) ・米大統領選でトランプ氏が当選(11 月) ・地球温暖化対策のパリ協定発効(11 月) ・日銀、マイナス金利を初導入(11 月)

年次	私立大学キャンパスシステム研究会	富士通	業界	一般
2017 年	<p>6.9 2017 年度総会 富士通本社 会員大学:77 校 共通テーマ:主体的な学びを育むキャンパスを共創する 講演テーマ/講演者 脳を知って脳を生かす 池谷 裕二(東京大学薬学部 教授)</p> <p>8.31~9.1 第 31 回分科会合同研修会 信州松代ロイヤルホテル 参加者 181 名 テーマ:わたしが創る大学の魅力 講演テーマ/講演者 業績を急回復させた経営の秘訣-廃線寸前のローカル線を救った手法とは- 鳥塚 亮(いすみ鉄道株式会社 代表取締役社長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・米フォーチュン誌「世界で最も賞賛される企業」に 5 年連続で選出(2 月) ・第 26 回地球環境大賞を受賞(3 月) ・2050 年に向けた中長期環境ビジョン「FUJITSU Climate and Energy Vision」を策定(5 月) ・「テレワーク勤務制度」を正式導入(5 月) ・富士通は、革新的な IT 経営を行う企業として「攻めの IT 経営銘柄 2017」に選ばれました(5 月) ・最適な保育所入所選考を実現する AI を用いたマッチング技術を開発(8 月) ・富士通とマイクロソフト、AI 分野で戦略協業(12 月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソニーが新型「aibo」の発売開始(1 月) ・世界規模でのサイバー攻撃が発生(5 月) ・総務省が 5G 総合実証試験の開始を発表(5 月) ・改正個人情報保護法施行(5 月) ・仮想通貨元年「消費税法施行令の一部を改正する政令」により仮想通貨は非課税となった(7 月) ・スマートスピーカー(グーグルホーム)国内販売開始(10 月) ・ドローンがビジネスや行政での活用が進み、関心が高まった 	<ul style="list-style-type: none"> ・米が TPP 離脱へ トランプ大統領令署名(1 月) ・プレミアムフライデースタート(2 月) ・任天堂家庭用ゲーム機「ニンテンドースイッチ」発売(3 月) ・将棋 藤井四段がデビューから無敗のまま公式戦 29 連勝の新記録(6 月) ・都議選小池知事が代表の都民ファーストの会が第 1 党に(7 月) ・プロ野球日本ハム大谷翔平が大リーグエンジェルス入団で合意と発表(12 月)
2018 年	<p>6.11 2018 年度総会 富士通本社 会員大学:79 校 共通テーマ:キャンパスの明日をつくる 講演テーマ/講演者 シンギュラリティ大学で教えるエクスポネンシャル思考とその実践 齋藤 和紀 (エクスポネンシャル・ジャパン株式会社 共同代表)</p> <p>8.30~8.31 第 27 回分科会合同研修会 Royal Hotel 長野 テーマ:「10 年後の大学のあるべき姿」 ワークショップ/講師 村上 和彰(株式会社あしたの学び Lab) (九州大学名誉教授・京都大学博士(工学))</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・量子現象に着想を得た、組合せ最適化問題を高速に解く「デジタルアニーラ クラウドサービス」を提供開始(5 月) ・国際体操連盟、富士通の採点支援システムの採用を決定(11 月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮想通貨市場が急落し、投資家に大きな影響を与えた(1 月) ・EU 一般データ保護規則(GDPR)が施行され、データプライバシーの規制が強化(5 月) ・Apple の時価総額 1 兆ドル突破(8 月) ・AI 技術が急速に進化し、さまざまな業界での応用が進む(通年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビョンチャン冬季オリンピック開幕(2 月) ・史上初の米朝首脳会談(6 月) ・成人年齢 18 歳に引き下げる改正民法成立(6 月) ・埼玉 熊谷で観測史上 国内最高気温の 41.1 度(6 月) ・テニス女子大坂なおみ 全米オープン優勝(9 月) ・東京都中央区の築地市場が 83 年の歴史に幕(10 月) ・女性国家公務員の管理職登用 過去最高(11 月)
2019 年	<p>6.25 2019 年度総会 富士通本社 会員大学:82 校 共通テーマ:多様性を包摂するキャンパスの実現 ～ソサイエティ 5.0 時代の大学を考える～ 講演テーマ/講演者 感性コミュニケーション ～脳科学を学んで、人生の達人になろう～ 黒川 伊保子(株式会社感性リサーチ 代表取締役)</p> <p>8.27~8.28 第 33 回分科会合同研修会 松代ロイヤルホテル 講演テーマ/講演者 働き方改革のリアル 澤 円(圓窓 代表)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音をからだで感じるユーザーインタフェース「Ontenna」イベント支援サービスを提供開始(6 月) ・富士通グループ AI 倫理外部委員会を設置(9 月) ・スーパーコンピュータ「富岳」のテクノロジーをベースに超大規模システム向けのスーパーコンピュータ「FUJITSU Supercomputer RIMEHPC FX1000」を発表(9 月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム業界の業績悪化。スマホゲームの人気低下や既存ゲームへの回帰(上半期) ・業界再編の象徴的な出来事としてヤフーと LINE が経営統合(11 月) ・「GIGA スクール構想」の実現に文部科学省は 2,318 億円を計上(12 月) ・5G サービスの商用化開始。日本で 5G 通信サービスがスタートし、通信技術の新時代が到来(下半期) ・キャッシュレス決済の普及。政府のキャッシュレス推進政策により、QR コード決済や電子マネーの利用が急増(通年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・野球界のレジェンド、イチロー選手が現役引退を発表(3 月) ・パリの歴史的建造物であるノートルダム大聖堂が火災で大きな損傷(4 月) ・徳仁親王が天皇に即位し「令和」に改元(5 月) ・ゴルフの渋野日向子が日本人として 42 年ぶりに海外メジャー大会 全英女子オープン優勝(8 月) ・消費税率が 8%から 10%に引き上げ(10 月) ・米中貿易戦争、米国と中国の間で関税引き上げや交渉が続き、世界経済に影響を与えた(通年)
2020 年	<p>8.17 2020 年度総会(議案の審議・承認) 公式サイト上に議案項目を掲載し正会員代表者に審議いただく。 開催(審議)期間: 2020 年 8 月 4 日(火)から 8 月 17 日(月) 会員大学:53 校</p> <p>11.27 創立 35 周年 特別講演会 オンライン開催 講演テーマ/講演者 99.9%は仮説 ～思い込みで判断しないための発想法～ 竹内 薫(サイエンスライター)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Ridgeline(株)設立(1 月) ・日本初の商用ローカル 5G の運用を開始(2 月) ・スパコン計算速度で「富岳」が世界一(6 月) ・富士通グループの行動の原理原則となる(7 月) ・「Fujitsu Way」を刷新ニューノーマルにおける新たな働き方「Work Life Shift」を推進(7 月) ・富士通 Japan(株)設立(10 月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・5G サービス開始。(3 月) ・新学習指導要領が順次施行され、小中高すべての学校でプログラミング教育が必修化(3 月) ・働き方の変化！リモートワークが主流に ・企業の DX 化が加速 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス国内初の感染者確認(1 月) ・WHO パンデミック宣言 ・新型コロナウイルスの感染拡大を受け政府は緊急事態宣言を発令(4 月) ・春の選抜高校野球大会と夏の全国高校野球選手権大会が中止となった(3 月と 8 月) ・東京五輪・パラリンピックが 1 年延期(8 月) ・自民党の菅義偉総裁が第 99 代の首相に就任した(9 月) ・温室効果ガス「ゼロ」宣言(10 月) ・「はやぶさ 2」カプセル帰還(12 月)

年次	私立大学キャンパスシステム研究会	富士通	業界	一般
2021 年	7.30 2021 年度総会(議案の審議・承認) ホームページ上に議案項目を掲載し正会員代表者に審議いただく。 開催(審議)期間: 2021 年 7 月 15 日から 7 月 30 日 会員大学:80 校	・非接触でクリーンなマルチ生体認証技術を開発。マスク着用での本人確認も可能(1 月) ・新事業ブランド「Fujitsu Uvance」を策定(10 月)	・オリンピック選手村を走る「自律走行型電気自動車」(7 月) ・デジタル社会形成の司令塔「デジタル庁」が発足(10 月) ・Microsoft の最新 OS である「Windows 11」が提供開始(10 月) ・Facebook 社は社名を「Meta(メタ)」に変更(10 月)	・ジョー・バイデン氏が米大統領に就任(1 月) ・コロナワクチン接種が始まる(2 月) ・新型コロナウイルスの世界感染者が 2 億人超に(8 月) ・東京五輪最多 58 メダル(7 月) ・大谷翔平選手メジャーリーグ MVP(11 月) ・秋篠宮家の長女眞子さまが大学時代の同級生小室圭さんと結婚(10 月) ・新変異株「オミクロン株」、世界で感染拡大(11 月)
2022 年	7.30 2022 年度総会 オンライン 会員大学:77 校 共通テーマ:キャンパス×デジタルトランスフォーメーション ～持続可能な大学を考える～ 講演テーマ/講演者 万物は渋滞する ～渋滞学とは何か～ 西成 活裕 (東京大学 先端科学技術研究センター 教授)	・ジョブ型人材マネジメントの対象を一般社員に拡大(4 月) ・「Fujitsu 初等中等教育向けデジタル教材提供サービス」SaaS 型のサービスとして提供開始(8 月) ・病院の DX を加速する大規模病院向けクラウド型電子カルテサービスを提供(8 月)	・世界ユニコーン企業数、1,083 社に達する(4 月) ・EU、デジタルサービス法暫定合意(4 月) ・総務省、情報通信白書 2022 年版発表(7 月) ・Twitter 社のイーロン・マスクによる買収(10 月)	・ロシアがウクライナ侵攻(2 月) ・北京冬季オリンピック:日本選手団は冬季大会で最多となる 18 個のメダルを獲得(2 月) ・参院選で自民大勝、改選過半数(5 月) ・安倍元首相銃撃され死去(7 月) ・エリザベス英女王死去(9 月) ・コロナ猛威続く、感染 2000 万人超(9 月) ・ヤクルト村上、最年少三冠王(10 月) ・インフレ加速、米欧大幅利上げ ・円安進行 10 月 20 日に円相場が一時、1 ドル=150 円台まで下落し、約 32 年ぶりの円安水準を記録(10 月)
2023 年	5.26 2023 年度総会 富士通ソリューションスクエア ハイブリッド開催 会員大学:77 校 共通テーマ: キャンパス×デジタルトランスフォーメーション 大学 DX の現在地 ～現在・未来を考え、実践へ 講演テーマ/講演者 天達流の備え!～異常気象と気象災害対策～ 天達 武史 (気象予報士)	・自治体向けに業務効率化と住民サービス向上を支援する「Fujitsu Government Cloud Solution for Microsoft Azure」を提供開始(5 月) ・AI プラットフォーム「Fujitsu Kozuchi」を発表(7 月) ・生成 AI を活用した新たなソリューション・サービス群「Fujitsu Generative AI Solution Portfolio」を提供開始(8 月) ・大阪大学と共同で、量子コンピューティング技術を活用した創薬支援プラットフォームを開発(9 月)	・ChatGPT の API 公開(3 月) ・Google、米国と英国で「Gemini」をリリース(3 月) ・Microsoft、OpenAI と提携強化(5 月) ・Amazon、クラウドサービス AWS の新機能追加(7 月) ・Apple、iPhone 15 シリーズ発売、USB-C 採用(9 月) ・Meta、メタバース関連技術の新展開(10 月) ・IBM、量子コンピュータの新モデル発表(11 月)	・フィンランドの NATO 加盟(4 月) ・WHO が新型コロナウイルスの緊急事態を解除(5 月) ・G7 広島サミット開催(5 月) ・モロッコ大地震(9 月) ・イスラエル・ハマス紛争の激化(10 月) ・COP28(国連気候変動枠組条約第 28 回締約国会議)開催(11 月-12 月) ・中国が 61 年ぶりに人口減少を発表(12 月)
2024 年	5.23 2024 年度総会 Fujitsu Uvance Kawasaki Tower 会員大学:72 校 共通テーマ: キャンパス×デジタルトランスフォーメーション×AI 講演テーマ/講演者 師匠が語る弟子・藤井聡太という才能 杉本 昌隆 (棋士)	・スーパーコンピュータ「富岳」で学習した大規模言語モデル「Fugaku-LLM」を公開(5 月) ・富士通と産学組織が 9 者で共創し、世界初の偽情報対策プラットフォームの構築を開始(10 月) ・世界初、スーパーコンピュータ「富岳」を用いてグラフ解析性能 200TeraTEPS を突破(11 月)	・Meta の AI トレーニング目的で Instagram/Facebook 投稿を活用(9 月) ・量子コンピュータ・分野の進展(9 月) ・CEDIA Expo 等・グローバル大型テックイベント(9 月) ・CrowdStrike 不具合による世界的 IT 障害(7 月頃発生、報告 9 月)	・能登地震発生(1 月) ・イラン大統領のヘリコプター墜落事故(5 月) ・パリ五輪・パラリンピック開催(7 月) ・日本で衆院選が実施(10 月) ・COP29(国連気候変動枠組条約第 29 回締約国会議)開催(11 月)

2016年度活動実績

(1) 第一分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	6月9日(木)	山梨大学 甲府キャンパス テーマ:反転授業 ①学生の主体的な学びを引き出す反転授業とアクティブラーニング 山梨大学 教育国際化推進機構 大学教育センター センター長 埴 様 ②反転授業作成動画ツール等のご紹介と体験、質疑応答	32 名
2	7月14日(木)	株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ テーマ:共創支援と学習支援 ①みらいDOORSについて紹介 株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ イノベーション戦略本部 本部長 平松 様 ②共創支援&学習支援ツール群「Webコア Innovation Suite」のご紹介と体験 ③CoursePowerV2(教育基盤システム)のご紹介と体験 富士通株式会社 文教ビジネス推進統括部 ソリューション推進部 村上 様 ④まとめ	35 名
3	9月1日(木) ～2日(金)	長浜ロイヤルホテル テーマ:理想の授業とその作り方 [午前の部]理想的な大学の授業とは? ①ワークショップ ・アイスブレイク Part.1 ・これまでの第一分科会の活動の振り返り ・授業デザインのコツ ・意見交換会 [午後の部]実践!教材作成体験 ②体験学習 ・アイスブレイク Part.2 ・教材作成方法説明 ・グループごとに教材作成体験 ・テーマ選定 ・プレゼン資料/ナレーション作成 ・教材収録 ③まとめ ・グループ発表	23 名
4	10月20日(木) ～21日(金)	[1日目]富山大学 五福キャンパス [2日目]金沢大学 角間キャンパス テーマ:[1日目]学生FDと学生参画のアクティブ・ラーニング授業 [2日目]アクティブ・ラーニングの深化と充実 [1日目] ①時空を超えて ～岡山大の学生発案授業と‘橋本メソッド’の融合～ 富山大学 教育・学生支援機構 教授 教育推進センター 副センター長 UD Mates(学生・市民参画型FD組織)教員代表 橋本 様 ガイダンス(見学する授業について) ②学内自由見学および意見交換 ③授業見学:「新聞投稿に挑戦」 ④受講生とCS研参加者とのグループ討議 [2日目] ⑤教師相互、学生相互の学びあいによるアクティブ・ラーニング型授業の深化と充実 金沢大学 国際基幹教育院 高等教育開発・支援系 准教授 杉森 様 特任助教 河内 様 ⑥施設見学	28 名
5	12月12日(月)	青山学院大学 青山キャンパス テーマ:スーパーグローバルハイスクール(SGH) ①青山学院高等部 SGHの取組のご紹介 ～ その悩みと苦しみ ～ 青山学院高等部 国際交流委員長 藤井 様 ②一貫校のICTインフラと教育を支援する情報メディアセンターの取り組み 青山学院大学 情報メディアセンター 助教 湯浅 様 ③意見交換・1年間のまとめ ④施設見学	39 名

小計 157 名

2016年度活動実績

(2) 第二分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	5月20日（金）	株式会社富士通マーケティング 品川本社 テーマ:教務業務・システムの原点に立ち返る① ①グループワーク・発表・質疑応答 ②施設紹介と見学	46 名
2	6月16日（木） ～17日（金）	[1日目]高知工科大学 永国寺キャンパス [2日目]高知工科大学 香美キャンパス テーマ:クォーター制の教育効果／地域連携のあり方 [1日目] ①高知工科大学のクォータ制度の仕組みと課題 高知工科大学 教務部 教務課長 竹田 様 ②意見交換 [2日目] ③高知工科大学が目指す戦略的地域貢献 枯れない油田プロジェクトの社会実装 高知工科大学 プログラム・オフィサー 久須美 様 高知工科大学 地域連携機構 社会連携センター長 永野 様 ④意見交換会 ⑤施設見学	39 名
3	9月1日（木） ～2日（金）	長浜ロイヤルホテル テーマ:午前の部 リアルアクティブラーニング体験！ 午後の部 創発型研修から発想力を身につけよう [午前の部] 講師:(株)内田洋行&パワープレイス(株) ①リアルアクティブラーニング体験！ ②ワークショップガイダンス [午後の部] 講師:富士通(株)行政・文教システム事業本部 文教事業推進部 古沢 様 ③ワークショップ(グループワーク) ④総括	40 名
4	10月18日（火）	愛知学院大学 名城公園キャンパス テーマ:教務業務・システムの原点に立ち返る② ①愛知学院大学・統合事務システム ～2014年リプレイスから現在の運用まで～ 愛知学院大学 大学事務電算化企画室 小林 様 ②中部大学の事務システムの紹介 教務系システムについて 中部大学 学生教育部 教務支援課 担当課長 清水 様 ③グループワーク・発表・質疑応答 ④施設見学	60 名
5	12月6日（火）	共立女子大学・共立女子短期大学 テーマ:ラーニングコモンズ ①新図書館の取り組みご紹介 施設紹介・見学(第四分科会と合同開催) ②ICTを活用した業務改善の可能性 ～本学の事例～ 共立女子大学・共立女子短期大学 教務課統括課長 丸山 様 ③グループワーク1 発表・質疑応答 「原点に立ち返り、業務の効率化を考える」 ④グループワーク2 発表・質疑応答 「CS研及び第二分科会に期待すること」	41 名

小計 226 名

2016年度活動実績

(3) 第三分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	5月27日(金)	<p>[第1部] 富士通株式会社 汐留本社 [第2部] 富士通株式会社 netCommunity テーマ: 最新技術の動向を探る</p> <p>[第1部] ① 富士通研究所のご紹介 ② 安全なデータ活用を支えるセキュリティ～ブロックチェーン、行動リスク評価～ 富士通研究所 プロジェクトディレクター 津田 様</p> <p>[第2部] ③ 社長メッセージ「豊かな未来社会」 ④ ヒューマンセントリックIoT ～お客様の共創ビジネスへの取り組み～ ⑤ 2025年に向けた新しいまちづくり ～誰もがスポーツに親しみ、健康な生活を満喫しているまち～ ⑥ デモゾーンご見学 ⑦ 質疑応答・討議</p>	38 名
2	6月30日(木)	<p>玉川大学 大学研究室棟 テーマ: 個性的な学びを育むキャンパスを目指して ～ 学びを育むためのICT環境を探る! ～</p> <p>① 施設見学 ② 教育系システムの運用について(大学共通コンピュータ演習室) 玉川大学 教育学部 教育学修支援課 柿原 様 ③ 意見交換会 ④ Unified-One 統合データベース 富士通株式会社 文教ビジネス推進統括部 ソリューション推進部 高村 様</p>	50 名
3	9月1日(木) ～2日(金)	<p>長浜ロイヤルホテル テーマ: セキュリティインシデント発生! ～その時 あなたは何ができますか?～</p> <p>[午前の部] ① 全体学習 事例や対策について ② グループ学習 たられば ケーススタディ ③ グループ発表 発見から再発防止まで、初動対応や報告のまとめ ④ 午後の演習の事前説明</p> <p>[午後の部] ⑤ グループ演習開始 インシデント発生、各グループ対応開始 ⑥ グループ発表</p>	37 名
4	10月13日(木) ～14日(金)	<p>[1日目] 大阪経済大学 [2日目] 関西国際大学 尼崎キャンパス テーマ: 個性的な学びを育むキャンパスを目指して ～ 学びを育むためのICT環境を探る! ～</p> <p>[1日目] ① 教育系システム全体更新 ～更新概要、運用開始後の問題点と対応策～ 大阪経済大学 情報処理部情報システム課 大井 様 ② 施設見学 ③ 大学向け授業支援システム「CoursePower V2」 富士通株式会社 文教ビジネス推進統括部 ソリューション推進部 村上 様 ④ 意見交換会</p> <p>[2日目] ⑤ 質保証の実質化に向けた挑戦 ～ICTを活用した仕組みづくり～ 金沢工業大学/関西大学/関西国際大学 関西国際大学 教務部 部長 得永 様 ⑥ 施設見学 ⑦ 意見交換会</p>	46 名
5	12月9日(金)	<p>文教大学 越谷キャンパス テーマ: 個性的な学びを育むキャンパスを目指して ～ 学びを育むためのICT環境を探る! ～</p> <p>① 文教大学越谷キャンパス 教育研究用情報環境整備と運用 ～学生・教職員の使いやすい環境を目指して～ 学校法人文教大学学園 法人事務局 参事 衛藤 様 ② 施設見学 ③ 富士通デジタル・トランスフォーメーション・センターに関して 富士通株式会社 サービス&システム推進本部 東日本サービス&システムビジネス統括部 首都圏ビジネス部 DTC共創ワークショップ・ファシリテーター 平井 様 ④ 意見交換会</p>	45 名

小計 216 名

2016年度活動実績

(4) 第四分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	5月20日(金)	<p>[第1部] 新有楽町ビル [第2部] 東京国際フォーラム テーマ: 教育・研究に対する図書館支援のあり方</p> <p>[第1部] ① これからの学術情報サービス: 2020年に向けての取り組み 国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 准教授 コンテンツシステム開発室長 大向 様</p> <p>[第2部] ② デジタルラーニング革命でひろがる教育の未来 国立大学法人九州大学 名誉教授 公益財団法人九州先端科学技術研究所(ISIT) 副所長 村上 様</p> <p>③ Fujitsu Forum 2016の自由見学 ④ 大学図書館におけるMOOCの活用 ～お気軽MOOCデモと実習計画～ 富士通株式会社 行政・文教システム事業本部 松永 様、笠原 様 ⑤ ライトニング・トーク紹介および発表</p>	47 名
2	7月8日(金)	<p>株式会社富士通エフサス 銀座オフィス テーマ: ライブラリー・ファシリテーター入門</p> <p>[第1部] ① ご講演とワークショップ「ライブラリー・ファシリテーター入門」 図書館パートナーズ代表 北村 様</p> <p>[第2部] ② お手軽MOOC ～第2回 MOOC作成実習 作成支援 富士通株式会社 塩田 様、笠原 様 ③ 変革する大学を支える図書館システム iLiswave-J V3 富士通株式会社 芦田 様 ④ ライトニングトーク</p>	32 名
3	9月1日(木) ～2日(金)	<p>長浜ロイヤルホテル テーマ: 体験! SaaSを活用した学修環境</p> <p>[午前の部] ① 「FUJITSU Cloud IaaS Trusted Public S5」を活用したクラウド環境体験 ― クラウドは役に立つのか? ― ・クラウドソリューションご紹介、クラウドサービス(S5)実習</p> <p>② 事例紹介「図書館で活用できるクラウド」 ・Google Apps活用事例、Office365 活用事例</p> <p>[午後の部] ③ 図書館サービスと「障害者差別解消法」 立命館大学 学術情報部 図書館サービス課 課長補佐 三谷 様</p> <p>④ 「Fisdome + お気軽MOOC」 ― Fisdome は役に立つのか? ― ・通年企画「お気軽MOOC」とFisdomeのコラボ ・FUJITSU Cloud Service K5を利用したデジタルラーニング</p> <p>⑤ 今回の研修会のまとめ</p>	25 名
4	10月27日(木) ～28日(金)	<p>[1日目] 金沢工業大学 扇が丘キャンパス [2日目] 金沢大学 角間キャンパス テーマ: 新しいコンセプトの図書館、システムの導入</p> <p>[1日目] ① 課題解決支援図書館: 金沢工業大学ライブラリーセンターの試み - サブジェクト・ライブラリアンとラーニング/リサーチ・コモンズ - 金沢工業大学 教授 工学博士 ライブラリーセンター館長 建築アーカイヴズ研究所長 笠 様</p> <p>② 施設見学 ③ 意見交換会 ④ ライトニングトーク</p> <p>[2日目] ⑤ JMOOC公認コース事例「日本と世界の里山・里海」 金沢大学 総合メディア基盤センター 主任 富田 様</p> <p>⑥ Digital Learning Platform「Fisdome」について 富士通株式会社 行政・文教システム事業本部 第六ソリューション統括部 DLP推進室 室長 松永 様</p> <p>⑦ 地方創生におけるMOOC活用「いしかわの未来可能性」 金沢大学 地域連携推進センター 特任教授 宇野 様</p> <p>⑧ 金沢大学様講座の受講状況分析 富士通株式会社 行政・文教システム事業本部 第六ソリューション統括部 DLP推進室 小川 様</p> <p>⑨ 質疑応答 ⑩ 図書館・ラーニングコモンズ見学 ⑪ 意見交換会 ⑫ お手軽MOOC 体験</p>	39 名
5	12月6日(火)	<p>共立女子大学・共立女子短期大学 テーマ: 個性的な学びの場</p> <p>[第1部] ① 新図書館の取り組みご紹介、施設紹介・見学</p> <p>[第2部] ② ITを使った図書館広報 事例提示とグループ討議 共立女子大学 小國 様</p> <p>③ iLiswave-J V3 エンハンス計画のご紹介とやりたい放題ご回答 富士通株式会社 島田 様</p> <p>④ お手軽MOOC まとめ ⑤ 討議 本年度活動のまとめと来年度の活動について ～アンケートをもとに～</p>	39 名
小計			182 名

2016年度活動実績

(5) 第五分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	7月12日(火)	富士通株式会社 本社事務所 テーマ:私立大学等改革総合支援事業が目指すもの ①ワークショップ1(自己チェック) 「私立大学等改革総合支援事業調査票(平成27年度版)」による自己チェック ②補助金獲得に向けて必要な大学の姿勢とは? 東通産業株式会社 理事 石川 様 ③私学助成金概要と改革総合支援事業について 富士通株式会社 大学ビジネス推進部 佐藤 様 ④ワークショップ2(自己採点) ワークショップ1で実施した回答票(自己チェックシート)と昨年度の選定表を 対比しながら自己診断する。 ⑤ワークショップ3(グループ討議) ワークショップ2の結果を踏まえ、選定に必要なコトとモノについて大学IRの 活用の視点も含めながら、参加者(グループ)間で討議する。 ⑥まとめと講評	37 名
2	11月22日(火)	株式会社富士通エフサス 銀座オフィス テーマ:大学組織と大学IR ①芝浦工業大学における私立大学等改革総合支援事業への取組 芝浦工業大学 豊洲学事部大学企画課 白石 様 ②意思決定支援に向けたIRオフィスの活動 ～ 統合型データベースと Fact Book の作成・活用 ～ 明治大学 教学企画部 評価情報事務室 山本 様 ③Unified-One 統合データベース ご紹介 ～ 統合DBを使った高校評定とGPAの相関 他 ～ 富士通株式会社 文教ビジネス推進統括部 ソリューション推進部 村上 様 ④グループ討議 ⑤まとめと講評	44 名
小計			81 名

2016年度活動実績

(6) 第六分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	6月16日(木)	<p>甲南大学 岡本キャンパス</p> <p>テーマ:PC vs スマートデバイス ～スマホの活用事例とタブレットからPCに戻した事例～</p> <p>①事例紹介1 タブレットからPCに戻した背景や経緯&学生のスマホ利用状況 甲南大学 マネジメント創造学部 教授 井上 様</p> <p>②事例紹介2 スマートデバイスでアクティブラーニング! ～MOVARIを使ってやってみた～ 甲南大学 共通教育センター 講師 篠田 様</p> <p>③ワークショップ 模擬授業:アクティブ・ラーニング支援アプリ(MOVARI)のタッチ&トライ</p> <p>④施設紹介と見学</p>	54 名
2	9月1日(木) ～9月2日(金)	<p>長浜ロイヤルホテル</p> <p>テーマ:PC vs スマートデバイス ～ワールド・カフェ 三昧(がつつり2h)～</p> <p>①事例紹介1 東京大学様におけるパブリッククラウドを活用した全学統合認証基盤の構築事例 富士通 行政・文教システム事業本部 プラットフォームインテグレーション統括部 湯沢 様</p> <p>②事例紹介2 対話型授業における発話と手書きメモの即時デジタル化の実証研究 富士通 行政・文教システム事業本部 プラットフォームインテグレーション統括部 水野 様</p> <p>③ワークショップ(以下3テーマにてワールド・カフェを開催)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会が求めるICTリテラシーとは? 2. プライベート/仕事(学習)でのPC、スマートデバイスの使い分けは? 3. 大学でやるべき情報教育は? <p>～学生は社会に出るまでに何を身に着けたいか?～</p>	33 名
3	12月1日(木)	<p>関西大学 梅田キャンパス</p> <p>テーマ:PC vs スマートデバイス ～新しい情報教育のあり方を考える～</p> <p>①関西大学梅田キャンパスのご紹介と見学 関西大学 梅田キャンパスオフィス 事務長 服部 様</p> <p>②工学系大学生のPCおよびスマートフォンの使用に関する調査報告 大阪工業大学 情報センター 講師 越智 様</p> <p>③企業における新入社員研修の状況と新入社員の傾向について 富士通ラーニングメディア ナレッジサービス事業本部 第一ラーニングサービス部 部長 平井 様</p> <p>④ワークショップ (以下テーマにてワールド・カフェを開催) 「10年後の業務スタイルはどうなっているか～10年後に向けての リテラシー教育を考える～」</p> <p>⑤今年度活動の振り返り</p>	59 名

小計 146 名

2016年度活動実績

(7) 総会

開催日	場所・内容等	参加人数
6月3日(金)	富士通株式会社 本社事務所 24階 大会議室 ①総会議事 ②特別講演「目標達成の極意 ～克己心～」 日本水泳連盟理事 元水泳競技日本代表 萩原 智子 様 ③懇親会	114 名

(8) 合同研修会

開催日	場所・内容等	参加人数
9月1日(木) ～2日(金)	長浜ロイヤルホテル テーマ:「震災!!あなたの大学では?」 ①特別講演 ・【自分研究】被災地での活動の振り返り 株式会社地域活性化総合研究所 福山 様 ・震災とICT ～熊本地震を振り返って～ 株式会社富士通九州システムズ 田口 様 ②大規模地震対策模擬訓練 ・事例紹介 東海大学 會澤 様 ・ワークショップ 株式会社富士通総研 古本 様 ③賛助会員ソリューション紹介 ④分科会活動	192 名

(9) トピックス企画

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	11月4日(金) 【技術講習会】 (東京)	株式会社富士通ラーニングメディア 品川ラーニングセンター テーマ:業務に役立つ! Excelによるデータ活用(集計編) [講師] 株式会社富士通ラーニングメディア [概要] データの並び替えや、複雑な計算や操作をすることなくドラッグ&ドロップするだけでデータ集計できるピボットテーブル、さまざまな視点で集計を行うために、元データを適切に加工するための関数など、既存の大量データを効率よく集計する実践的な手法を実習する。	14 名
2	12月12日(月) 【技術講習会】 (名古屋)	株式会社富士通ラーニングメディア 名古屋ラーニングセンター テーマ:業務に役立つ! Excelによるデータ活用(集計編) [講師] 株式会社富士通ラーニングメディア [概要] データの並び替えや、複雑な計算や操作をすることなくドラッグ&ドロップするだけでデータ集計できるピボットテーブル、さまざまな視点で集計を行うために、元データを適切に加工するための関数など、既存の大量データを効率よく集計する実践的な手法を実習する。	9 名
3	3月9日(木) 【最新技術セミナー】	理化学研究所 計算科学研究機構(RIKEN AICS) ①スーパーコンピュータ「京」の成果とポスト「京」の開発について 理化学研究所 計算科学研究推進室 参事 辛木 様 ②スーパーコンピュータ「京」見学と質疑応答 ③施設見学	21 名
4	2月24日(金)	賛助会員情報交換会 以下2拠点にてテレビ会議を実施 ・富士通株式会社 本社事務所 24階 大会議室 ・富士通株式会社 関西システムラボラトリ 8階 TV会議室	38 名

小計 82 名

2016年度活動実績

(10)テーマ別WG Campusmate勉強会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	5月27日(金)	清泉女子大学 テーマ:履修処理～成績処理 [午前の部] ①Campusmate-J 操作説明会(デモ形式)、質疑応答 富士通株式会社 文教ビジネス推進統括部 ソリューション推進部 三宅 様 [午後の部] ②事例紹介&質疑応答 清泉女子大学 情報環境センター センター長 可児 様 ③意見交換会 ④Campusmateのエンハンス説明 富士通株式会社 行政・文教システム事業本部 第五ソリューション統括部 第一アプリケーション開発部 シニアマネージャー 清水 様 ⑤パッケージ意見交換会 ⑥新製品ご紹介 富士通株式会社 文教ビジネス推進統括部 ソリューション推進部 村上 様 ⑦施設見学	110 名
2	9月14日(水)	京都ノートルダム女子大学 テーマ:ポータル(シラバス) [午前の部] ①Campusmate-J ポータル操作説明会(デモ形式)、質疑応答 富士通株式会社 文教ビジネス推進統括部 ソリューション推進部 村上 様 [午後の部] ②事例紹介&質疑応答 京都ノートルダム女子大学 教務部教務課 課長 小林 様 ③第一回(前回)質疑事項への対応について ④意見交換パート1(業務全般に関する意見交換) ⑤意見交換パート2(パッケージ意見交換) ⑥新製品ご紹介 富士通株式会社 文教ビジネス推進統括部 ソリューション推進部 三宅 様 ⑦施設見学	69 名
3	1月20日(金)	亜細亜大学 テーマ:学生カルテ/各種申請業務 [午前の部] ①Campusmate-J 操作説明会(デモ形式)、質疑応答 [StudentChart/Support] 富士通株式会社 文教ビジネス推進統括部 ソリューション推進部 三宅 様 ②グループ分け、自己紹介 [午後の部] ③Campusmate-J V3 導入事例 ～教学部門における取り組み～ 亜細亜大学 教学センター 学生情報管理課 望月 様 ④次期エンハンスのご紹介 富士通株式会社 行政・文教システム事業本部 第五ソリューション統括部 第一アプリケーション開発部 シニアマネージャー 清水 様 ⑤意見交換パート(テーマ:学生カルテ/各種申請業務) ⑥Unified-One 統合データベース ～大学の明日を創る、戦略的情報活用プラットフォーム～ 富士通株式会社 文教ビジネス推進統括部 ソリューション推進部 前 様 ⑦施設見学	102 名

小計 281 名

2016年度参加者数合計 1,677 名

2017年度活動実績

(1) 第一分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	6月16日(金)	放送大学 本部 テーマ:多様性の中での学び ①施設見学(小スタジオ 移動含む) ②ご講演1「放送大学におけるオンライン授業について」 放送大学 オンライン教育センターシステム・マネージャー 准教授 秋光 淳生 様 ③ご講演2「放送大学は誰がどこで何をどのようにして学んでいるのか」 放送大学 客員教授 遠山 紘司 様 ④施設見学(スタジオ、千葉学習センター) ⑤意見交換	29 名
2	7月24日(月)	日本大学 船橋キャンパス テーマ:学生の主体的・能動的な学び [第一部] ①初年次教育プログラム「海洋建築だから出来る“より良い未来”の提案」の 最終発表会(ポスター発表)への参加 [第二部] ②大学紹介 日本大学理工学部海洋建築工学科 准教授 惠藤 浩朗 様 ③ご講演1「主体的な学びを引き出す学生の意識向上を目的とした海洋建築の試み」 日本大学理工学部海洋建築工学科 特任教授 登川 幸生 様 ④ご講演2「学科PR活動ーオープンキャンパスや高大連携における取組み」 日本大学理工学部海洋建築工学科 助教 野志 保仁 様 ⑤ご講演3「キュレーション学修による能動的学修スキル育成の実践」 横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 教授 田名部 元成 様 ⑥施設見学(テクノプレース15 大型水槽実験施設、大型構造物試験センター、 先端材料科学センターなど)	30 名
3	8月31日(木) ～9月1日(金)	信州松代ロイヤルホテル テーマ:新しい学びのカタチとは? [午前の部] ①大人もノリノリに! 主体的な学びのワクワクワークショップ! 講師:青山学院大学 情報メディアセンター 助教 湯浅 且敏 様 ②解説と意見交換会 [午後の部] ③サービス紹介: 『地域共創型PBLの試みについて』 富士通株式会社 行政・文教FI統括部 フィールド・イノベーション本部 フィールドイノベータ 首藤 好秋 様 木村 剛美 様 ④まとめ	23 名
4	10月12日(木) ～13日(金)	[1日目]大阪工業大学 梅田キャンパス [2日目]株式会社富士通エフサス テーマ:学生の主体的・能動的な学び [1日目] ①ご講演「大阪工業大学におけるアクティブ ラーニングの取り組み ～300名BYODフルクラウド授業の実践～」 大阪工業大学 ロボティクス&デザイン工学部 システムデザイン工学科 教授 井上 明 様 ②意見交換 ③施設見学 [2日目] ④ご講演「GISとオープンデータを用いた地域教育の実践事例」 人と防災未来センター 主任研究員 坪井 塑太郎 様 ⑤実機を使った演習・意見交換	28 名
5	12月6日(水)	青山学院大学 青山キャンパス テーマ:コミュニケーション、場づくりの学び ①ご講演・参加型体験活動 「主体的で協同的な学びの場をデザインするワークショップデザイナー 育成プログラム」 青山学院大学 社会情報学部 教授 荻宿 俊文 様 ②施設見学 ③意見交換・1年間のまとめ	41 名

小計 151 名

2017年度活動実績

(2) 第二分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	5月26日(金)	富士通株式会社 神奈川支社 テーマ:教務業務・教務システムの比較・共有①“シラバス” ①ソリューション紹介「新たなスキル教育の実践『キュレーションラーニング』」 アクティブラーニングへのAI適用の試み 富士通株式会社 文教ビジネス推進統括部 ソリューション推進部 宮島 郁子 様 ②グループワーク1(履修について) ③グループワーク2(シラバスについて) ④発表・まとめ	55 名
2	6月29日(木) ～30日(金)	[1日目]九州産業大学 [2日目]久留米大学 御井キャンパス テーマ:アクティブ・ラーニングの実践 [1日目] ①事例紹介「九州産業大学の教育事例紹介 ～KSU基盤教育及びKSUプロジェクト型教育～」 九州産業大学 教務部 係長 一ノ瀬 大一 様 ②授業体験(KSUプロジェクト型教育体験) 九州産業大学 経営学部 産業経営学科 教授 間間 理 様 ③授業体験終了後、参加者による意見交換 ④施設見学 [2日目] ⑤事例紹介「久留米大学御井学舎学務システムの導入について ～V1からV3へ～」 久留米大学 本部事務局 情報システム室 係長 八ツ繁 好伸 様 ⑥意見交換会「テーマ:教務とシステムの“ポジティブ・ネガティブ”事例共有」 ⑦施設見学	69 名
3	8月31日(木) ～9月1日(金)	信州松代ロイヤルホテル テーマ:大学職員としてのスキルアップを図る [午前の部] ①ワークショップ「ワークスタイル変革」 ファシリテーター:富士通株式会社 パートナービジネス&SSB推進本部 公共・東日本サービス&システム ビジネス統括部 首都圏ビジネス部 平井 克 様 [午後の部] ②ワークスタイル変革ワークショップ ファシリテーター:パワープレイス株式会社 濱村 道治 様	25 名
4	10月26日(木)	東京都市大学 二子玉川夢キャンパス テーマ:教務業務・教務システムの比較・共有②“履修” ①事例紹介「東京都市大学における教務業務とシステム活用 ～世田谷キャンパスの履修業務と運用の紹介～」 東京都市大学 学生支援部 教育支援センター 畠山 祥吾 様 ②施設紹介 東京都市大学 総合情報システム部 ICT推進課 課長 靱江 哲生 様 ③意見交換会・発表・まとめ 「テーマ:“履修”について各大学の業務とシステム課題を比較・共有する」	67 名
5	12月14日(木)	明治大学 駿河台キャンパス テーマ:IR(Institutional Research)を学ぶ ①ご講演「IRオフィスの活動とデータ分析 ～教学マネジメントを支援するデータ分析～」 明治大学 評価情報事務室 山本 幸一 様 ②ソリューション紹介 富士通株式会社 文教ソリューション事業本部 ソリューション事業部 第一ソリューション部 原井 萌 様 ③意見交換会「テーマ:IRってなに? 大学でどんなことをしているのか共有する」 ④まとめ(1年間のまとめ、次年度への要望)	75 名

小計 291 名

2017年度活動実績

(3) 第三分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	5月12日(金)	富士通デジタル・トランスフォーメーション・センター テーマ: 大学の取り組みに対してICT検討チームが支援できることの可視化 ①共創ワークショップ (本日の目標確認、共創ワークショップ、グループ討議) ②施設見学 ③まとめ (グループ討議の発表、まとめ)	50名
2	6月29日(木) ～30日(金)	[1日目]福岡建設会館、株式会社富士通九州システムサービス [2日目]九州大学 テーマ: 大学におけるPCの運用管理と学生PCの必携化 [1日目] ①討議に向けた情報提供 「windows10のサービシングモデルについて」 株式会社富士通クオリティ&ウィズダム 第一プロフェッショナルサポート事業部 担当部長 柏木 雅之 様 「PC教室運用管理の動向変化」 富士通株式会社 文教システム事業本部 第一システム事業部 第一システム部 越智 孝宏 様、木村 忍 様 「九州におけるPC教室運用管理の動向」 富士通株式会社 文教システム事業本部 第一システム事業部 第三システム部 シニアマネージャー 廣田 多加治 様 「瞬快シリーズ最新情報ご紹介」～FAT-PCでの快適利用を実現～ 富士通株式会社 デジタルフロント事業本部 エンドポイントビジネス事業部 戦略企画部 樺本 健二 様 「学生推奨パソコン『LIFEBOOK UHシリーズ』」 富士通株式会社 文教ビジネス推進統括部 大学ビジネス推進部 鴨志田 雅代 様 ②ディスカッションとグループワーク「PC教室運用管理、ノートPC必携化」 ～共通課題の可視化と解決に向けた施策検討～ ③「Qube」施設見学 [2日目] ④事例紹介・ご講演「九州大学における学生PC必携化(BYOD)とその後」 九州大学 情報統括本部 名誉教授・特任教授 藤村 直美 様 ⑤意見交換	56名
3	8月31日(木) ～9月1日(金)	信州松代ロイヤルホテル テーマ: ボードゲームで学ぶ情報セキュリティ ～大学での活用～ [午前の部] ①参加者紹介、プログラム紹介 ②全体学習1 ・情報セキュリティ教育・学習コンテンツの取り組み紹介と理解 ・インシデント対応ボードゲーム演習 [午後の部] ③全体学習2 ・情報セキュリティ教育・学習コンテンツの開発 ・大学において、いつ発生してもおかしくないインシデントの洗い出し ④グループ演習 ⑤グループディスカッション ⑥まとめ	30名
4	10月20日(金)	関東学院大学 横浜・金沢八景キャンパス テーマ: 大学の取り組み・事例紹介 ①事例紹介「学びを支える情報環境整備(ネットワーク、PC演習室)」 関東学院大学 情報科学センター運用課長 小糸 達夫 様 ②施設見学 ③意見交換会	61名
5	12月8日(金)	工学院大学 新宿キャンパス テーマ: 大学の取り組み・事例紹介 ①事例紹介1 「工学院大学におけるICTへの取り組み」 工学院大学 情報システム部 小野垣 仁 様 ②施設見学 ③事例紹介2 「共同利用コンピュータシステムの更新 ～vGPUを使用したVDIの構築と統合認証システムの導入～」 工学院大学 情報システム部 高橋 佳大 様 ④仮想GPUソリューション最新情報 エヌビディア合同会社 部長 田上 英昭 様 ⑤意見交換	63名

小計 260名

2017年度活動実績

(4) 第四分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	5月19日（金）	<p>[第1部] 東京ビッグサイト [第2部] 東京ベイ有明ワシントンホテル テーマ: 大学間でキョウドウする</p> <p>[第1部] ① EDIX見学(自由見学)</p> <p>[第2部] ② ご講演「2020年のNACSIS-CAT/ILLについて」 国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 准教授 コンテンツシステム開発室長 大向 一輝 様</p> <p>③ 意見交換会「EDIXを見て感じた、これは図書館で使える」</p> <p>④ 賛助会員ソリューション FOM出版の教材のご紹介 (丸善「eBookLibrary」教材) 富士通エフ・オー・エム株式会社 様</p>	30 名
2	6月30日（金）	<p>立命館大学 平井嘉一郎記念図書館 テーマ: 先進事例でキョウドウする</p> <p>① 次回以降の企画ミーティング(ランチ会)</p> <p>② 立命館大学 平井嘉一郎記念図書館の紹介と見学</p> <p>③ 進化し続ける富士通の図書館システム ～ iLiswave-J 最新動向とクラウドサービスへの取り組み ～ 富士通株式会社 文教システム事業本部 第一ソリューション事業部</p> <p>④ 富士通フィールド・イノベーション(FI)活動のご紹介</p> <p>⑤ やってみよう、図書館データ分析入門(その1) 富士通株式会社 フィールド・イノベーション本部/ビジネスマネジメント本部</p> <p>⑥ ワークショップ「図書館データを使って分析してみたいこと」</p>	30 名
3	8月31日（木） ～9月1日（金）	<p>信州松代ロイヤルホテル テーマ: データ分析でキョウドウする</p> <p>[午前の部] ① 事前説明、前準備(生データのメンテナンス)</p> <p>② 実習 (折れ線グラフ、バブルチャート、相関係数、テキストマイニング 等)</p> <p>[午後の部] ③ 状況分析</p> <p>④ グループ討議</p> <p>⑤ まとめ</p> <p>⑥ 紹介「NACSIS-CATが変わるって！」</p>	23 名
4	11月8日（水）	<p>パシフィコ横浜 会議センター テーマ: 最新技術でキョウドウする</p> <p>① ランチミーティング</p> <p>② 図書館総合展見学(展示ホールD、アネックスホールにて自由見学)</p> <p>③ 意見交換会「総合展を見て感じた、これは図書館で使える」</p> <p>④ 図書館のデータ分析 第3回「持ち帰って作ってみた」</p> <p>⑤ 賛助会員ソリューション紹介 Excel業務イノベーションプラットフォーム Xoblos</p>	24 名
5	12月15日（金）	<p>帝京大学 八王子キャンパス テーマ: 第四分科会でキョウドウする</p> <p>① 事例紹介「メディアライブラリーセンターが目指す『共読するシステム』」 帝京大学 学術情報グループ 堀野 貞美 様</p> <p>② 施設見学</p> <p>③ パッケージ言いたい放題</p> <p>④ 新NACSIS-CAT (CAT2020) 最新情報</p> <p>⑤ 賛助会員ソリューション紹介 株式会社インフィニテック 呉本 舜 様</p> <p>⑥ 意見交換会「本年度活動のまとめと来年度の活動について」</p>	40 名

小計 147 名

2017年度活動実績

(5) 第五分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	7月14日(金)	富士通デジタル・トランスフォーメーション・センター テーマ:ワークスタイル変革がもたらすものとは何か。 ①「共創ワークショップの目的と大学事例のご紹介」 ファシリテータ 富士通株式会社 首都圏ビジネス部 平井 克 様 ②企業における取り組みの紹介「富士通のワークスタイル変革について」 講師 富士通株式会社 セールス&マーケ人事 エキスパート 石田 恵美 様 ③共創ワークショップ ④グループ討議・発表 ⑤まとめと講評	30 名
2	11月10日(金)	富士通デジタル・トランスフォーメーション・センター テーマ:業務効率化＝労働時間削減 ①ご講演「結果が出る仕事の仕組み化」 株式会社スタディスト 取締役COO 庄司 啓太郎 様 ②「情報部門改革の新たな形～富士通ITマネジメントサービスのご紹介」 富士通株式会社 ITMS事業本部 ビジネス推進統括部 パートナーシップ企画部 マネージャー 奥田 智瑞 様 ③グループワーク「イヤ・ムダ仕事は撲滅できるか？」 ファシリテーター 第五分科会幹事 福森 幸久 様 ④まとめと講評	36 名
小計			66 名

2017年度活動実績

(6) 第六分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	5月23日(火)	大阪工業大学 梅田キャンパス テーマ:セキュリティインシデントの最新事例を理解し 大学のヒヤリハットについての検証 ①講演「高等教育機関を狙うサイバー攻撃への対応」 JPCERTコーディネーションセンター 早期警戒グループ マネージャー 情報セキュリティアナリスト 洞田 慎一 様 ②講演「大学におけるインシデントのあとさき」 北海道大学 情報基盤センター サイバーセキュリティセンター長 情報環境推進本部 情報セキュリティ対策室長 南 弘征 様 ③意見交換会 ⑤キャンパス見学	72 名
2	7月5日(水)	神戸学院大学 ポートアイランドキャンパス テーマ:スマートデバイスの教育活用を踏まえたキャンパスセキュリティを考える ①ご講演:「300名BYODフルクラウド授業の実践-セキュリティは大丈夫!？」 大阪工業大学 ロボティクス&デザイン工学部 システムデザイン工学科 教授 井上 明 様 ②ソリューション紹介 「スマートフォン利用におけるMobile Security」 「スマートデバイスの安全なキャンパス活用を実現 ～スマートデバイス管理(MDM)のご紹介～」 マカフィー株式会社 奥富 幸大 様 中野 麻子 様 富士通株式会社 オフファリング推進本部 セキュリティオフファリング統括部 統括部長代理 大久保 仁志 様 池島 尚 様 ③意見交換会 ⑤キャンパス見学	62 名
3	10月2日(月) 【WG】	富士通デジタル・トランスフォーメーション・センター大阪 テーマ:MDM(モバイルデバイス管理)ツールのご紹介と実機体験 ①MDM(モバイルデバイス管理)ツール 「FUJITSU Security Solution FENCE-Mobile RemoteManager」のご紹介と実機体験 富士通株式会社 オフファリング推進本部 セキュリティオフファリング統括部 統括部長代理 大久保 仁志 様 株式会社富士通ビ・エス・シー サービスビジネス本部 クラウドサービス事業部 シニアエキスパート 市原 英明 様 ②実機を用いた脅威体感デモと富士通の取組み(Studio C) 富士通株式会社 オフファリング推進本部 セキュリティオフファリング統括部 オフファリング企画部 シニアマネージャー 平井 新児 様 ③施設紹介と見学	30 名
4	12月19日(火)	関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス テーマ:学生・教職員のセキュリティリテラシーと啓発コンテンツについて考える ①ご講演:「高等教育機関におけるインシデント対応体制の実現 -インシデントをアクシデント化させないために-」 国立情報学研究所 サイバーセキュリティ研究開発センター センター長 アーキテクチャ科学研究系・教授 高倉 弘喜 様 ②事例紹介1 「摂南大学におけるeラーニングを用いた情報セキュリティ教育について」 摂南大学 情報メディアセンター事務室 室長 玉瀬 篤志 様 ③事例紹介2 「京都産業大学におけるmoodleを用いた情報倫理教育について」 京都産業大学 情報センター 課長補佐 大島 功 様 ④意見交換会 ⑤施設紹介と見学	57 名
5	2月27日(火) 【WG】	富士通関西システムラボラトリ テーマ:類似体験で学ぶサイバー攻撃の基本ハンズオン ①本日の演習に関して 富士通株式会社 オフファリング推進本部 セキュリティオフファリング統括部 統括部長代理 大久保 様 ②情報漏えいなどの事例紹介 ③ハンズオントレーニング(攻撃者視点の説明、攻撃手法の可視化など)	33 名
小計			254 名

2017年度活動実績

(7) 総会

開催日	場所・内容等	参加人数
6月9日(金)	富士通株式会社 本社事務所 24階 大会議室 ①総会議事 ②特別講演「脳を知って脳を生かす」 東京大学薬学部 教授 池谷 裕二 様 ③懇親会	113 名

(8) 合同研修会

開催日	場所・内容等	参加人数
8月31日(木) ～9月1日(金)	信州松代ロイヤルホテル ①特別講演 「業績を急回復させた経営の秘訣-廃線寸前のローカル線を救った手法とは-」 いすみ鉄道株式会社 代表取締役社長 鳥塚 亮 様 ②ワークショップ「オープン・スペース・テクノロジー(対話手法)」の体験 ③賛助会員によるソリューション展示会 ④分科会活動	181 名

(9) トピックス企画

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	2月28日(水) 【技術講習会】 (東京)	株式会社富士通ラーニングメディア 品川ラーニングセンター テーマ: 基礎から学ぶ! Excelマクロ機能による業務の自動化 [講師] 株式会社富士通ラーニングメディア [概要] マクロ記録機能の基本的な使用方法と、様々な活用シーンを想定した演習を通して、 日常作業の自動化を実現するポイントを学習する。また記録したマクロの一部を 編集し、作業を自動化する方法も紹介する。	18 名
2	3月8日(木) 【技術講習会】 (大阪)	株式会社富士通ラーニングメディア 関西ラーニングセンター テーマ: 基礎から学ぶ! Excelマクロ機能による業務の自動化 [講師] 株式会社富士通ラーニングメディア [概要] マクロ記録機能の基本的な使用方法と、様々な活用シーンを想定した演習を通して、 日常作業の自動化を実現するポイントを学習する。また記録したマクロの一部を 編集し、作業を自動化する方法も紹介する。	8 名
3	3月2日(金)	賛助会員情報交換会 以下2拠点にてテレビ会議を実施 ・富士通株式会社 本社事務所 24階 大会議室 ・富士通株式会社 関西システムラボラトリ 8階 TV会議室	42 名
小計			68 名

2017年度活動実績

(10)テーマ別WG Campusmate勉強会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	6月16日(金)	大東文化会館 テーマ:ポータル/シラバス ①導入事例紹介(質疑応答を含む) 大東文化大学 法学部事務室 進士 幸 様 ②2016年度開催内容ふりかえり(第2回 ポータル/シラバスを中心に) 富士通株式会社 文教システム事業本部 ③意見交換会	93 名
2	8月8日(火)	富士通株式会社 汐留本社事務所 テーマ:職員様向けCampusmate-J タッチアンドトライ操作説明会 ①操作説明Ⅰ(学籍管理編) ②操作説明Ⅱ(カリキュラム管理編) ③操作説明Ⅲ(時間割管理編)	38 名
3	11月17日(金)	関西大学 梅田キャンパス テーマ:履修登録/成績管理 [午前の部] ①個別相談会(希望者のみ) [午後の部] ②事例紹介「Web履修、成績照会のスマートフォン対応」 関西大学 学術情報事務局 システム開発課 宮口 岳士 様 ③2017年度開催内容ふりかえり(第1回 ポータル/シラバスを中心に) 富士通株式会社 文教ソリューション事業本部 ④エンハンスV3.7説明 富士通株式会社 文教ソリューション事業本部 ⑤意見交換会 ⑥施設見学	72 名

小計 203 名

2017年度参加者数合計 1,734 名

2018年度活動実績

(1)教育システム分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	5月25日(金)	サイボウズ株式会社 東京オフィス テーマ:共創を実現するためのIoTプラットフォーム ①ご紹介:kintone(キントーン)概要・活用事例 ・教育現場でキントーンが使われる3つの理由～ サイボウズ株式会社 営業本部 パートナー第3営業部 榎崎 千裕 様 ・kintone(キントーン)操作説明、ハンズオン、グループディスカッション、発表 ②ご講演:サイボウズの人事制度・働き方改革について ③オフィスツアー	38 名
2	7月12日(木)	青山学院大学 青山キャンパス テーマ:産学が一体となった共創 [第一部] ①授業見学:「キャリアデザイン・セミナー」 企業が課すテーマをグループで取り組み、その成果を発表する。 [第二部] ①ご講演:『学生の主体性を引き出す「産学連携」の取り組み』 一般社団法人 Future Skills Project研究会 理事 松本 隆 様 ②意見交換:テーマ/産学で共創する授業～企業に期待すること、大学に期待すること～ ③キャンパスツアー	32 名
3	8月31日(金)	Royal Hotel 長野 テーマ:共創で考えるCS研版次世代LMS ①ご講演:「大学教育におけるLMSの役割」 青山学院大学 情報メディアセンター 助教 湯浅 且敏 様 ②ご紹介 「dotCampus」/清泉女子大学 情報環境センター 与田 達浩 様 「CoursePower」/青山学院大学 情報メディアセンター 助教 湯浅 且敏 様 「manaba」/関東学院大学 ICT活用支援課 係長 吉田 朋央 様 「Universal Passport」/共立女子大学 学習支援プロジェクト 岡本 千代 様 「in Campus」/芝浦工業大学 情報システム部 情報システム課 課長補佐 星野 励 様 ③ご紹介:最新技術情報 富士通株式会社 マーケティングコミュニケーション本部 デジタルコンテンツ統括部 統括部長 淡路 哲彦 様 ④意見交換:テーマ/共創で考えるCS研版次世代LMS	33 名
4	10月12日(木) ～13日(金)	[1日目]大阪大学 豊中キャンパス [2日目]追手門学院大学 テーマ:教育、職員、学生の共創 [1日目] ①ご講演1:大阪大学におけるFDならびに学習支援の体制 大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部長 増澤 利光 様 ②ご講演:FDの具体的内容 大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部 准教授 佐藤 浩章 様 ③グループディスカッション:「FDと学習支援」 [2日目] ①ご講演:「答えは目の前の学生から ～アサーティブプログラム、アサーティブ入試～」 追手門学院大学 アサーティブ課 アサーティブオフィサー 志村 知美 様 ②意見交換会 ③施設紹介と見学	32 名
5	12月14日(金)	富士通デジタル・トランスフォーメーション・センター テーマ:新しい学びの場(高校におけるICT活用、高大接続共創) ①ご講演:『未来の教室』を今、つくる ～N高の挑戦と課題～ N高等学校 副校長 上木原 孝伸 様・参加型体験活動 ②意見交換 ③1年間のまとめ	28 名

小計 163 名

2018年度活動実績

(2) 事務システム分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	5月29日(火)	富士通デジタル・トランスフォーメーション・センター テーマ:働き方改革 ～ムダ・ムリ“夢を語る前に現実で困っていることを解決しよう”～ ①アイスブレイク ②ご紹介1:「大学様の“ありたい姿”を可視化し共通認識するDTC共創ワークショップのご紹介」 富士通株式会社 パートナービジネス&SSB推進本部 公共・東日本サービス&システムビジネス統括部 首都圏ビジネス部 平井 克 様 ②ご紹介2:「新たなスキル教育の実践『キュレーションラーニング』」 アクティブラーニングへのAI適用の試み」 富士通株式会社 文教ビジネス推進統括部 ソリューション推進部 宮島 郁子 様 ②グループワーク1(履修について) ③グループワーク2(シラバスについて) ④発表・まとめ	41 名
2	6月28日(木) ～29日(金)	[1日目]流通科学大学 [2日目]富士通デジタル・トランスフォーメーション・センター 大阪 テーマ:教学IR [1日目] ①ご講演:「大学IRを業務の延長線上で考える ～将来の入試制度改革においてBIとETLが支援できることを例に～」 富士通株式会社 文教ソリューション事業本部 ソリューション事業部 第一ソリューション部 滝沢 亮 様 ②意見交換:テーマ/教学・情報部門が考える離学者対策とは ③施設紹介・見学 [2日目] ①ご講演:「実務としての教学IR推進活動 ～データで話す、伝える、考える～」 神戸学院大学 全学教育推進機構 教学IR室 藤野 津芳 様 ②意見交換:テーマ/教学IRで実現できること ③まとめ	42 名
3	8月31日(金)	Royal Hotel長野 テーマ:スキルアップ研修 ①ご講演:MBTI検査(Myers-Briggs Type Indicator)について 日本MBTI協会認定講師 深川 正典 様 ②体験:・MBTI ③ワーク ・個人ワーク ・グループワーク ・まとめ	20 名
4	10月26日(金)	東海大学 湘南キャンパス テーマ:保護者サービス ①ご講演「東海大学の保護者サービスへの取り組み」 東海大学 教学部教務課 課長補佐 平石 泰介 様 東海大学 総合情報センター情報システム課 加藤 弓枝 様 ③意見交換会:テーマ/保護者サービスの今とこれから ④全体共有	55 名
5	12月4日(火)	東洋大学 白山キャンパス テーマ:高大接続改革を考える ①ご講演「紙からWebへ。TOYO Web Styleの取り組みと今後の展開 ～志願者11万人超! 4年間で5万人増を達成した戦略とは～」 東洋大学 理事・入試部長 加藤 建二 様 ②情報提供:「いまさら聞けない高大接続改革」 ・そもそも高大接続改革って何? スケジュールは? 現状は? 富士通株式会社 文教ソリューション事業本部 ソリューション事業部 第一ソリューション部 原井 萌 様 ③意見交換会:テーマ/あなたは、どんな生徒に貴学に来て欲しいと思っていますか? ④まとめ	50 名

小計 208 名

2018年度活動実績

(3)システム運用管理分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	6月27日(水)	富士通デジタル・トランスフォーメーション・センター テーマ:働き方改革ワークショップ ～ムダ・イヤな仕事を考える～ ①ご紹介:最新のICTを活用(体感)頂きながら共創ワークショップを実施 「大学様の“ありがたい姿”を可視化し共通認識するDTC共創ワークショップのご紹介」 富士通株式会社 パートナービジネス&SSB推進本部 公共・東日本サービス&システムビジネス統括部 首都圏ビジネス部 平井克様 ②共創ワークショップ 「働き方改革 ～ムダ・イヤな仕事を考える～」 ファシリテーター:大学経営・情報化戦略分科会 担当幹事 福森 幸久様 ③見学:ICT展示ソリューションの見学 ④グループディスカッション 「～ICT活用事例と大学での応用～」	33 名
2	8月31日(金)	Royal Hotel長野 テーマ:大学におけるPCの運用管理と学生PCの必携化 システム運用管理 課題と対策 ①「ICT よくある課題を考える ～いつ考える? いまでしょ!～」 ②グループディスカッション グループに分かれて「①」で洗い出された優先課題に対する対策を考えて発表 ③意見交換 ～AIロボットで実現する学生サポート～ 子供でもAI ロボットを操作できる時代になりました! ? ①AI ロボット uniboの紹介 ②AI ロボットプログラミング Cybereason Complete Endpoint Protection ハンズオン』 ～次世代エンドポイント・セキュリティ・プラットフォームの体験する～ (協力:サイバーリーズン・ジャパン株式会社) 演習: カードゲームを通してサイバーセキュリティを学ぶ』 日本ネットワークセキュリティ協会提供のカードゲーム『セキュリティ専門家 人狼』を通してセキュリティの理解を深める実践演習を実施	24 名
3	11月7日(金)	関第1部 INIAD(東洋大学 情報連携学部) テーマ:先進的なキャンパスに学ぶ ①見学:INIAD(東洋大学 情報連携学部)の新校舎INIAD HUB-1の見学会 ②ご講演:INIAD(東洋大学 情報連携学部)学部長 坂村 健 様 ③賛助会員からの情報提供 「次世代の大学ネットワークを見据えて」 シスコシステムズ合同会社 東日本システムエンジニアリング シニアシステムエンジニア 葛生 晋一 様 ④意見交換会:テーマ/情報センターにおける現状課題、・今できる解決方法、・将来のあるべき姿 ⑤まとめ	43 名
4	12月8日(金)	富士通デジタル・トランスフォーメーション・センター テーマ:「マイクロソフトソリューションの最新動向、トレンド」 ①ご講演:日本マイクロソフト株式会社からの情報提供 ・「Microsoft 365で実現するセキュリティと効率的な運用環境の実現」 ・「進化し続ける OS Windows 10 の紹介 ～次期クライアントプラットフォームに Windows 10を選んでいただく為に～」 ②意見交換	63 名

小計 163 名

2018年度活動実績

(4) 図書館分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	6月1日(金)	富士通デジタル・トランスフォーメーション・センター テーマ:働き方改革ワークショップ ～ムダ・イヤな仕事を考える～ ①ご紹介:最新のICTを活用(体感)頂きながら共創ワークショップを実施 「大学様の“ありたい姿”を可視化し共通認識するDTC共創ワークショップのご紹介」 富士通株式会社 パートナービジネス&SSB推進本部 公共・東日本サービス&システムビジネス統括部 首都圏ビジネス部 平井克様 ②共創ワークショップ 「働き方改革 ～ムダ・イヤな仕事を考える～」 ファシリテーター:大学経営・情報化戦略分科会 担当幹事 福森 幸久様 ③見学:ICT展示ソリューションの見学 ④意見交換:「お悩み事相談 日ごろの不安や疑問を参加者皆さんでフリートーク」	27 名
2	7月6日(金)	芝浦工業大学 豊洲キャンパス テーマ:ステップアップ・ライブラリアン Part-1 ①ご講演1:「理工系大学における図書館の運営と実情」 芝浦工業大学 図書館 次長 平島 美代子 様 ②ご講演2:「芝浦工業大学図書館コレクション 鉄道資料収集について」 芝浦工業大学 図書館鉄道技術資料調査委員会 副委員長 藤田 吾郎 先生(工学部 電気工学科教授) ③図書館見学 ④ご講演3:1日で学ぶ図書館業務基礎知識 神田外語大学附属図書館 課長 吉野 知義 様 ⑤ご紹介:新NACSIS-CAT(CAT2020)への富士通の対応 富士通株式会社 芦田 宗明 様	30 名
3	8月31日(木) ～9月1日(金)	RoyalHotel長野 テーマ:ステップアップ・ライブラリアン 一番外編はネットワーク?ー [午前の部] ①体験:LANケーブルを作ってみよう! ②ご紹介・体験:ネット・Web関係について「目に見えないネット環境の知識を磨く」 パケットの流れがよく分かる寸劇! パソコン基礎知識 ネット・Web関係について「図書館ホームページをリッチにする術」 ③ご紹介: 認証システム(GAKUNIN、VPN、ezproxy、RemotXs) ネット環境(eduroam JP)	23 名
4	11月30日(金)	愛知大学 名古屋キャンパス テーマ:ステップアップ・ライブラリアン Part-2 ①ご講演:愛知大学図書館の「これまで」と「これから」 愛知大学 名古屋図書館 課長 中村 直美 様 ②図書館見学 ③ご講演:1日で学ぶ図書館業務基礎知識 神田外語大学附属図書館 課長 吉野 知義 様 ④ご紹介:新NACSIS-CAT(CAT2020)への富士通の対応 富士通株式会社 文教・地域ソリューション事業	24 名

小計 104 名

2018年度活動実績

(5) 大学絵経営・情報戦略分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	7月20日(金)	富士通デジタル・トランスフォーメーション・センター テーマ:「ICTは働き方改革の救世主となりえるか?」 ①ご紹介:「CSLにおけるRPAの活用について」 富士通コミュニケーションサービス㈱ ソリューション本部 ②ご講演:「ペーパーレス化で事務の負担(無駄な時間)を減らす」 千葉工業大学 入試広報部 高沼 憲昭様 ③共創ワークショップ 「働き方改革 〜ムダ・イヤな仕事を考える〜」 ファシリテーター:大学経営・情報化戦略分科会 担当幹事 福森 幸久様 ④全体共有:	27 名
2	11月28日(金)	富士通デジタル・トランスフォーメーション・センター テーマ:「働き方改革総集編:“やってない”を“やる”に変える」 ①ご講演:外資系企業の働き方改革実践事例 シスコシステムズ合同会社 フレキシブルワークプラクティスアンバサダー 松井 みどり様 ②ご紹介:働き方改革推進ソリューション ㈱富士通エフサス サービスコンダクターセンター マネージャー 新名 儀和 ③パネルディスカッション:働き方改革の進め方 「パネルディスカッション」 〜管理職のジレンマ/トップダウンとボトムアップ〜 コーディネーター 分科会幹事 福森幸久 ④意見交換 ⑤全体共有	36 名

小計 63 名

2018年度活動実績

(6)次世代情報システム分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	5月30日(水)	同志社大学 今出川キャンパス テーマ:「RPAで大学事務業務は軽減できるのか?」 ～AI、ロボット活用で残業ゼロ!??～ ①ご紹介:「デジタルビジネスと社会課題に挑む～共創で可能性を無限に～」 富士通株式会社 デジタルフロント事業本部 本部長 柴崎 辰彦 様 ②ご紹介:「RPA活用を成功に導くポイント」 ～デジタル業務改善による働き方改革推進～ 富士通株式会社 公共地域営業グループアシスタントマネージャー 高本 茂 様 ③ワールドカフェ(意見交換) ④見学:ラーニングコモンズ	68 名
2	7月4日(水)	関西大学 高槻ミュージックキャンパス テーマ:「小中高におけるICT教育により大学の教育環境をどう変えるか?」 ～学びのイノベーションに大学はついていけるのか!??～ ①ご講演:『小中高におけるICT教育により大学の教育環境をどう変えるか?』 関西大学 総合情報学部 教授 黒上 晴夫 様 ②ご講演:『学の実化』 関西大学 中等部・高等部 教諭 松村 湖生 様 ③施設見学: ④ワールドカフェ(意見交換)	43 名
3	10月12日(金)	富士通デジタルトランスフォーメーション・センター大阪 テーマ:「RPA適用検討ワークショップ」 ①ご紹介:「RPAの概要と適用の勘所」 富士通株式会社公共地域営業グループ デジタルビジネス戦略推進統括部ビジネスイノベーションセンター アシスタントマネージャー 高本 茂様 ②ワークショップ:RPA適用検討ワークショップ	30 名
4	11月27日(金)	富士通関西システムラボラトリ テーマ:「RPAで大学事務業務は軽減できるのか?」の具現化へ向けて、 RPAによる定型業務の自動化を体験する ①ハンズオンセミナー:Axeluteご紹介 入門編実践Axeluteの起動・記録・再生機能の操作説明および実践 応用編実践Axeluteのシナリオ編集機能の操作説明および実践 (データの転記入力、繰返し処理/条件分岐処理の活用等)	35 名
5	12月19日(火)	株式会社ケイ・オプティコム テーマ:「AIでセキュリティ対策・システム運用は自動化できるのか?」 ～AIに任せれば専門家はもう要らない!??～ 【WG】 ①ご紹介:「ケイ・オプティコムにおけるネットワーク監視運用について」 法人・公共事業推進本部 法人営業グループ法人営業第2チーム 部長 石山 幸司 様 ②ご紹介「ケイ・オプティコムが提供するクラウド&セキュリティサービスについて」 法人・公共事業推進本部 法人営業グループ法人営業第2チーム 係長 藤原 孝則 様 ③見学:オフィスツアー ④ご紹介:「人から見たセキュリティ～AIによるセキュリティ運用の効率化～」 株式会社富士通研究所 セキュリティ研究所 所長 兼 ブロックチェーン研究センター長 津田 宏 様	50 名
小計			226 名

2018年度活動実績

(7) 総会

開催日	場所・内容等	参加人数
6月11日(月)	富士通株式会社 本社事務所 24階 大会議室 ①総会議事 ②特別講演 テーマ:『シンギュラリティ大学で教えるエクスポネンシャル思考とその実践』 講演者: エクスポネンシャル・ジャパン株式会社 共同代表 齋藤 和紀 様 ③懇親会	126 名

(8) 合同研修会

開催日	場所・内容等	参加人数
8月30日(木) ～8月31日(金)	Royal Hotel長野 開催テーマ:「10年後の大学のあるべき姿」 ①特別講演 株式会社あしたの学びLab 村上 和彰 様 (九州大学名誉教授・京都大学博士(工学)) ②ワークショップ 株式会社あしたの学びLab 村上 和彰 様 (九州大学名誉教授・京都大学博士(工学)) 学研教育総合研究所 所長 栗山 健 様 ③賛助会員によるソリューション展示会 ④分科会活動	183 名

(9) トピックス企画

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	2月26日(火)	東京開催(Winスクール 新宿本校) テーマ:「基礎から実践へ! 業務に役立つExcelステップアップ講習会」	23 名
	【技術講習会】 (東京)		
2	3月8日(金)	東京開催(Winスクール 新宿本校) テーマ:「基礎から実践へ! 業務に役立つExcelステップアップ講習会」	23 名
	【技術講習会】 (東京)		
3	3月6日(水)	(Winスクール なんば校) テーマ:「基礎から実践へ! 業務に役立つExcelステップアップ講習会」	13 名
	【技術講習会】 (大阪)		
4	3月18日(月)	最新技術セミナー リッチモンドホテルプレミア東京押上 テーマ:「5Gの最新動向と大学で期待される新たなサービスについて」	24 名
5	7月19日(木)	ICT勉強会 富士通デジタル・トランスフォーメーション・センター テーマ:「大学職員のための“今さら聞けない”情報システム入門」	29 名
6	2月25日(月)	賛助会員情報交換会 富士通本社	48 名

小計 160 名

2018年度活動実績

(10) テーマ別WG Campusmate勉強会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	6月19日(火)	鎌倉女子大学 大船キャンパス テーマ:「入試システム」	96 名
2	9月5日(水)	HAB-YU platform(ハブ・ユース・プラットフォーム) テーマ:「“学生目線で考える”次世代の学生ポータルのあるかた」 ～Campusmate-J/スマートフォンの活用と情報発信の考え方 など～	67 名
3	11月9日(金)	立正大学 品川キャンパス テーマ:「Campusmate(学生・教務)を中心とした業務運用のあり方」	75 名

小計 238 名

2018年度参加者数合計 1,634 名

2019年度活動実績

(1)教育システム分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	6月5日(水)	東洋大学 白山キャンパス テーマ:改正著作権法の大学への影響 ～著作物の扱いと運用について～ ①ご講演:「1時間でわかる著作権法 ～大学教育で注意したい10のポイント～」 東洋大学 法学部 教授 安藤 和宏 氏 ②質疑応答 ③名刺交換 ④意見交換・まとめ ※図書館分科会と共催	87 名
2	7月10日(水)	国立大学法人 埼玉大学 テーマ:「STEM教育は大学教育をどう変えるか？」 ①ご講演 「STEM教育に大学はどう取り組むか」 埼玉大学 教育学部 准教授 野村 泰朗 氏 ②質疑応答 ③名刺交換 ④見学:学童保育の様子を見学 (「放課後デザイン」というコンセプトのもと、主体性を育てることを目標とした新しい学童保育づくりにチャレンジしています) ⑤まとめ	26 名
3	8月28日(水)	Royal Hotel 長野 テーマ:大学IRとBIツール 【午前の部】 ①ご講演:「第3期認証評価におけるIRの役割と実際」 山形大学 学術研究院(学士課程基盤教育機構) 准教授 白石 哲也 氏 ②ご紹介:全国IR調査から見たIRの現状 ③グループワーク ④まとめ 【午後の部】 13:00-15:30 ①ハンズオン:「授業評価アンケートを使ったTableau活用体験」 講師:富士通株式会社文教・地域ソリューション事業本部 第一ソリューション事業部 第一ソリューション部 高木 康将 氏 ②まとめ	30 名
4	12月13日(金)	東京都市大学 二子玉川夢キャンパス テーマ:「学修成果の可視化『ポートフォリオ』」 ①ご講演:『学修成果の可視化の試み ディプロマ・サプリメントシステム 「TCU-FORCE」の開発を通じて』 東京都市大学 学生支援部 部長 住田 暁弘 氏 総合情報システム部ICT推進課 課長 靱江 哲生 氏 ②名刺交換 ③意見交換 ④ご紹介『ポートフォリオ活用による学生を中心とした教育の質向上 ～Unified-One e-Portfolio V1 Basic～』 富士通株式会社 文教・地域ソリューション事業本部 第一ソリューション事業部 第一ソリューション部 原井 萌 氏 ⑤まとめ	70 名

小計 213 名

2019年度活動実績

(2) 事務システム分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	5月24日(金)	シスコシステムズ合同会社 東京本社 テーマ:業務改善 ①名刺交換 ②ご講演:働き方改革～シスコの働き方改革の取り組みのご紹介～ シスコシステムズ合同会社 戦略ソリューション・事業開発 菊田 邦秀 氏 ③パネルディスカッション:シスコ社員の実際の働き方とメリット 管理職編・働くママ編・若手社員編 ④ご紹介:大学様での取り組み事例と活用されているソリューション シスコシステムズ合同会社 文教ビジネス推進 見松 利恵 氏 ⑤見学:オフィスツアー	51 名
2	7月12日(金)	東京電機大学 東京千住キャンパス テーマ:「RPA(Robotic Process Automation)を学ぶ」 ①ご講演:RPAについて説明「RPA活用を成功に導くポイント」 富士通株式会社 ビジネスクリエーション統括部 政策連動ビジネス推進部 高本 茂 氏 ②ご講演「早稲田大学におけるRPAを活用した業務改革と学内展開」 早稲田大学 情報企画部 鳴澤 良友 氏 株式会社早稲田大学アカデミックソリューション 桜井 勝人 氏 ③名刺交換 ④ご講演:「EXCELの操作を自動化させよう。By xoblos」 東京電機大学 入試センター 部長 出原 和明 氏 ⑤ご紹介「RPAツール EntreQue(ご紹介) + RPA導入検討時の注意点」 富士通関西中部ネットテック株式会社 ビジネスイノベーション統括部 首都圏ビジネス推進部 部長 阪口 幸雄 氏 ⑥見学:キャンパスツアー	95 名
3	8月28日(水)	Royal Hotel 長野 テーマ:事務・図書館・システムの関連性を学ぶ～相互理解と未来創造～ ①アイスブレイク ②ワークショップ(グループ意見交換) ・「相互理解」(全体会) ・「課題抽出」(グループワーク①) ・「業務連携」富士通株式会社より(事例紹介) ・「未来創造」(グループワーク②) ③まとめ ※図書館分科会と共催	37 名
4	12月23日(月)	富士通ソリューションスクエア テーマ:出席管理 ①ご講演:出席管理 製品を選ぶポイント 富士通株式会社 文教・地域ソリューション事業本部 第一ソリューション事業部 第一ソリューション部 部長 中村 直樹 氏 ②ご紹介(事例):芝浦工業大学 情報システム部 情報システム課 松田 浩司 氏 千葉工業大学 入試広報部 入試広報課 担当課長 高沼 憲昭 氏 ③名刺交換 ④意見交換 ⑤まとめ	65 名
小計			248 名

2019年度活動実績

(3)システム運用管理分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	6月6日(金)	虎ノ門ツインビル テーマ:「セキュリティ対策の検討」 ①ご紹介と見学: 富士通セキュリティイニシアティブセンターを訪問。 ・映像で見るサイバー攻撃の脅威 ・サイバー攻撃体感デモ ・各種ソリューションのご紹介 ②意見交換 ・情報セキュリティ対策についての課題や対応策の共有	32 名
2	8月28日(水)	Royal Hotel長野 テーマ:大学における情報セキュリティ対策の強化 【午前の部】 ①ご紹介:情報セキュリティ対策の取り組み ・大学等におけるサイバーセキュリティ対策等の強化について ・大学市場への取り組みとソリューション紹介 トレンドマイクロ株式会社 ②体験:大学版インシデント対応ボードゲーム ③意見交換:テーマ/①のご紹介により顕在化した優先課題に対する対策。 ④全体共有 【午後の部】 ①ご紹介と体験:午前中の学習を活かし、サーバー攻撃検知システム(iNetSec MP2040)の紹介と実機検証を実施 協力:富士通株式会社/株式会社PFU ②ご紹介:「振る舞い検知型セキュリティ装置を使用したSOC運用の効率化 ～分散キャンパスを1台で監視、運用～」	40 名
3	11月8日(金)	富士通netCommunity テーマ:「Society5.0時代の大学ICT環境を探索！」 -富士通のビジョンと未来へ向けた取組みを紹介するショールームnetCommunityの視察- ①ご紹介:富士通netCommunityにて、ICT社会の実現を支える富士通の先進技術やソリューションとして以下を紹介 ・第5世代移動通信システム(5G)実現に向けた取り組み ・3Dセンシング/AI自動採点支援システム ・360度全周映像配信ソリューション ・場所や時刻に応じてスマートデバイスにアプリを配信するプレイサービス ・AIマッチング技術による社会課題への取り組み-保育所AI入所先行- ・AIスマート都市監視ソリューション ・学生のID管理の課題を解決するオンライン生体認証サービス ②意見交換 ・文章翻訳API-専門的な表現を含む文章も短時間で高精度に翻訳	37 名
4	12月20日(金)	昭和女子大学 テーマ:「Society5.0時代の大学ICT環境を探索! II -グローバルキャンパスを探索-」 ①ご講演:昭和女子大学とテンプル大学との各種取り組みについて ②見学:TUJの見学およびご紹介 ③紹介:賛助会員4社よりソリューション紹介 ・サイバーリイズン・ジャパン株式会社 ・シスコシステムズ合同会社 ・シトリックス・システムズ・ジャパン株式会社 ・株式会社富士通パーソナルズ ④意見交換:③を受けて賛助会員と情報交換	44 名
小計			153 名

2019年度活動実績

(4) 図書館分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	6月5日(水)	東洋大学 白山キャンパス テーマ:改正著作権法の大学への影響 ～著作物の扱いと運用について～ ①ご講演:「1時間でわかる著作権法 ～大学教育で注意したい10のポイント～」 東洋大学 法学部 教授 安藤 和宏 氏 ②質疑応答 ③名刺交換 ④意見交換・まとめ ※教育システム分科会と共催	87 名
2	7月8日(月)	富士通株式会社 汐留本社事務所 テーマ:「CAT2020における大学図書館への影響」～CAT2020で図書館の運用がどう変わる?～ ①ワークショップ ・目録/収書 ・閲覧 / ILL / OPAC ・CAT2020移行方法 ②ご紹介:図書館クラウド E.E.	142 名 WEB含
3	8月28日(水)	Royal Hotel 長野 テーマ:事務・図書館・システムの関連性を学ぶ～相互理解と未来創造～ ①アイスブレイク ②ワークショップ(グループ意見交換) ・「相互理解」(全体会) ・「課題抽出」(グループワーク①) ・「業務連携」富士通株式会社より(事例紹介) ・「未来創造」(グループワーク②) ③まとめ ※事務システム分科会と共催	37 名
4	12月6日(金)	日本女子大学目白キャンパス テーマ:「ガイダンスから見えてくる図書館サービス」～今から備える来年度のガイダンス～ ①ご講演:シーンや目的に応じた図書館ガイダンスをCS研会員校が紹介。 紹介ガイダンスは以下となります。 ・「新入生ガイダンス」 龍谷大学 様 ・「初年度学生への授業内ガイダンス」 神田外語大学 様 ・「JDreamの利用講習」 東海大学 様 ・「業務委託や就活用ガイダンスなど」 共立女子大学 様 ②ご紹介:ご紹介「CAT2020の最新状況報告」 富士通株式会社 様 ③図書館見学	62 名

小計 328 名

2019年度活動実績

(5) 大学経営・情報化戦略分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	8月9日(金)	富士通株式会社 本社事務所 テーマ:「ICTは働き方改革の救世主となりえるか？」 ①全体会 ②ご講演:「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」 文部科学省高等教育局高等教育企画課高等教育政策室課長補佐 奥井 雅博氏 ③意見交換	59 名
小計			59 名

(6) 次世代情報分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	6月5日(水)	龍谷大学 大宮キャンパス テーマ:「もっと手軽にRPA!業務の効率化・自動化を考える ～業務の効率化・自動化に取り組むためのポイントは何か!??～」 ①開催校挨拶:龍谷大学文学部長 安藤 徹氏 ②ご紹介:「龍谷大学における業務改善とRPAの導入について」 龍谷大学 業務改善推進室 室長 荒木利雄氏 業務改善推進室 課長 浦田優子氏 ③ご紹介:「フィールド・イノベーションによる業務改革の実現～RPA導入目的の明確化～」 富士通株式会社 ④ご紹介:RPA関連ツール:「Autoブラウザ名人」と「Autoメール名人」のご紹介 ユーザックシステム株式会社	78 名
2	10月24日(木)	関西大学 千里山キャンパス テーマ:「備えあれば憂いなし!最前線のBCP/DRを考える ～事業継続計画、災害対策は大丈夫か!??～」 ①開催校ご挨拶:関西大学ITセンター所長 柴田 一氏 ②ご紹介:「関西大学のBCP対策の現状と課題」 関西大学 学術情報事務局 情報基盤グループ グループ長補佐 渕上 裕一氏 関西大学 学術情報事務局 情報基盤グループ 主任 宮口 岳士氏 ③ご紹介:「なぜBCP/BCMが必要なのか～実効的なBCPの本質と地域連携型BCPの取組み～」 株式会社富士通総研 コンサルティング本部ビジネスレジリエンスグループ 大谷 茂男氏 ④ご紹介:「ICTを活用した事業継続を考える」 富士通株式会社 ビジネスパートナー本部西日本サービス&システムビジネス統括部 シニアマネージャー 三苦 竹臣氏 ⑤施設見学:総合図書館ラーニング・コモンズ、東体育館防災設備(災害備蓄倉庫)	50 名
3	12月11日(水)	大阪工業大学 梅田キャンパス テーマ:「学びのイノベーション!テクノロジーを活用した未来教育を考える」 -EdTechがこれからの教育をどう変えていくのか!?- 【WG】 ①ご紹介:「EdTechを知ろう!-最新事例から見る教育のICT活用-」 大阪工業大学 ロボティクス&デザイン工学部 システムデザイン工学科教授 井上 明氏 ②ご紹介:新しい時代の学びと、それを支えるICT教育について「啓明学院中学校・高等学校の取り組み」 啓明学院中学校・高等学校 教務部長・情報主任 後藤 直哉氏 高校二年生学生主任 木村 宗一郎氏 校内情報担当(SE) 橋川 貴宣氏 ③意見交換会 ④キャンパス見学	30 名
4	2月7日(金)	富士通関西システムラボラトリ テーマ:「AIチャットボットで業務効率化! ～CHORDSHIP体験イベント～」 【WG】 ①ご紹介: AIチャットボット「CHORDSHIP」サービスご紹介 ②構築演習:【CHORDSHIPハンズオン】 ③機能デモ:【CHORDSHIPデモンストレーション】手続きの自動化 ④意見交換会	25 名
小計			183 名

2019年度活動実績

(7) 総会

開催日	場所・内容等	参加人数
6月9日(金)	富士通株式会社 本社事務所 24階 大会議室 ①総会議事 ②特別講演「感性コミュニケーション ～脳科学を学んで、人生の達人になろう～」 株式会社感性リサーチ 代表取締役 黒川 伊保子氏 ③懇親会	121 名

(8) 合宿研修会

開催日	場所・内容等	参加人数
8月27日(火) ～8月28日(水)	Royal Hotel長野 ①特別講演 「働き方改革のリアル」 講演者: 圓窓 代表 澤 円氏(さわ まどか) ②賛助会員ソリューション紹介 (プレゼンテーション、企業展示、スタンプラリー、ご相談コーナー) ③パラレルセッション活動	165 名

(9) トピックス企画

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	7月11日(木)	「Winスクール」なんば校 「基礎から実践へ！業務に役立つExcelステップアップ講習会」 ICT基礎セミナー 大阪 ■関数の基本を使いこなす ■すぐに仕事に問える関数を使いこなす ■グラフ機能で分析結果を表現する ■データベース機能を活用する ■応用的な集計機能を使いこなす	13 名
2	7月16日(火)	「Winスクール」新宿本校 「基礎から実践へ！業務に役立つExcelステップアップ講習会」 ICT基礎セミナー 東京 ■関数の基本を使いこなす ■すぐに仕事に問える関数を使いこなす ■グラフ機能で分析結果を表現する ■データベース機能を活用する ■応用的な集計機能を使いこなす	26 名
3	2月19日(水)	最新トピックス体験セミナー JAXA 筑波宇宙センター テーマ: 国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構(JAXA) 筑波宇宙センター(茨城県つくば市)の視察 ご講演: 「宇宙システムの社会生活への社会貢献」 国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 第一宇宙技術部門衛星利用運用センター 主幹研究開発員 富井 直弥氏 ご紹介: 「宇宙開発に貢献する富士通の取り組み」 富士通株式会社 TCソリューション事業本部 第二営業部 マネージャー 佐藤 宗樹氏 「筑波宇宙センター」見学ツアー(ガイド付き) 自由見学 (展示館スペースドーム・プラネットキューブ・ロケット広場 等)	23 名
小計			62 名

2019年度活動実績

(10)テーマ別WG Campusmate勉強会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	8月1日(金)	オンライン勉強会 テーマ:「第1回Web勉強会 事績で学ぶ履修登録機能(基礎)」 講義設定、履修登録 ①講義情報を設定する ②Webサイトから履修登録するための準備 ③Webサイトから履修登録	84 名
2	10月4日(金)	オンライン勉強会 テーマ:「第2回Web勉強会 自席で学ぶカリキュラム作成(基礎)」 カリキュラム設定 ①科目を登録する ②分野系列を設定する ③カリキュラムを作成する	55 名
3	12月16日(月)	オンライン勉強会 テーマ:「第3回Web勉強会 自席で学ぶ【卒業判定処理】(基礎)」 卒業判定処理 ①卒業可否の判定条件を設定する ②卒業判定処理を実行する ③判定結果を確認する	54 名
4	2月14日(金)	オンライン勉強会 テーマ:「第4回Web勉強会 自席で学ぶ【学籍管理】(基礎)」 学籍管理 ①学籍データを登録する ②学生情報を更新する ③学生グループを作る(クラス分け) ④学籍データをダウンロードする ⑤在学証明書を発行する	49 名
小計			242 名

2019年度参加者数合計 1,650 名

2020年度活動実績

(1) 教育システム分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	7月15日（水）	オンライン テーマ:「コロナ禍における大学の授業について語り合おう」 ①情報交換	38 名
2	10月30日（金）	オンライン テーマ:「オンライン授業におけるアクティブラーニングと成績評価」 ①ご講演:開催テーマに関する実践事例のご紹介 明治大学 法学部 教授/私立大学キャンパスシステム研究会 開庁 阪井 和男 氏 ②意見交換	30 名
小計			68 名

(2) 事務システム分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	7月9日（金）	オンライン テーマ:「対面授業開始・再開に関する苦労話(汗)」 ①事例紹介 東海大学 千葉工業大学 ②情報交換	58 名
2	8月6日（金）	オンライン テーマ:「遠隔授業のポジティブ・ネガティブシェア！～教務やシステムなどの担当者目線から～」 ①事例紹介 立正大学 ②情報交換	47 名
3	10月2日（金）	オンライン テーマ:「在宅勤務、機能していますか？～働き方改革のスタートライン～」 ①事例紹介 大東文化大学 共立女子大学 ②情報交換	40 名
4	12月11日（月）	オンライン テーマ:「在宅勤務、機能していますか？Part.2～サービス・手続き方法などの変革～」 ①「在宅勤務、機能していますか？Part.2～サービス・手続き方法などの変革～」について ②ご紹介:「スマートキャンパス実現に向けたAityとボットの活用」 富士通Japan株式会社 ③意見交換	23 名
小計			168 名

2020年度活動実績

(3) システム運用管理分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	7月22日(水)	オンライン テーマ:「コロナ禍での情報システム部門の悩みを共有しませんか？」 ①情報交換 ・コロナ禍における情報インフラの課題について ・コロナ禍における情報システム部門の課題について ・オンライン授業で起きた事件?! やその他、要望や情報共有について ※次世代情報システム検討分科会と共催	49 名
小計			49 名

(4) 図書館分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	6月26日(金)	オンライン テーマ:「withコロナ、afterコロナ時代の図書サービスについて語ろう」 ①情報交換 ・コロナ禍における図書館運営の現在の課題について ・コロナ禍における図書館運営の今後の課題について ・その他(上記以外の事項について) 要望や情報共有について	57 名
2	12月9日(水)	オンライン テーマ:「大学図書館が著作権法の改正でできること、できないことを理解し、新しいサービスの可能性を一緒に考えましょう!」 ①ご紹介:「iLiswave-J」におけるデジタル化機能のご紹介 ～e-DDSと電子資料管理への取り組み～ ②ご講演:「著作権法改正がもたらす大学図書館の新しいランドスケープ」 千葉大学 教授/副学長/附属図書館長/アカデミック・リンクセンター長 竹内 比呂也 氏 ③意見交換	64 名
小計			121 名

2020年度活動実績

(5) 大学経営・情報化戦略分科会(2022年度休止)

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1			名

(6) 次世代情報システム分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	7月22日(水)	オンライン テーマ:「コロナ禍での情報システム部門の悩みを共有しませんか？」 ①情報交換 ・コロナ禍における情報インフラの課題について ・コロナ禍における情報システム部門の課題について ・オンライン授業で起きた事件?! やその他、要望や情報共有について ※システム運用管理分科会と共催	49 名
2	12月18日(金)	オンライン テーマ:「教員と職員がそれぞれの目線で語る遠隔授業への取り組み ～5大学の事例紹介からいいとこ取りしてみませんか～」 ①ご紹介:「遠隔授業実施にかかる教員および学生支援体制の整備について」 摂南大学情報メディアセンター事務局 ②ご紹介:「対面とオンラインを併用した授業実施に伴う設備整備について」 京都産業大学情報センター ③ご紹介:「インフラ整備が追い付いていない大学が直面したオンライン授業」 神戸学院大学図書館・情報支援センター ④「コロナ禍における学生・教員(授業)支援の取り組みについて」 龍谷大学文学部教務課 ⑤「ハイブリッド授業を实践して-授業は対面じゃないとダメなのかを考える-」 大阪工業大学ロボティクス&デザイン工学部教授 ⑥意見交換 ⑦情報共有・まとめ	65 名
小計			114 名

2020年度活動実績

(7) 総会

開催日	場所・内容等	参加人数
	中止	名

(8) トピックス企画

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	3月10日(水) ～4月9日(金)	ICT基礎セミナー(eラーニング) 「基礎から実践へ! ～ステップアップセミナー～」(Microsoft Office Excel, Word, PowerPoint) 対象講座: 以下6タイトルから1つを選び受講 1. よくわかる Excel 2019 応用 2. よくわかる Excel 2016 応用 3. よくわかる Word 2019 応用 4. よくわかる Word 2016 応用 5. よくわかる Power Point 2019 基礎 6. よくわかる Power Point 2016 基礎	70 名
2	11月27日(金)	創立35周年 特別講演会 講演テーマ: 「99.9%は仮説 ～思い込みで判断しないための発想法～」 講演者: 竹内 薫 氏 (サイエンス作家)	82 名

小計 152 名

2020年度活動実績

(9) テーマ別WG 次期大学基幹・協働キュレーション環境 WG

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	2020年 7月21日 (火)、9月25日 (金)、12月18日 (金) 2021年 3月26日 (金)	WG 協働的な教育・研究環境を提供するための協働キュレーション環境において、あらゆる教育・研究にかかわる活動が大学や組織を超えて協働する世界を拓く可能性を検証する。また、次期大学基幹ソリューションのニーズ抽出の場として活動。	12 名
小計			12 名

(10) テーマ別WG Campusmate勉強会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	7月10日(金)	勉強会(オンライン) 「自席で学ぶ【授業料減免】」	99 名
2	7月10日(金)	勉強会(オンライン) 「withコロナの学習スタイルを考える ～効果的オンライン学修プラットフォーム活用法～」	38 名
小計			137 名

2020年度参加者数合計 772 名

2021年度活動実績

(1) 教育システム分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	9月2日 (木)	オンライン テーマ:『学習者本位』を実現するLMS等の学修データの活用 ①ご報告:「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」 株式会社富士通総研 ②ご紹介:文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に採択の2大学より 取り組み事例のご紹介 PlusDX採択事業のご紹介「KUIS DX Experience～デジタル・パートナー・プラットフォームの構築～」 神田外語大学 「学習者本位を実現するLMS等の学修データの活用」 芝浦工業大学 ③意見交換	87 名
2	10月28日 (木)	オンライン テーマ:「IRと内部質保証・認証評価」 ①ご紹介:「大学は何を質保証すべきか?～IR機能の再確認～」 神戸学院大学 全学教育推進機構室/教学IR室 サブリーダー 藤野 津芳 氏 ②意見交換 ※事務システム分科会と共催	64 名
小計			151 名

(2) 事務システム分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	6月18日 (金)	オンライン テーマ:「授業・授業支援～遠隔授業順調ですか?担当者目線で語り合おう～」 ①意見交換 ②製品紹介:ハイフレックス型需要に向けた富士通のオンライン授業サービス ③フリートーク	75 名
2	7月16日 (金)	オンライン テーマ:「働き方改革～ワークフローを中心に働き方の変容を捉える～」 ①ご講演:「働き方改革～ワークフローを中心に働き方の変容を捉える～」 流通経済大学の事例 流通経済大学 総合情報センター 情報システム化 青砥 氏 ②意見交換	51 名
3	10月28日 (木)	オンライン テーマ:「IRと内部質保証・認証評価」 ①ご紹介:「大学は何を質保証すべきか?～IR機能の再確認～」 神戸学院大学 全学教育推進機構室/教学IR室 サブリーダー 藤野 津芳 氏 ②意見交換 ※教育システム分科会と共催	64 名
4	12月10日 (金)	オンライン テーマ:「業務効率化～その先にあるDXへの道程～」 ①ご紹介:システム構築事例 「汎用機からオープン系へ 新学生情報システム導入による業務変化」 東海大学 ビーワンオフィス(教学担当) 中須 氏 ②ご紹介:ソリューション 「大学基幹ソリューション Campus-Xs」 富士通Japan株式会社 大学ソリューション事業部 村山 氏 ③意見交換 ④まとめ	51 名
小計			241 名

2021年度活動実績

(3)システム運用管理分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	12月13日(月)	オンライン テーマ:「最新OS Windows11の紹介と大学 情報環境整備の悩みを共有、解決しよう!!」 【第1部】 ①ご挨拶 日本マイクロソフト株式会社 文教営業部 本部長 若生 氏 ②ご紹介 日本マイクロソフト株式会社 胡口 氏 【第2部】 ①意見交換:「大学情報環境の課題解決に向けた意見交換」	69 名
小計			69 名

(4)図書館分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	7月20日(火)	オンライン テーマ:「大学図書館におけるDX」 ①講演:「大学図書館におけるDX “AI時代”に向けてできること」 青山学院大学 教育人間科学部 教授/図書館長/アカデミックライティングセンター長 前シンギュラリティ研究所共同所長 野末 俊比古 氏 ②事例紹介:「大学図書館におけるDX」神田外語大学では… 神田外語大学 ③事例紹介:「大学図書館におけるDX」 共立女子大学 ④事例紹介:「大学図書館におけるDX」 龍谷大学 ⑤意見交換	137 名
2	12月17日(金)	オンライン テーマ:「大学図書館におけるDX～身近なテーマの深掘りや課題の共有～」 ①意見交換:パネルディスカッション テーマ:1. 非来館型の図書館サービスのあり方 2. データ活用 パネリスト校:大阪市立大学、神田外語大学、帝京大学、龍谷大学	69 名
小計			206 名

2021年度活動実績

(5) 大学経営・情報戦略分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	7月13日(火)	オンライン テーマ:「DXの理解を深める～DX基本編～」 ①ご報告1:「大学DXははじめの一步 DXの表と裏」 株式会社富士通総研 行政情報化グループ グループ長 橋本 尚志 氏 ②ご報告2:「大学等におけるDX事例のご紹介」 株式会社富士通総研 行政情報化グループ シニアコンサルタント 佐伯 恵里 氏 ③ご講演:「ポストコロナにおける高等教育DX」 文部科学省 高等教育局 専門教育課 企画官 服部 正 氏 ④意見交換 ※次世代情報システム分科会と共催	284 名
2	11月9日(火)	オンライン テーマ:「DX推進を図るためのワークショップ」～大学現場のDXの課題・施策を考える～ ①ワークショップ ②全体発表 ③富士通フィールド・イノベーターからDX支援の情報提供	36 名
小計			320 名

(6) 次世代情報システム分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	7月13日(火)	オンライン テーマ:「DXの理解を深める～DX基本編～」 ①ご報告1:「大学DXははじめの一步 DXの表と裏」 株式会社富士通総研 行政情報化グループ グループ長 橋本 尚志 氏 ②ご報告2:「大学等におけるDX事例のご紹介」 株式会社富士通総研 行政情報化グループ シニアコンサルタント 佐伯 恵里 氏 ③ご講演:「ポストコロナにおける高等教育DX」 文部科学省 高等教育局 専門教育課 企画官 服部 正 氏 ④意見交換 ※大学経営・情報戦略分科会と共催	284 名
2	10月29日(金)	オンライン テーマ:「Plus-DX採択事例から学ぶDX推進の勘所」 ①ご紹介:文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン(Plus-DX)」に 採択された大学による取り組み事例のご紹介 「関大LMSでつながる『今の学び』と『未来の自分』-学習環境の再構築とキャリア支援-」 関西大学 「学生の気付きと主体的な学びを促進するデータ駆動型教育の実現」 京都産業大学 「小規模私立大学のDX教育モデル基盤構～羽衣国際大学のDX推進計画と反転授業～」 羽衣国際大学 ②意見交換	72 名
3	2月22日(火)	オンライン テーマ:「DXを全学で展開するには？」～理想と現実、ギャップをどう埋めていくか皆で考えよう～ ①ご紹介:「近畿大学におけるデジタル化・DXの推進について」 近畿大学 経営戦略本部 デジタル戦略室 技術課長補佐 前川 昌則 氏 ②意見交換	81 名
小計			437 名

2021年度活動実績

(7)総会

開催日	場所・内容等	参加人数
	議案賛否確認のみ	名

(8)トピックス企画

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	10月15日(金) ～11月14(日)	ICT基礎セミナー(eラーニング) 「基礎から実践へ！ ～ステップアップセミナー～」(Microsoft Office Excel,Word,PowerPoint) 対象講座:以下14タイトルから1つを選び受講 1. よくわかる Excel 2019 基礎 2. よくわかる Excel 2019 応用 3. よくわかる Excel 2016 基礎 4. よくわかる Excel 2016 応用 5. 仕事の効率アップ 知っておきたいExcel関数を使った集計表作成 6. 仕事の効率アップ データから売上傾向を読み取る！ピボットテーブル活用 7. 仕事の効率アップ Excel表から必要なデータを素早く見つける方法 8. よくわかる Word 2019 基礎 9. よくわかる Word 2019 応用 10. よくわかる Word 2016 基礎 11. よくわかる Word 2016 応用 12. よくわかる Power Point 2019 基礎 13. よくわかる Power Point 2016 基礎 14. よくわかる Access 2019/2016 基礎	112 名
2	7月12日(月)	専門的IT人材育成セミナー 「体験！プロジェクトマネジメント(基礎編)～身近な事例で学ぶ～」	17 名
3	11月8日(月)	専門的IT人材育成セミナー 「RFP作成の基礎 ～何故、そのRFPでは伝わらないのか～」	22 名
4	7月28日	CBT勉強会 「大学入試における CBT 化のメリットと課題 ～製品のご紹介と意見交換～」	20 名

小計 171 名

2021年度活動実績

(9)テーマ別WG 次期大学基幹・協働キュレーション環境 WG

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	7月26日(月)	ワークショップ 「情報の収集、整理、公開の新たな形 ～研究・教育・事務作業における新たな情報の活用～」	21名
2	2021年7月30日 (金)、10月8日 (金) 2022年1月21日 (金)、3月23日 (水)	WG	18名

小計 39名

2021年度参加者数合計 1,286名

2022年度活動実績

(1)教育システム分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	7月11日(月)	オンライン テーマ:「学修成果のさらなる可視化 デジタル証明書～オープンバッジの活用について～」 ①ご講演:「学修成果のさらなる可視化 デジタル証明書～オープンバッジの活用について～」 一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク 常務理事 吉田 俊明 氏 (株式会社ネットワーキングホールディングス 取締役副社長) ②グループワーク(意見交換) ③全体会 ・各グループの意見交換内容を参加者に共有 ・講演者への質疑応答及び意見交換	64 名
2	10月7日(金)	オンライン テーマ:「オンデマンド授業のこれまでとこれから～各大学よもやま話～」 ①意見交換:パネルディスカッション テーマ ・「オンデマンド授業に利用していたツールおよび支援体制」 ・「2021年度におけるオンデマンド授業実施状況」 ・「実施教員へのお願い事項」 ・「オンデマンド授業における成績評価および授業評価」 パネリスト校:共立女子大学、芝浦工業大学、明治大学 モデレーター:清泉女子大学	56 名
3	12月7日(水)	オンライン テーマ:「『大学が育む人材』と『企業が求める人材』の比較から学修成果の可視化を考える ～ポートフォリオやディプロマサブリメントの検討～」 ①ご講演:「『ひらめき・こと・もの・ひと』づくりプログラム」について 東京都市大学 理工学部長 岩尾 徹 氏 ②ご紹介:「バーパストリプンを実現する新卒採用」 富士通株式会社 Employee Success本部 人材採用センター長 渡辺 大介 氏 ③質疑応答 ④意見交換	58 名
小計			178 名

2022年度活動実績

(2) 事務システム分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	6月24日(金)	オンライン テーマ:「業務の断捨離しませんか?」 ～コロナ禍を経て分かった不要な業務を捨てスマートに～ ①2022年度活動について ②意見交換	39名
2	7月19日(火)	オンライン テーマ:「無駄のない業務環境を考えよう!」 ～業務環境の変化への対応(ハード面・ソフト面)～ ①事例紹介:「完全ペーパーレス! 最先端企業から学ぶ業務改善と大学の事例」 グーグル・クラウド・ジャパン合同会社 パブリックセクター本部高等教育機関担当 東日本エリア責任者 秋元 禮 氏 株式会社サテライトオフィス 取締役 事業本部長 岡 裕明 氏 学校法人共立女子学園 法人事務部 情報システム課 情報システムグループ グループリーダー 青木 良輔 氏 ②質疑応答 ③意見交換	36名
3	10月26日(水)	オンライン テーマ:「コミュニケーションを深める方法を探ろう!」 ～不要な電話、膨大なメール、各種コミュニケーションツール、 どう使い分けて、どうやって開放される?～ ①ご紹介:開催テーマに関する大学での取り組み事例のご紹介 「コミュニケーションを深める方法を探ろう! 大東文化大学の事例」 大東文化大学 総務部人事課 専門部長 渡邊 一憲 氏 「部署内でコミュニケーションを深める方法とは?」 千葉工業大学 教学センター津田沼教務担当 山崎 恭輔 氏 「コミュニケーションツールとしての『電話』とこれから」 立正大学 入試センター品川入試課 白川 晃大 氏 ・質疑応答 ②ご紹介:企業からの各種コミュニケーションツール活用等のご提案 「大学での活用事例に学ぶ ビジネスチャットのススメ」 ワークスモバイルジャパン株式会社 法人ビジネス本部 マーケットデベロップメントスペシャリスト 内藤 佐知子 氏 「業務にまつわるコミュニケーションを最適化!」 ～これからの時代に求められるコミュニケーションのあり方とは～ シスコシステムズ合同会社 公共事業 東日本営業本部 米谷 昌己 氏 ③質疑応答	62名
4	12月13日(火)	オンライン テーマ:「学生の視点でサービス向上を考えよう!」 ～学生目線の学生サービスとして準備すべきこと(ハード面・ソフト面)～ ①ご報告:富士通Japan株式会社の若手社員より 大学在学中の授業・学生サービス等について、コロナ禍による変化で 良かった点・悪かった点 ②意見交換:グループワーク ③全体会	51名

小計 188名

2022年度活動実績

(3) システム運用管理分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	7月27日(水)	オンライン テーマ:「大学でのDXに向けたクラウド活用」 ①ご講演:「大学でのDXに向けたクラウド活用」 NCRI株式会社 代表取締役社長/工学博士 津田 邦和 氏 ②意見交換・質疑応答	62 名
2	11月17日(木)	オンライン テーマ:「大学でのBYODの活用と教室環境」 ①ご紹介:「富士通が考えるBYODの課題と実現パターン」 富士通Japan株式会社 教育ソリューションビジネス統括部 シニアマネージャー 原田 慶 氏 ②ご講演(I):「学習用PCの活用と仮想PC予約システムの導入」 学校法人工学院大学 情報システム部 高橋 佳大 氏 ③ご講演(II):「Azure Virtual Desktopを使った仮想PC教室の実例」 学校法人東京理科大学 情報システム部 情報システム課 ITサポート室 吉田 孝将 氏 ④質疑応答・意見交換	158 名
小計			220 名

(4) 図書館分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	7月6日(水)	オンライン テーマ:「国立国会図書館のデジタルシフトと大学図書館」 ①ご講演:「国立国会図書館のデジタルシフトと大学図書館」 国立国会図書館 総務部 企画課 課長補佐 奥田 倫子 氏 ②質疑応答・意見交換	94 名
2	12月15日(木)	オンライン テーマ:「著作権法第31条改正と大学図書館」 ①ご講演:「著作権法31条の改正がこれからの大学図書館に与える影響について」 千葉大学 副学長附属図書館長/アカデミック・リンク・センター長/人文科学研究院教授 竹内 比呂也 氏 ②ご講演:「図書館等公衆送信サービスの開始に向けて～いま、各館でできること～」 千葉大学 附属図書館 利用支援企画課利用支援企画グループ 高木 晃子 氏 ③意見交換・質疑応答	104 名
3	2月20日(月)	オンライン テーマ:「オープンサイエンスと大学図書館」 ①ご講演:「オープンサイエンスと大学図書館の面白くも悩ましい関係:本格的な科学と社会の変容を踏まえて」 文部科学省科学技術・学術政策研究所 データ解析政策研究室長 林 和弘 氏 ②意見交換・質疑応答	88 名
小計			286 名

2022年度活動実績

(5) 大学経営・情報戦略分科会 (2022年度休止)

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1			名
小計			0 名

(6) 次世代情報システム分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	8月1日 (月)	オンライン テーマ:「近未来の教育～メタバースの教育分野への活用～」 ①ご紹介:「XRエンジニアからみたメタバースの業界動向と未来」 富士通株式会社 ジャパン・グローバルゲートウェイ アドバンストテクノロジー推進統括部 Global Fujitsu Distinguished Engineer シニアマネージャー 宮浦 恭弘 氏 ②ご講演:「メタバースを利用した英会話・国際交流の試行実施と今後の活用について」 羽衣国際大学 共通教育開発センター センター長 清水 明男 氏 スタッフ スプリング ダウン 氏 ③意見交換・質疑応答	91 名
2	11月28日 (月)	オンライン テーマ:「セキュリティ最新情報」 ①ご紹介:「富士通の考える大学を取り巻くセキュリティ事情とその対策」 富士通Japan株式会社 インフラ戦略企画部 部長 吉岡 亮平 氏 ②ご講演:「Webサービスセキュリティ強化の取り組み」 早稲田大学 情報企画部情報企画課 小泉 幸広 氏 ③意見交換:グループワーク ④全体会	77 名
3	3月1日 (水)	オンライン テーマ:「無線通信の現状と未来～4G (Wi-Fi)、5G、6G～」 ①ご紹介:「無線LAN (Wi-Fi) 検討の動向 ～新規格対応と見直し時のポイント、課題への対応について～」 富士通株式会社 インフラ&ソリューションセールス本部 チャネルセールス第二統括部 原川 祐彰 氏 ②ご紹介:「まるわかりローカル5G」 富士通株式会社 インフラ&ソリューションセールス本部 プリセールス第一統括部 マネージャー 折田 大輔 氏 ③ご紹介:「6G時代のネットワーク」 富士通株式会社 未来社会&テクノロジー本部 立野 伸治 氏 ④質疑応答・意見交換	95 名
小計			263 名

2022年度活動実績

(7)総会

開催日	場所・内容等	参加人数
7月8日(金)	オンライン ①議決結果報告 ②各分科会 活動計画案 報告 ③スペシャル対談「CS研への思い、そしてこれから」 CS研 第8代会長 阪井 和男氏(明治大学) CS研 第9代会長 大西 淳氏(立命館大学) ③特別講演「万物は渋滞する ～渋滞学とは何か～」 東京大学 先端科学技術研究センター 教授 西成 活裕氏	92 名

(8)トピックス企画

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	12月5日(月) ～1月29日(日)	ICT基礎セミナー(eラーニング) テーマ:「基礎から実践へ! ～ステップアップセミナー～」(Microsoft Excel, Word, PowerPoint, Access) 対象講座: 以下14タイトルから1つを選び受講 1. よくわかる Excel 2019 基礎 2. よくわかる Excel 2019 応用 3. よくわかる Excel 2016 基礎 4. よくわかる Excel 2016 応用 5. 仕事の効率アップ 知っておきたいExcel関数を使った集計表作成 6. 仕事の効率アップ データから売上傾向を読み取る! ピボットテーブル活用 7. 仕事の効率アップ Excel表から必要なデータを素早く見つける方法 8. よくわかる Word 2019 基礎 9. よくわかる Word 2019 応用 10. よくわかる Word 2016 基礎 11. よくわかる Word 2016 応用 12. よくわかる Power Point 2019 基礎 13. よくわかる Power Point 2016 基礎 14. よくわかる Access 2019/2016 基礎	93 名
2	12月21日(水)	オンライン テーマ: デジタルトランスフォーメーション実現のためのアプローチ [講師] 株式会社富士通ラーニングメディア [概要] DX実現について、「何をすればいいか、どこから着手すればよいかわからない」という声がよく聞かれます。 本コースでは、「DXとは何か」「なぜDXを実現することが急務なのか」という基本を理解した上で、DX実現のための大きな道筋(アプローチ)を学習します。	18 名

小計 111 名

2022年度参加者数合計 1,246 名

2023年度活動実績

(1)教育システム分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	6月16日(金)	共立女子大学 神田一ツ橋キャンパス テーマ:「対面授業のいま～共立女子大学 授業見学会～」 ①授業見学・施設見学 ・3講義(1講義×15分程度) ・教室などの施設見学 ②意見交換:グループディスカッション ③全体会	43 名
2	10月30日(月)	清泉女子大学 + オンライン(ハイブリッド開催) テーマ:「BYODで大学の授業はどう変わったのか」 ①ご講演:「清泉女子大学におけるBYOD導入事例ご紹介」 清泉女子大学 情報環境センター センター長 与田 達浩 氏 ②質疑応答 ③施設見学(キャンパス内見学) ④意見交換・全体共有 ※システム運用管理分科会と共催	136 名
3	12月8日(金)	芝浦工業大学 豊洲キャンパス テーマ:「先進的な教育環境の活用」 ①授業見学(多目的スペース) ②ご講演:「eスポーツを用いた新しい体育授業の実践+α」 芝浦工業大学 情報工学科 教授 石崎 聡之 氏 ③ARスポーツの体験会	23 名
小計			202 名

2023年度活動実績

(2) 事務システム分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	6月23日(火)	富士通ソリューションスクエア + オンライン (ハイブリッド開催) テーマ:「教務DX～今こそ教務DXを見直して更なる業務効率化を目指しませんか～」 ①ご紹介:「富士通の考える大学DX～Campus-Xsで実現していること、今後目指すこと～」 富士通Japan株式会社 パブリック&ヘルスケア事業本部 大学ソリューション事業部 第一大学ソリューション部 シニアマネージャー 山内 祐貴 氏 ②意見交換 ③全体会	84 名
2	7月12日(水)	立正大学 品川キャンパス + オンライン (ハイブリッド開催) テーマ:「入試DX ～これまでの入試業務のプロセスを見直して効率化の方法を考えていきましょう～」 ①ご紹介:「立正大学の入試業務のDX化に向けた現状と課題について ～情報システム課から入試課に異動してきた1年間の振り返る～」 立正大学 入試センター 品川入試課 白川 晃大 氏 ②ご紹介:「学生募集DX～今なぜデジタルマーケティングが必要か～」 株式会社 進研アド MA(マーケティングオートメーション) 事業部 事業部長 荒牧 耕平 氏 ③グループワーク (分科会終了後、希望者による施設見学会)	84 名
3	11月10日(金)	オンライン テーマ:「経理DX～電子帳簿保存法とインボイス制度への対応～」 [第1部] ①ご講演:「電子帳簿保存法」 村山税務会計事務所 村山 英政 氏 ②質疑応答 [第2部] ①ご講演:「インボイス制度」 村山税務会計事務所 村山 英政 氏 ②質疑応答	50 名
4	12月15日(金)	立教大学 池袋キャンパス + オンライン (ハイブリッド開催) テーマ:「人事DX～今からでも遅くない、初めての人事DX～」 [第1部] ①ご講演:「働き方改革と人事DX～これからのタレントマネジメント活用～」 学校法人立教学院 人事部人事課 担当課長 佐伯 美佳 氏 ②ご講演:「業務の見直しで変わる！今日から始める教育機関のDX ～システムとチームをつなぐ業務設計～」 株式会社BYARD CEO 武内 俊介 氏 [第2部] ①意見交換:グループワーク ②キャンパス見学(チャペル、本館(ツリー)、展示館、レンガ建物等)	54 名

小計 272 名

2023年度活動実績

(3) システム運用管理分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	7月31日(月)	オンライン テーマ:「大学DXのためのクラウド活用(2023)」 ①ご紹介:「富士通が考えるクラウド移行の最適解と文教系事例のご紹介」 富士通株式会社 Hybrit IT テクニカルセールス部 栗川 直也 氏 ご紹介:「大学ならではのクラウド運用」 富士通Japan株式会社 教育ソリューションビジネス部 シニアマネージャー 原田 慶 氏 ②質疑応答・意見交換	54 名
2	10月30日(月)	清泉女子大学 + オンライン (ハイブリッド開催) テーマ:「BYODで大学の授業はどう変わったのか」 ①ご講演:「清泉女子大学におけるBYOD導入事例ご紹介」 清泉女子大学 情報環境センター センター長 与田 達浩 氏 ②質疑応答 ③施設見学(キャンパス内見学) ④意見交換・全体共有 ※教育システム分科会と共催	136 名
小計			190 名

(4) 図書館分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	6月12日(月)	オンライン テーマ:「ERMS(電子リソース管理システム)の理解、そして導入と活用」 ①ご講演:「電子リソースデータ共有サービスの現在の状況」 国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム 三村 千明 氏 ②ご講演:「電子リソースデータ共有サービスにおける『ライセンス(JUSTICE)』の導入にあたって」 佛教大学図書館 専門員 飯野 勝則 氏 ③ご紹介:「電子リソースデータ共有サービス連携について」 富士通Japan株式会社 ④意見交換・質疑応答	114 名
2	12月4日(月)	東京学芸大学 + オンライン (ハイブリッド開催) テーマ:「図書館のサービス改善とDXへの取り組み」 ①ご講演:「東京学芸大学の図書館と知の未来」 国立大学法人 東京学芸大学 総務部 学術情報課長(併)情報基盤課長 高橋 菜奈子 氏 ②質疑応答 ③図書館見学 ④交流会・意見交換	80 名
3	2月20日(月)	オンライン テーマ:「オープンサイエンスと大学図書館」 ①ご講演:「オープンサイエンスと大学図書館の面白くも悩ましい関係:本格的な科学と社会の変容を踏まえて」 文部科学省科学技術・学術政策研究所 データ解析政策研究室長 林 和弘 氏 ②意見交換・質疑応答	88 名
小計			282 名

2023年度活動実績

(5) 大学経営・情報戦略分科会 (2023年度休止)

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1			名
小計			0 名

(6) 次世代情報システム分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	9月29日 (金)	富士通株式会社 Osaka Hub + オンライン (ハイブリッド開催) テーマ:「チャットボットの未来とその可能性」 ①ご講演:「コロナ禍での教員支援としてのチャットボット導入 -支援の効率化・高度化を目指して-」 立命館大学 教務課 課員 落合 弘望 氏 ②ご紹介:「ChatGPTを安全に活用するためのポイントとハルシネーションへの対策」 富士通株式会社 グローバルテクノロジーソリューションBG デジタル・ワークプレイス事業本部 シニアマネージャー 阪井 章三 氏 ③質疑応答 ④意見交換・全体共有	81 名
2	12月26日 (火)	羽衣国際大学 + オンライン (ハイブリッド開催) テーマ:「教育DXの取り組み事例と課題～学びのスタイル変革とその効果～」 ①ご講演:「羽衣国際大学の教育DXの取組みと今後の展望について」 羽衣国際大学 共通教育開発センター(CSD)センター長 清水 明男 氏 ②質疑応答 ③意見交換 ④施設見学(スタジオ施設)	50 名
3	3月15日 (金)	富士通株式会社 Osaka Hub + オンライン (ハイブリッド開催) テーマ:「未来のキャンパス」 ①ご講演:久留米工業大学「メタバース・ラボ」の活用と将来構想 久留米工業大学 学長補佐・工学部・大学院電子情報システム工学専攻教授 AI応用研究所副所長 小田 まり子 氏 ②ご紹介:「未来のキャンパスとテクノロジー」 富士通Japan株式会社 パブリック事業本部 教育ソリューションビジネス部 シニアマネージャー 寺下 一欣 氏 ③パネルディスカッション ④体験会 会場にて「メタバース・ラボ」を体験	73 名
小計			204 名

2023年度活動実績

(7) 総会

開催日	場所・内容等	参加人数
5月26日(金)	富士通株式会社ソリューションスクエア + オンライン (ハイブリッド開催) ①議案の報告 ②各分科会 活動計画案報告 ③特別講演「天達流の備え! ~異常気象と気象災害対策~」 気象予報士 天達 武史 氏 ③フリー交流会	102 名

(8) トピックス企画

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	10月4日(水)	専門的IT人材育成セミナー テーマ:「データドリブン思考ワークショップ」 [概要] データドリブンでの業務改革が必要とされてきている中で、既存業務の中でデータ活用のポイントを学習します。データドリブンで業務を改善していくうえで、注目すべきは意思決定プロセスの課題となります。 本コースではデータドリブンで業務を見直す上での思考フレームをもとにデータ活用の入り口を理解します。 [カリキュラム] 1. データ分析をビジネスにつなげるために 2. データドリブンな意思決定プロセス	24 名
2	10月23日(月) ~12月17日(日)	ICT基礎セミナー(eラーニング) テーマ:「基礎から実践へ! ~ステップアップセミナー~」 対象講座:以下17タイトルから1つを選び受講 1. よくわかる Excel 2019 基礎 2. よくわかる Excel 2019 応用 3. よくわかる Excel 2016 基礎 4. よくわかる Excel 2016 応用 5. 仕事の効率アップ 知っておきたいExcel関数を使った集計表作成 6. 仕事の効率アップ データから売上傾向を読み取る!ピボットテーブル活用 7. 仕事の効率アップ Excel表から必要なデータを素早く見つける方法 8. よくわかる Word 2019 基礎 9. よくわかる Word 2019 応用 10. よくわかる Word 2016 基礎 11. よくわかる Word 2016 応用 12. よくわかる Power Point 2019 基礎 13. よくわかる Power Point 2016 基礎 14. よくわかる Access 2019/2016 基礎 15. コンプライアンス著作権法 16. 個人情報保護講座:個人情報保護 令和版 17. コンプライアンス講座:知らずにはまる!コンプライアンスの落とし穴	79 名
小計			103 名

2023年度参加者数合計 1,219 名

2024年度活動実績

(1)教育システム分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	5月31日(金)	<p>Fujitsu Uvance Kawasaki Tower + オンライン (ハイブリッド開催)</p> <p>テーマ:「教育の未来を語る～10年後の未来に向けて我々は何をすべきか～」</p> <p>①ご講演:「2034年教育の未来予報～10年後の教育現場はどうなっているか」 未来予報株式会社 代表取締役 フューチャリスト 宮川 麻衣子 氏</p> <p>②全体共有</p> <p>③意見交換:グループワーク</p> <p>④全体共有</p> <p>※役員会と共催</p>	110 名
	7月18日(木)	<p>工学院大学 新宿キャンパス + オンライン (ハイブリッド開催)</p> <p>テーマ:「授業のためのICT環境の整備～BYOD～」</p> <p>①ご講演:「BYODを活用した授業のためのICT環境の整備」 工学院大学 情報システム部 課長 高橋 佳大 氏</p> <p>②ご講演:「BYODを考慮した無線LANシステムの検討～AP性能評価～」 工学院大学 情報システム部 丸地 賢 氏</p> <p>③賛助会員4社からの情報提供:～BYODの運用に役立つ製品情報のご紹介～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社内田洋行 ・京セラドキュメントソリューションズジャパン株式会社 ・チエル株式会社 ・富士通Japan株式会社 <p>④意見交換・全体共有</p> <p>⑤施設見学(ラーニングコモンズ「工手の泉」、教室)</p> <p>※システム運用管理分科会と共催</p>	156 名
2	10月9日(水)	<p>関西会場(メイン):同志社大学 今出川キャンパス 関東会場(サブ):Fujitsu Uvance Kawasaki Tower オンライン (ハイブリッド開催)</p> <p>テーマ:「生成AIの教育への活用」</p> <p>①ご講演:「全学データサイエンス・AI教育における生成AIの利活用」 同志社大学 文化情報学部 教授 同志社データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会 委員長 宿久 洋 氏</p> <p>②質疑応答</p> <p>③意見交換・全体共有</p> <p>④今出川キャンパスツアー(学生ボランティアによるご案内)</p> <p>※次世代情報システム検討分科会と合同開催</p>	84 名
小計			350 名

2024年度活動実績

(2) 事務システム分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	7月29日(月)	桜美林大学 新宿キャンパス + オンライン (ハイブリッド開催) テーマ:「出席管理システムの導入事例と今後について」 ①プロローグ:「運営委員の大学における出席管理について」 芝浦工業大学 高野 氏 成蹊大学 吉田 氏 千葉工業大学 山崎 氏 ②ご講演:「桜美林大学におけるスマホによる出席登録と活用事例について」 桜美林大学 学務部 教務課長 寺田 洋一 氏 ③ご講演:「出欠管理システムにおける課題や機能追加に対する対応策について」 ピープルソフトウェア株式会社 PS事業部 石平 あんり 氏 ④意見交換 ⑤キャンパス見学(新宿キャンパス)	110 名
2	10月4日(金)	立正大学 品川キャンパス + オンライン (ハイブリッド開催) テーマ:「私立大学への補助金について学ぶ」 ①ご講演:「令和7年度概算要求を中心とした私立大学を取り巻く情勢等について」 文部科学省 高等教育局 私学部 私学助成課 課長補佐 菅谷 匠 氏 ②意見交換	218 名
3	10月11日(金)	成蹊大学 + オンライン (ハイブリッド開催) テーマ:「オンライン授業のこれから」 ①ご講演:「今後のオンライン教育の展開と可能性:COVID-19下の経験から」 同志社大学 社会学研究科 学部教授 高等教育・学生研究センター長 山田 礼子 様 ②賛助会員2社からの情報提供 ニューノーマル期における新たな講義スタイル ～「ライトボード」のご紹介～ 株式会社早稲田大学アカデミックソリューション IT推進部 コンテンツ企画チーム 多様な授業運営にかかせないLMSのご紹介 FUJITSU 文教ソリューション Campus-Xs 学修支援 富士通Japan株式会社 Public & Education事業本部 P&Eビジネス戦略室 ③施設見学	79 名
4	11月11日(月) ～11月12日(火)	11月11日(月):東北大学 片平キャンパス + オンライン (ハイブリッド開催) 11月12日(火):東北大学 青葉山キャンパス + オンライン (ハイブリッド開催) テーマ:「大学業務DXと産学連携」 [1日目]片平キャンパス ①ご講演:「東北大学公式ポータルアプリの開発と展望」 東北大学 情報部デジタル変革推進課 課長補佐 佐藤 卓 氏 ②ご講演:「東北大学における仮想クライアントとChromebook導入事例」 東北大学 情報部デジタル変革推進課 専門職員 川上 翔 氏 ③意見交換 ④全体共有 [2日目]青葉山キャンパス ①見学会:「次世代放射光施設 NanoTerasu(ナノテラス)」 NanoTerasu統括事務局広報グループリーダー 加道 雅孝 氏 ②ご講演:「東北大学の産学共創とスタートアップの取組について」 東北大学 産学連携機構 副機構長 副理事 小田 喜夫 氏	11日 131 名 12日 57 名
小計			595 名

2024年度活動実績

(3) システム運用管理分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	7月18日(木)	工学院大学 新宿キャンパス + オンライン (ハイブリッド開催) テーマ:「授業のためのICT環境の整備～BYOD～」 ①ご講演:「BYODを活用した授業のためのICT環境の整備」 工学院大学 情報システム部 課長 高橋 佳大 氏 ②ご講演:「BYODを考慮した無線LANシステムの検討～AP性能評価～」 工学院大学 情報システム部 丸地 賢 氏 ③賛助会員4社からの情報提供:～BYODの運用に役立つ製品情報のご紹介～ ・株式会社内田洋行 ・京セラドキュメントソリューションズジャパン株式会社 ・チエル株式会社 ・富士通Japan株式会社 ④意見交換・全体共有 ⑤施設見学(ラーニングコモンズ「工手の泉」、教室) ※教育システム分科会と共催	156 名
2	12月20日(金)	東洋大学 朝霞キャンパス + オンライン (ハイブリッド開催) テーマ:「DX時代のシステム運用管理」 ①ご講演:「DX時代における東洋大学のネットワーク設計、クラウドサービス運用について」 東洋大学 情報システム部 システム管理課 課長補佐 長谷川 和弘 氏 ②質疑応答 ③施設見学(朝霞新キャンパス「生命(いのち)と食」に関する総合的な教育研究 拠点) ④質疑応答 ⑤意見交換 ⑥全体共有	104 名
小計			260 名

(4) 図書館分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	6月18日(火)	オンライン テーマ:わかって課題解決!「図書館システムのデータ構造・活用勉強会」 ①ご紹介:「図書館システムの理解」 データ構造、業務とデータとの関連やデータ項目について 富士通Japan株式会社 Public & Education事業本部 教育サービス事業部 芦田 宗明 氏 ②ご紹介:「データ分析・活用の具体的な手法や事例」 富士通Japan株式会社 Public & Education事業本部 P&Eビジネス戦略室 マネージャー 木村 剛美 氏 ③ご紹介:「メール送信の分析について」 富士通Japan株式会社 Public & Education事業本部 教育サービス事業部 シニアマネージャー 菊地 高志 氏 ④意見交換 ⑤全体共有	120 名
2	12月12日(木)	富士通 Yokohama Hub + オンライン (ハイブリッド開催) テーマ:「図書館資料検索とAI」 ①ご講演:「横浜市立図書館における蔵書探索AIの導入と利用者の反応」 横浜市中央図書館 企画運営課 企画調整係 横尾 菜穂 氏 ②質疑応答 ③ご講演:「Scopus AIの最新機能と活用事例」 エルゼビア・ジャパン株式会社 Scopusプロダクトマネジメント シニアダイレクター 柿田 佳子 氏 ④質疑応答	101 名
小計			221 名

2024年度活動実績

(5) 大学経営・情報戦略分科会 (2024年度休止)

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1			名
小計			0 名

(6) 次世代情報システム分科会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	9月4日(水)	オンライン テーマ:「生成AI活用へのヒント ～生成AIの基礎を体験(ハンズオン)しながら学ぶ～」 ①ご紹介:「体験! ChatGPT -概要-」 株式会社富士通ラーニングメディア ナレッジサービス事業本部 生方 史郎 氏 ②ハンズオン:「体験! ChatGPT -ハンズオン-」 株式会社富士通ラーニングメディア ナレッジサービス事業本部 生方 史郎 氏、中村 英一郎 氏 ③ご紹介:「富士通のAIサービスと生成AI実践例ご紹介」 富士通株式会社 技術戦略本部 SME推進統括部 シニアディレクター 滝澤 基行 氏	51 名
2	10月9日(水)	関西会場(メイン):同志社大学 今出川キャンパス 関東会場(サブ):Fujitsu Uvance Kawasaki Tower オンライン(ハイブリッド開催) テーマ:「生成AIの教育への活用」 ①ご講演:「全学データサイエンス・AI教育における生成AIの利活用」 同志社大学 文化情報学部 教授 同志社データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会 委員長 宿久 洋 氏 ②質疑応答 ③意見交換・全体共有 ④今出川キャンパスツアー(学生ボランティアによるご案内) ※教育システム分科会と共催	84 名
3	1月20日(月)	Microsoft Base Ritsumeikan 立命館大学 大阪いばらきキャンパス + オンライン (ハイブリッド開催) テーマ:「生成AIの業務活用&立命館大学のDX推進」 ①ご講演:「生成AIサービス活用のノウハウとその先」 九州大学 IR室 学術推進専門員 森木 銀河 氏 ②質疑応答 ③ご講演:「TRY FIELD」 立命館大学 社会共創推進本部 本部長/教授 朝山 悟 氏 ④質疑応答	105 名
小計			240 名

2024年度活動実績

(7)総会

開催日	場所・内容等	参加人数
5月23日(木)	Fujitsu Uvance Kawasaki Tower + オンライン配信 (ハイブリッド) ①議案の報告 ②各分科会 活動計画案報告 ③特別講演「師匠が語る弟子・藤井聡太という才能」 棋士 杉本 昌隆 氏 ④懇親会 ※教育システム分科会と共催	112 名

(8)トピックス企画

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	9月4日(水)	専門的IT人材育成セミナー(オンライン) テーマ:「生成AI活用へのヒント ～生成AIの基礎を体験(ハンズオン)しながら学ぶ～」 ①ご紹介:「体験! ChatGPT -概要-」 株式会社富士通ラーニングメディア ナレッジサービス事業本部 生方 史郎 氏 ②ハンズオン:「体験! ChatGPT -ハンズオン-」 株式会社富士通ラーニングメディア ナレッジサービス事業本部 生方 史郎 氏、中村 英一郎 氏 ③ご紹介:「富士通のAIサービスと生成AI実践例ご紹介」 富士通株式会社 技術戦略本部 SME推進統括部 シニアディレクター 滝澤 基行 氏 ※次世代情報システム検討分科会と共催	51 名
2	12月23日(月) ～2月16日(日)	ICT基礎セミナー(eラーニング) テーマ:「基礎から実践へ! ～ステップアップセミナー～」 対象講座:以下18タイトルから1つを選び受講 1. よくわかる Excel 2019 基礎 2. よくわかる Excel 2019 応用 3. よくわかる Excel 2016 基礎 4. よくわかる Excel 2016 応用 5. 仕事の効率アップ 知っておきたいExcel関数を使った集計表作成 6. 仕事の効率アップ データから売上傾向を読み取る!ピボットテーブル活用 7. 仕事の効率アップ Excel表から必要なデータを素早く見つける方法 8. よくわかる Word 2019 基礎 9. よくわかる Word 2019 応用 10. よくわかる Word 2016 基礎 11. よくわかる Word 2016 応用 12. よくわかる Power Point 2019 基礎 13. よくわかる Power Point 2016 基礎 14. よくわかる Access 2019/2016 基礎 15. コンプライアンス著作権法 16. 個人情報保護講座:個人情報保護 令和版 17. コンプライアンス講座:知らずにはまる!コンプライアンスの落とし穴 18. 速習! AI入門	60 名
3	2月28日(金)	最新技術セミナー 理化学研究所 計算科学研究センター(兵庫県神戸市) テーマ:「スーパーコンピュータ『富岳』見学会 ～見学と生成AIへの活用事例～」 ご紹介: 開発の経緯やスペックなど「富岳」概要をご紹介 見学と質疑応答 ご紹介: 「スーパーコンピュータ『富岳』で学習した大規模言語モデルFugaku-LLMと富士通の生成AIの研究開発」 富士通株式会社 人工知能研究所 プリンシパルリサーチャー 山崎 雅文 様	37 名

小計 148 名

2024年度活動実績

(9) テーマ別WG Campus-Xs勉強会

回	開催日	場所・内容等	参加人数
1	6月28日(金)	Fujitsu Yokohama Hub + オンライン配信(ハイブリッド) テーマ: 大学基幹ソリューション「Campus-Xs」勉強会 ① Campus-Xsご紹介 ② グループワーク+全体共有 [トークテーマ] 1. 大学基幹システム更新についての考え方 2. 大学基幹システムのカスタマイズに対する考え方 3. 大学基幹システムの多システム連携の現状課題や期待すること 4. 大学騎亜kンシステムの運用中サポート等に期待すること ③ Campus-Xsタッチ&トライ	186名

小計 186名

2024年度参加者数合計 1,821名

海外セミナー一覧(1990年～2011年に実施)

名称	第1回海外セミナー「米国大学の先端的情報環境の調査」
開催国	アメリカ合衆国
開催日	1990年10月16日(火)～31日(水)
開催目的	米国の代表的な大学における情報化の動向と先端的な情報処理環境に関する調査と情報交換および施設の見学を行った。これより、会員大学の次代を担う教職員の視野を広めるとともに、これからの日本の私立大学の情報化の方向性を見だし理想の学園作りの一助とする事を目的として実施した。

名称	第2回海外セミナー(第1回アジアセミナー)「中国－日本キャンパスシステム研究会」
開催国	中華人民共和国
開催日	1995年8月20日(日)～26日(土)
開催目的	中国の代表的な大学と教育・研究、事務、図書館などのコンピュータ利用技術についての交流を行いCS研での活動内容をアジアに向けて発信することで、会員校教職員の視野と研鑽を深め、次代を担う教職員の養成を図ることを目的として実施した。

名称	第3回海外セミナー「米国大学先進システム視察」
開催国	アメリカ合衆国
開催日	1996年10月1日(火)～12日(土)
開催目的	我が国の大学におけるコンピュータ及びネットワークを中心としたシステム環境は、大きく変化しつつある。具体的には、パーソナルコンピュータ／ワークステーションの急速な普及に伴う分散処理の拡大と全学的なネットワーク構築が進行中であり、これらを駆使したユーザサービスの高度化を、各大学は実現しようと模索している。この海外セミナーは、これらの状況を踏まえて先進的なシステムを構築している米国大学の状況を調査し、情報交換を行うとともに、先端技術の展示会や企業の視察を行うことで、今後の私立大学の情報化の方向性を見いだすことを目的として実施した。

名称	第4回海外セミナー(第2回アジアセミナー)「アジアのコンピュータ事情視察」
開催国	シンガポール共和国、タイ王国
開催日	1997年9月6日(土)～14日(日)
開催目的	「アジア諸国との連携と貢献」を目的とし、シンガポール・タイ両国の代表的な大学に於けるコンピュータ利用事情の視察とコンピュータ利用技術の交流を行なうことで、国際化に向けた私立大学の情報化の方向性を見いだすとともに、会員校教職員の視野と研鑽を深め次代を担う教職員の養成を図ることを目的として実施した。

名称	第5回海外セミナー(第3回アジアセミナー)「アジア諸国との連携と貢献」
開催国	日本
開催日	1998年8月26日(水)～28日(金)
開催目的	1998年度分科会合同研修会の実施に併せて、第三回アジアセミナーを行った。第一回アジアセミナー(1995年8月20日～26日、中国－日本キャンパスシステム研究会)で訪問した中国の大学の教職員を招待し、「アジア諸国との連携貢献」を目的として講演及び交流会を実施した。

名称	第6回海外セミナー(第4回アジアセミナー)「韓国先進大学システム視察」
開催国	大韓民国
開催日	2005年9月7日(水)～10日(土)
開催目的	韓国の代表的な大学等におけるIT利用事情の視察ならびに利用技術についての交流を行うことで、会員校教職員の視野と研鑽を深め、次代を担う教職員の養成を図ることを目的として実施した。

名称	第7回海外セミナー「フィンランド教育事情視察」
開催国	フィンランド共和国
開催日	2011年9月5日(月)～11日(日)
開催目的	海外セミナーにおいて訪れるフィンランドは、人口約500万人の小国であるが、ノキア社などの世界的企業を有するヨーロッパ内でも有数の経済大国かつ電子政府立国である。また、同時にOECD 生徒の学習到達度調査(PISA)において世界トップクラスの学力を誇る教育立国でもある。今回のセミナーは、フィンランドの教育現場の実情とIT利用事情の視察を行うことにより、会員校教職員ならびに賛助会員の方々の更なる視野拡大と次代を担う教職員の養成を図ることを目的として実施した。

情報戦略フォーラム実施一覧

名称	第1回情報戦略フォーラム
実施日/実施場所	2009年7月21日(火)/富士通汐留本社
特別講演	立命館大学 本間 政雄 氏 「経営戦略からみた情報戦略」
パネルディスカッション	「情報戦略を切り口とした経営戦略を考える」

名称	第2回情報戦略フォーラム
テーマ	「大学・研究機関における‘情報’の利活用戦略 ～改革の推進者は誰か～」
実施日/実施場所	2010年7月27日(火)/富士通汐留本社
基調講演	早稲田大学 深澤 良彰 氏 「大学における情報利活用のステークホルダーとその活用戦略」
事例紹介	金沢工業大学 福田 謙之 氏 「教育付加価値日本一を目指して(教育のシステム化)」 和歌山大学 小畑 力人 氏 「国立大と私立大の比較から大学の学生受け入れと広報戦略を考える」 富士通 利光 哲哉 氏 「IRに向けた情報分析と活用方法について」

名称	第3回情報戦略フォーラム
テーマ	「危機を乗り越える組織とは ～持続的な変革を目指して～」
実施日/実施場所	2011年8月2日(火)/富士通関西システムラボラトリ
基調講演	大阪府立大学 奥野 武俊 氏 「公立大学における人材育成～地域から世界へ～」
事例紹介	愛媛大学 秦 敬治 氏 「大学における戦略的人材育成の必要性和その事例」 富士通総研 古本 勉 氏 「東日本大震災をふまえた実践的な危機対応 ～大学における危機管理への取組みについて～」
パネルディスカッション	「組織にとっての危機管理と人材育成」

名称	第4回情報戦略フォーラム
テーマ	「ICTを活用した将来の教育研究現場とは～大学・研究所におけるICTの新動向を探る～」
実施日/実施場所	2012年8月21日(火)/富士通汐留本社
基調講演	東京大学 藤原 毅夫 氏 「理想の教科書Today-eTEXTの開発とICTを用いた教育改革」
事例紹介	横浜国立大学 徐 浩源 氏 「学生の学習行動見える化に向けた新たな取り組み～学びログとは」 芝浦工業大学 井上 雅裕 氏 「理工学教育におけるジェネリックスキル育成の新たな取り組みとアセスメント」 パワープレイス 濱村 道治 氏 「近未来の教育現場とは？」
パネルディスカッション	「将来の教育・研究の場をデザインする」

名称	第5回情報戦略フォーラム
テーマ	「大学はどこに向かう ～あらためて戦略を考える～」
実施日/実施場所	2013年8月6日(火)/富士通汐留本社
基調講演	東京大学 小林 雅之 氏 「大学ガバナンスの課題」
事例紹介	岡山大学 稗田 隆 氏 「情報統括による大学の見える化の推進」 明治大学 福原 美三 氏 「オープンエデュケーションの現状と今後の展望」
パネルディスカッション	「大学にイノベーションを起こす！」

名称	第6回情報戦略フォーラム
テーマ	「オープンエデュケーションが大学教育をどう変えていくのか？」
実施日/実施場所	2014年8月6日(水)/富士通汐留本社
基調講演	京都大学 飯吉 透 氏 「日本の教育に今何が欠けているのか？」
事例紹介	法政大学 児玉 靖司 氏 「ICTを用いたブレンデッド学習の新潮流」 慶應義塾大学 伊藤 健二 氏 「大学経営面から見たMOOCへの期待と可能性について」
富士通メッセージ	富士通 伊東 千秋 氏 「デジタルラーニング」
パネルディスカッション	「MOOCで伸びる大学、消える大学！？」

名称	第7回情報戦略フォーラム
テーマ	「クラウド化で大学の教育研究はどう変わるか？」
実施日/実施場所	2015年8月4日(火)/富士通汐留本社
講演	文部科学省 渡邊 和良 氏 「大学におけるクラウドの活用について」 国立情報学研究所 合田 憲人 氏 「大学・研究機関のためのクラウド導入・利用支援」 九州大学 村上 和彰 氏 「OACFJ (Open Academy by Cloud Foundation Japan) で大学はこう変わる」 富士通 太田 雅浩 氏 「富士通が考えるデジタルビジネスの世界」
パネルディスカッション	「大学の教育・研究・業務・運営の有り様がクラウドでどう変わるか？変えるべきか？」

名称	第8回情報戦略フォーラム
実施日/実施場所	2016年8月9日(火)/富士通汐留本社
講演	慶應義塾大学 中室 牧子氏 「教育に科学的根拠を」 上智大学 田村 恭久氏 「Learning Analyticsの概況と最新動向の紹介」 九州大学 緒方 広明氏 「教育データ科学による教育改革」 電気通信大学 柏原 昭博氏 「人工知能研究としてのラーニングテクノロジー開発」 九州大学 村上 和彰氏 「Fisdome: Freedom is Wisdom. 知は自由！～デジタルラーニング革命で創る教育の未来～」
パネルディスカッション	「教育の未来を創る！！」

名称	第9回情報戦略フォーラム
実施日/実施場所	2017年8月9日(水)/富士通汐留本社
講演	総務省政策統括官 谷脇 康彦氏 「データ主導社会とサイバーセキュリティ」
パネルディスカッション	「大学・研究機関におけるサイバーセキュリティを考える」～オープンとクローズ、組織と個人の視点から～

名称	第10回情報戦略フォーラム
実施日/実施場所	2018年8月1日(水)/富士通汐留本社
講演	Curtin University Professor Jill Downie 「Transforming Universities in the 21st Century: The Digital Age」
パネルディスカッション	「日本の大学をもっと元気に！」～変貌しつつける大学へのブレイクスルー～

名称	第11回情報戦略フォーラム
実施日/実施場所	2019年7月4日(木)/[東京]世界貿易センタービル [大阪]中之島ダイビル
講演	INIAD(東洋大学情報連携学部) 学部長 坂村 健氏
ワークショップ	自大学の情報戦略

名称	第12回情報戦略フォーラム
実施日/実施場所	2020年11月4日(水)/オンライン開催
講演	公立大学法人国際教養大学 理事長・学長 鈴木 典比古氏 「大学改革の進め方～ニューノーマル環境下の大学戦略」 富士通株式会社 中村 直樹氏 「富士通の考える大学DX～アフターコロナにおける大学ICTのあり方」

名称	第13回情報戦略フォーラム
テーマ	大学における戦略的DX
実施日/実施場所	2021年8月25日(水)/オンライン開催
講演	関西大学 副学長 藤田 高夫氏 「関西大学DX推進構想について」 - 関西大学グローバルスマートキャンパス構想を中心に - 富士通Japan 中村 直樹氏 「富士通の考える大学DX ～ニューノーマル時代の大学運営」

名称	第14回情報戦略フォーラム
実施日/実施場所	2022年8月24日(水)/オンライン開催
講演	香川大学 教授 八重樫 理人氏 「教職協働による香川大学のDX 推進」～香川大学デジタルONE構想～ 富士通Japanが考える大学DX対談 香川大学 × 富士通 Japan

名称	第15回情報戦略フォーラム
実施日/実施場所	2023年8月29日(水)/オンライン開催
講演	東海国立大学機構 情報戦略室長 森 健策氏 「デジタルユニバーシティ構想について」 富士通Japan 大串 吉正氏 「カーボンニュートラルのすゝめ」

名称	第16回情報戦略フォーラム
実施日/実施場所	2024年8月23日(金)/オンライン開催
講演	公立大学法人大阪理事・大阪公立大学副学長 高橋 哲也氏 「大学統合と地域の中核大学としての取り組みについて」 富士通Japan 命婦 嘉信氏 笈田 佳彰氏 「富士通の技術の顔「Global FDE」の取り組みと大学に求めること」

あ　と　が　き

あとがき

私立大学キャンパスシステム研究会

副会長 田中 俊介

(共立女子大学)

この度、私立大学キャンパスシステム研究会（CS研）が創立40周年という節目を迎えました。30周年記念誌に寄稿させていただいたのがまるで昨日のことに感じられます。あれから10年、この記念すべき40周年記念誌に再び携われることを嬉しく思います。

この10年、IT社会は目覚ましい進化を遂げ、その様相は一変しました。AI、IoT、ビッグデータといった技術が私たちの社会に深く浸透しました。産業構造はもちろん、教育、医療、行政のあり方さえも変えようとしています。大学も例外ではありません。教育・研究活動の高度化、そして大学運営全体のDXを加速せざるを得ない状況に直面しました。特に、コロナ禍におけるオンライン教育の急速な普及は激震でした。オンライン授業の実施、遠隔学習環境の整備、学生支援のオンライン化など.. 大学教育の現場は、文字通り、変革の嵐に巻き込まれました。この経験は、大学におけるDXの重要性を改めて認識させるとともに、今後の大学運営のあり方に、計り知れない示唆を与えてくれました。

大学教職員の役割も、もはや従来の延長線上にはありません。それぞれの専門分野における業務遂行能力に加え、全ての教職員がITリテラシーを持ち、それぞれの業務においてITを効果的に活用することが不可欠となっています。学生への学習支援を例にとっても、学習履歴、成績データ、アンケート結果等を分析し、個々の学生に最適な支援を提供するなどの対応が求められています。DX推進はまさに大学全体の変革です。単に新しいシステムを導入するだけではなく、業務プロセス全体を見直し、ITを前提とした新たな働き方を確立しなければなりません。CS研は、まさにこの変革の最前線に立ってきました。40年前、まだ黎明期だった大学の情報化を支えたのは、CS研のメンバーの熱意と知識でした。そして今、DXという新たな波を乗り越えようとしている大学を支えることができるのも、CS研のメンバーにおいて他にありません。これまで培ってきたノウハウとネットワークを活かし、大学職員のスキルアップ、そして大学のDX推進に貢献できると確信しています。

これから先の10年、Society 5.0、そしてAIが高度に発達した社会において、大学は知識伝達の間としての役割は過去のものとなり、生涯学習のニーズに応え、年齢や立場に関わらず、全ての人が学び続けることを支える存在へと、その姿を大きく変えようとしています。社会人の学び直し、地域社会との連携強化など 大学に求められる役割は、ますます多様化しています。これらの活動を通して、大学は地域社会の活性化に貢献するとともに、自らの存在意義を、社会の中で、改めて定義していく必要に迫られています。CS研は、この変革の時代をリードする存在となると確信しています。これからの教育を支える大学教職員の成長を支援し、大学の発展に貢献していく。そのために、CS研の持つ無限の可能性を最大限に活かしていくことを強く期待しています。

結びとなりますが、CS研の40年の歩みを支えてこられた全ての関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、今後の更なる発展を祈念し、あとがきといたします。

C S 研創立 4 0 周年記念誌

2025 年 6 月発行

発 行 私立大学キャンパスシステム研究会
URL <https://csis.ufinity.jp/csken/>

編 集 私立大学キャンパスシステム研究会役員会

〔連絡先〕 〒212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町 1-5 JR 川崎タワー

私立大学キャンパスシステム研究会事務局
E-mail : contact-csisken@cs.jp.fujitsu.com

発行責任者 私立大学キャンパスシステム研究会役員会
